

令和7年度  
兵庫県社会福祉協議会  
社会福祉研修概要

令和7年度実施計画及び令和6年度実施状況

社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会  
福祉人材研修センター

# 目 次

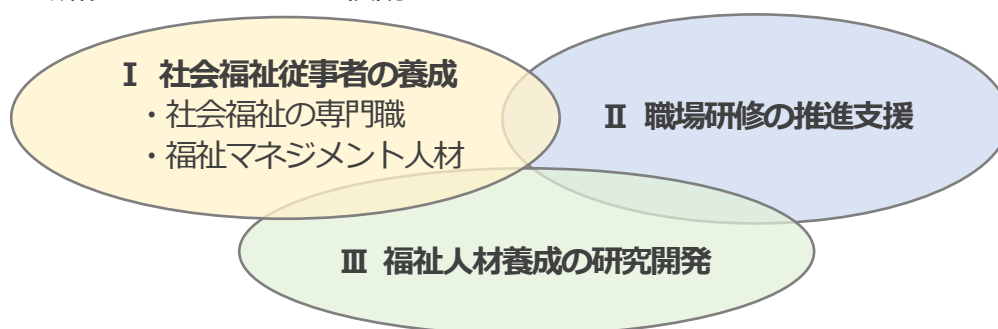
1	兵庫県福祉人材研修センターの役割と研修の方向性	1
2	兵庫県福祉人材研修センター研修体系	3
3	令和7年度 兵庫県社会福祉協議会 研修計画一覧	
	(1) 研修センター実施研修	5
	(2) 研修センター以外の各部署実施研修	10
4	令和6年度 兵庫県社会福祉協議会 研修実施状況	
	(1) 研修センター実施研修	12
	(2) 研修センター以外の各部署実施研修	16
	(3) 各研修の実施概要	
	① 研修センター実施研修	18
	② 研修センター以外の各部署実施研修	85
5	兵庫県福祉人材研修センター (概要)	130

# 1 兵庫県福祉人材研修センターの役割と研修の方向性

## 兵庫県福祉人材研修センターの役割

兵庫県福祉人材研修センター（以下、「研修センター」）は、福祉ニーズの質・量の増大に対応した福祉人材養成と社会福祉協議会の使命である地域福祉の推進という2つの観点から、県内の社会福祉従事者等を対象に研修を実施しています。

### ▼研修センターの3つの役割



I 社会福祉従事者の養成	社会福祉の専門性を高めるとともに、福祉組織の経営・マネジメントを担う人材養成をめざします
II 職場研修の推進支援	それぞれの福祉職場における職場研修の推進を支援します
III 福祉人材養成の研究開発	研修プログラムやテキスト・教材開発などに取り組みます

## 現行の研修体系の方向性

次の3つの方向性で研修を実施しています。

### 方向性Ⅰ | キャリア形成に資する体系的研修の推進・支援

研修の目的・目標をより明確にし、キャリア形成に資する人材養成が図られるよう、社会福祉従事者・役員に求められる職階別の役割及び資質等に関する標準モデルを設定しました。

このモデルでは、従来から提示してきた職階別に求められる資質を、「社会福祉の専門性」と「福祉マネジメントの専門性」に大別し、それぞれで必要となる資質・能力をより詳細に示しました。

### 方向性Ⅱ | 多職種・地域と協働できる専門職養成

利用者を生活の主体者として捉え、総合的に支援ができる社会福祉の専門性を身につける研修を実施します。具体的には、社会福祉の基本的な価値・理論を学ぶ基盤研修を充実するとともに、多職種・地域と協働できる専門職の養成を進めます。

### 方向性Ⅲ | 福祉マネジメント人材の養成

利用者の多様な生活課題に柔軟に応える社会福祉法人の自主的・自律的経営に向け、「経営計画」に基づくPDCAサイクルによるマネジメントの確立とOJTを中心とした人材養成の定着を大きなねらいとして研修を組み立てます。

## 研修体系に基づく研修の実施

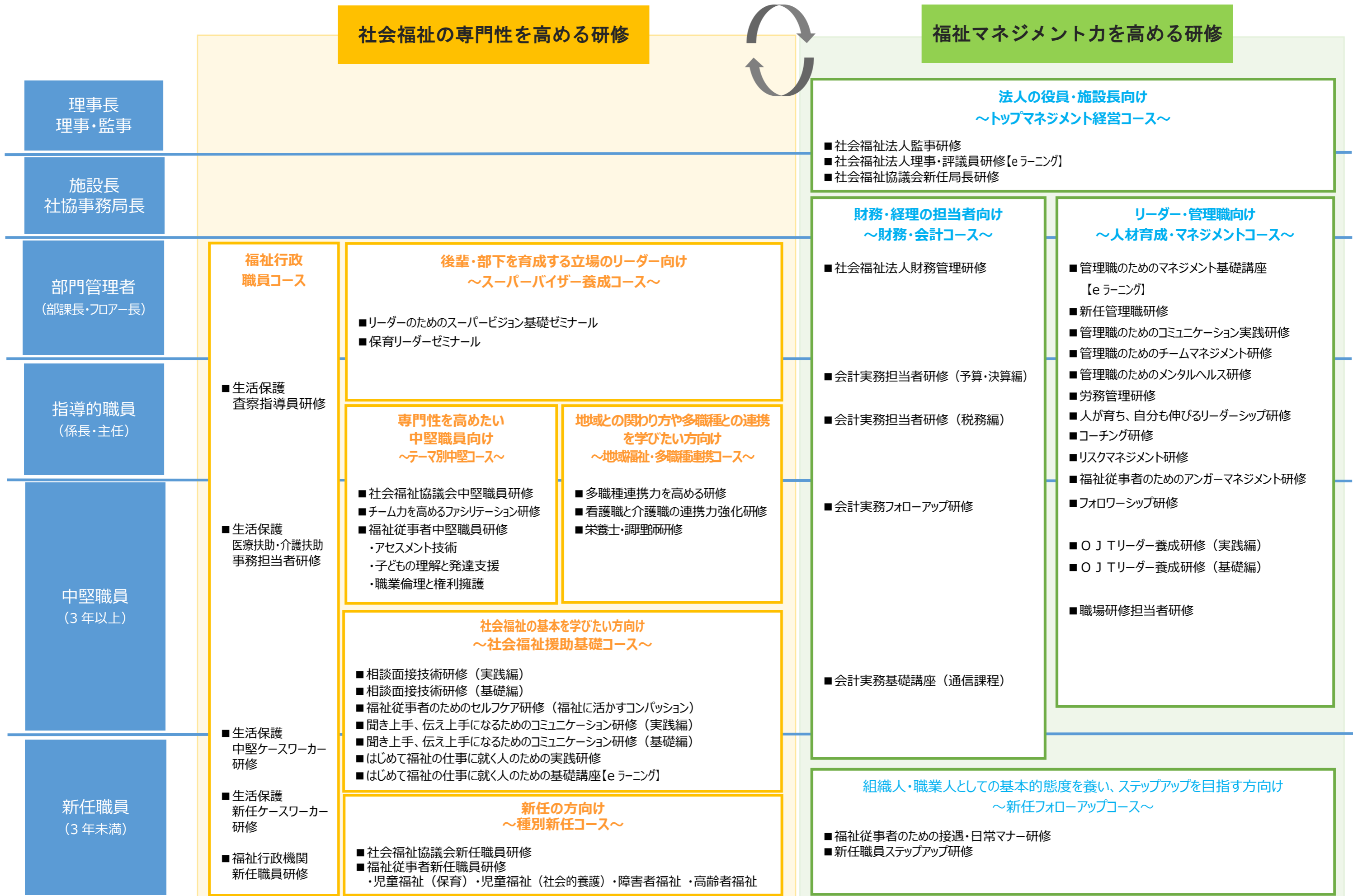
- 研修センターでは、研修体系に基づいて、階層別、テーマ別研修を計画的に実施します。
- 福祉従事者向け研修では、各研修の最後に現場での「行動目標」を設定する時間を設け、受講者からの研修評価項目に「関連度（どれくらい業務に関連していたか）」「有用度（どれくらい業務に活用できそうか）」を盛り込んで実施します。
- また、研修での学びを福祉現場での行動変容につなげるため、法人・事業所と連携し、約3ヵ月後に現場での実践状況を尋ねるフォローアンケートや受講者の上司に対する受講後の変化を尋ねるアンケート等もあわせて実施します。
- さらに、県内施設種別協議会・職能団体等、現場従事者と連携した協議の場づくり、情報共有を進め、現場実態に即した質の高い研修が提供されるよう充実を図ります。

## 職場研修の支援

- 各福祉職場における人材養成（＝職場研修）を推進するための支援を継続し、その充実を図ります。具体的には、「職場研修アドバイザー事業」（県からの受託事業）の活用を促進します。同事業では、研修センターの登録アドバイザーが直接職場を訪問し、職場研修の実施をサポートします。
- また、同事業で明らかになった成果を整理し、職場内研修に生かせるプログラムや資料を社会福祉施設・事業所に提供するとともに、同事業の継続実施に向け兵庫県との連携を引き続き図っていきます。

## 介護支援専門員の養成と資質の向上

- 地域包括ケアシステムにおいて重要な役割を果たす介護支援専門員の資質向上に向けて法定研修・自主研修の別を問わず体系的な研修の充実を図り、利用者主体の暮らしを支えるケアマネジメントに必要な価値・知識・技術の修得を支援します。
- 研修においては県内各地で活躍する介護支援専門員が講師として講義・演習指導を行います。実践で培われた専門的知見をもとによりわかりやすい指導が行えるよう、講師陣と研修センターが協働でシラバスづくりや教材開発も行き、理論と実践が融合した介護支援専門員の養成を推進します。



※体系表には介護支援専門員養成コースと受託研修は含んでいない

### 3 令和7年度 兵庫県社会福祉協議会 研修計画一覧

#### (1) 研修センター実施研修

(※) はオンラインを活用して開催  
2025.4月時点

(県指定管理研修)

種類	コース	研修名	主な研修対象	定員(人)	実施期日(予定)	研修のねらい(主な内容)	
福祉行政職員研修	福祉行政職員研修	生活保護	福祉行政機関新任職員研修	県・市町で福祉行政に従事する新任職員(経験2年未満)	70	5月23日	社会福祉の理念及び担当行政機関の職員に求められる姿勢、基礎知識、技術を理解する
			新任ケースワーカー研修	県・市福祉事務所等のケースワーカー(経験1年未満)	90	6月10日	生活保護制度の基本的事項、面接相談・相談援助に必要な知識、技術を理解する
			中堅ケースワーカー研修	県・市福祉事務所等のケースワーカー(経験1年以上)	70	11月	生活保護制度の適正な運営に必要な専門知識を理解する
			医療扶助・介護扶助事務担当者研修	県・市福祉事務所等の医療扶助・介護扶助事務担当者	45	8月	医療扶助・介護扶助の適正な運営に必要な専門知識を理解する
			査察指導員研修	県・市福祉事務所等の査察指導員	30	12月	生活保護ケースワーカーのスーパーバイザーとして必要な専門知識を理解する
5講座				305	—	—	
社会福祉事業従事者研修	種別新任	福祉従事者新任職員研修(児童福祉・保育)Aコース	保育所・認定こども園の新任保育士・保育教諭	80	5月30日	福祉施設業務に従事する上で必要な基礎知識、心構え等についての理論と実際を理解する	
		福祉従事者新任職員研修(児童福祉・保育)Bコース(※)		80	6月16日		
		福祉従事者新任職員研修(児童福祉・社会的養護)	児童福祉施設の新任職員	50	7月22日	福祉施設業務に従事する上で必要な基礎知識、心構え等についての理論と実際を理解する	
		福祉従事者新任職員研修(障害者福祉)Aコース(※)	障害者福祉施設・事業所の新任職員	80	5月16日	福祉施設業務に従事する上で必要な基礎知識、心構え等についての理論と実際を理解する	
		福祉従事者新任職員研修(障害者福祉)Bコース		80	6月24日		
		福祉従事者新任職員研修(高齢者福祉)Aコース(※)	高齢者福祉施設・事業所の新任職員	60	5月29日	福祉施設業務に従事する上で必要な基礎知識、心構え等についての理論と実際を理解する	
	福祉従事者新任職員研修(高齢者福祉)Bコース	60		6月26日			
	社会福祉援助基礎	はじめて福祉の仕事に就く人のための基礎講座(※)	社会福祉の基礎を学んだことのない職員または学び直したい職員	200	4~2月	社会福祉の理念、価値、倫理等、社会福祉に従事する職員に必要な考え方や基礎知識を理解する	
		はじめて福祉の仕事に就く人のための実践研修Aコース	社会福祉の基礎を学んだことのない職員または学び直したい職員	50	7月17日	社会福祉に従事する職員が、社会福祉の理念、価値、倫理等の知識を現場実践に応用するため、事例を題材にグループで演習を行い、体験的に理解する	
		はじめて福祉の仕事に就く人のための実践研修Bコース		50	11月27日		
	テーマ別中堅	福祉従事者中堅職員研修(アセスメント技術)	高齢・障害福祉施設・事業所の中堅職員	80	1月27日	利用者一人ひとりの特性とニーズを捉える方法に関する知識を理解し、事例検討を通じて実践を振り返る	
		福祉従事者中堅職員研修(子どもの理解と発達支援)(※)	児童福祉施設の中堅職員	80	6月6日	発達障害や気になる子ども一人ひとりの特性とニーズを捉える方法に関する知識を理解し、事例検討を通じて実践を振り返る	
		福祉従事者中堅職員研修(職業倫理と権利擁護)	福祉施設・事業所・社協等の中堅職員	80	8月19日	利用者の尊厳を尊重し、人権擁護を基本とした職業倫理等を理解し、事例検討を通じて実践を振り返る	
	9講座				1,030	—	—
	兵庫県指定管理研修 計14講座				1,335	—	—

(自主研修／社会福祉専門研修)

種類	コース	研修名	主な研修対象	定員(人)	実施期日(予定)	研修のねらい(主な内容)	
社会福祉事業従事者研修	種別新任	社会福祉協議会新任職員研修	市区町村協の新任職員	90	4月24日 4月25日	社協の理念と組織特性を総合的に学び、役割や使命、活動支援の必要性や当事者活動の意義等を理解する	
	社会福祉援助基礎	聴き上手、伝え上手になるためのコミュニケーション研修(基礎編)	福祉施設・事業所・社協等に勤務する新任職員(概ね1～3年目)	90	8月1日	コミュニケーションスキルの基礎知識や、相手を尊重しながら自分の意見を率直に伝える「アサーティブ・コミュニケーション」、新任職員に必要なメンタルヘルス等について理解する	
		聴き上手、伝え上手になるためのコミュニケーション研修(実践編)	福祉施設・事業所・社協等に勤務する新任・中堅職員	80	8月28日	他者とコミュニケーションを図り、コンセンサス、合意形成を図っていくための手法やプロセスについてグループでの演習を行い、体験的に理解する	
		福祉従事者のためのセルフケア研修～福祉に活かすコンパッション～	福祉施設・事業所・社協等に勤務し、関心のある職員	90	11月21日	自身の健康維持や仕事への意欲を高めるセルフ・コンパッション(自分自身を受け入れ、優しい気持ちを向ける力)を理解し、それらを高める様々なワークを通じて体験的に理解する	
		相談面接技術研修(基礎編)Aコース	福祉施設・事業所・社協・行政に勤務し、相談面接技術の基礎を学びたい職員	60	7月28日 7月29日	相談面接技術の基礎的な知識・技術を習得する	
		相談面接技術研修(基礎編)Bコース		60	1月22日 1月23日		
		相談面接技術研修(実践編)Aコース	福祉施設・事業所・社協・行政に勤務し、相談面接業務に携わる職員	24	7月25日 8月8日	相談面接に必要なとされる効果的な応答技法について実践的な技術を習得する	
		相談面接技術研修(実践編)Bコース		24	2月12日 2月26日		
	テーマ別中堅	社会福祉協議会中堅職員研修	市区町村協の中堅職員	70	9月19日	社協における中堅職員の役割や住民主体の地域づくりの実践について、実践事例を通じて理解する	
		チーム力を高めるファシリテーション研修	福祉施設・事業所・社協等の中堅・指導的職員	80	7月8日	チーム形成に役立つファシリテーション力の向上に必要な知識、技術を理解する	
	地域福祉・多職種連携	多職種連携力を高める研修	福祉施設・事業所・社協等の中堅・指導的職員	80	10月	多職種連携を進めるうえで押さえておくべき基本的な考え方や視点、役割等を理解する	
		看護職と介護職の連携力強化研修	福祉施設・事業所・社協等に勤務する看護職員・介護職員・相談支援業務に従事する職員	60	12月4日	地域包括ケアに向けた看護・介護の連携視点と多職種連携を理解する	
		栄養士・調理師研修	福祉施設・事業所・社協等に勤務する栄養士・調理師・介護職等の栄養管理や給食に携わる職員	80	2月	「食」を通じた利用者支援に向けて、現場での実践事例を通じて実践力・連携力向上を図る	
	スーパーバイザー養成	リーダーのためのスーパービジョン基礎ゼミナール	福祉施設・事業所・社協等に勤務する指導的職員	30	11月14日	スーパービジョンを体験し、スーパーバイズ(評価、助言、教育、指導、相談、支援)に必要な知識・技術を理解する	
					12月15日		
		保育リーダーゼミナール(※)	保育所・認定こども園で主任など指導的立場にある保育士・保育教諭	24	9月12日		保育所、認定こども園におけるリーダーとしての役割、スーパーバイズに必要な知識・技術を理解する
					10月17日 11月7日 12月19日		
	13講座				942	—	—

## (自主研修/福祉マネジメント研修)

種類	コース	研修名	主な研修対象	定員(人)	実施期日(予定)	研修のねらい(主な内容)
福祉マネジメント研修	人材育成・マネジメント	管理職のためのマネジメント基礎講座(※)	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー(係長、主任等)	220	4~2月	管理職に求められる仕事や役割、マネジメントの基本を学び、福祉事業の特徴や人材・部下育成のポイント等を理解する
		新任管理職研修	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職(0~3年目程度)	50	7月4日 8月7日	管理職に求められる仕事や役割を学び、自身の課題を見つめながら、現場での人材育成を通じた組織づくり等について、演習を通じて理解する
		管理職のためのコミュニケーション実践研修(新)	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー(係長、主任等)	90	10月9日	多様な職員(部下等)との日常の関わり方、面談場面での対話や指導が必要な際の伝え方(叱り方)等、管理職だからこそ必要となるコミュニケーションについて、演習を通じて理解する
		管理職のためのチームマネジメント研修(新)(※)	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー(係長、主任等)	90	9月	職場の関係性の発達、活性化により、働きやすい職場環境、チーム作りを進めるためのチームマネジメントのあり方について、演習を通じて理解する
		リスクマネジメント研修	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー(係長、主任等)	90	1月21日	虐待について理解し、虐待の未然防止・早期発見・対応方法等に関する知識を理解する
		管理職のためのメンタルヘルス研修	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー(係長、主任等)	90	8月22日	管理職・リーダーに求められるメンタルヘルスの知識を学び、職員への対応や管理職自身への対処などに関する現場で対応方法を理解する
		福祉従事者のためのアンガーマネジメント研修(※)	福祉施設・事業所、社協等の新任・中堅職員	90	10月28日	「怒りの感情」と向き合い、コントロールするための基礎知識と技術を理解する
		労務管理研修(※)	福祉施設・事業所、社協等に勤務する労務担当者、管理職	90	1月	円滑な組織運営のため、管理職、担当職員が知っておくべき労務管理の知識・技術を理解する
		人が育ち、自分も伸びるリーダーシップ研修 Aコース(※)	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー(係長、主任等)	90	6月9日	リーダーとしての基本的役割、課題把握の方法等を理解する
		人が育ち、自分も伸びるリーダーシップ研修 Bコース		90	9月18日	
		コーチング研修	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー(係長、主任等)	90	11月20日	リーダーに求められるコーチングの基本と実践手法を理解する
		職場研修担当者研修	職場研修企画担当者及び関心のある職員	50	11月5日	求められる職員像の明確化と職場研修全体像の構築・見直しを行うために必要な知識と手法等を理解する
		フォローアップ研修	福祉施設・事業所・社協等に勤務する中堅職員	90	5月26日	中堅職員がフォローアップ(上司やリーダーに効果的に従い、時にはその枠組みを超えて行動するプロセス)を発揮するために必要な知識・能力の高め方を理解する
		OJTリーダー養成研修(基礎編)	社会福祉施設・団体等に勤務する管理職・新任職員のOJTを担当する職員	90	7月3日	OJTの重要性を理解し、OJT担当者に求められる基本的な役割とその進め方を理解する
	OJTリーダー養成研修(実践編)	社会福祉施設・団体等で新任職員のOJTを担当する職員	60	7月24日 10月2日	OJTの実践ポイントと具体的な指導方法を理解し、現場での支援目標の立案と実践後の振り返りを通じて体験的に理解する	
	新任フォローアップ	福祉従事者のための接遇・日常マナー研修	福祉施設・事業所・社協等に勤務する新任職員(概ね1~3年目)	90	6月20日	対人援助サービスを基本とする福祉職場において、利用者や家族、職場の同僚等への基本的な接遇マナーや日常業務での対応やカスタマーハラスメントへの初期対応等を理解する
		新任職員ステップアップ研修	福祉施設・事業所・社協等に勤務する新任職員(概ね1~3年目)	90	12月8日	専門職、社会人、組織人として習得するべき仕事の基本姿勢とセルフマネジメントの基本を理解し、これから中堅職員としてステップアップする上での心構え等を理解する



福祉マネジメント研修	トップマネジメント経営	社会福祉協議会新任局長研修	市区町村協の事務局長等	20	4月24日	社協の理念と組織の特性を総合的に学ぶとともに、役割・使命と社協経営の基礎を理解する
		社会福祉法人理事・評議員研修 (R6研修録動画視聴) (※)	社会福祉法人の理事、評議員等	90	4~2月	社会福祉法人の理事・評議員に求められる制度やその役割等を理解する
		社会福祉法人監事研修	社会福祉法人の監事等	90	2月	社会福祉法人の監事に求められる制度や役割、監査時の留意点等を理解する
	財務・会計	会計実務基礎講座 (通信講座) (※)	社会福祉法人・施設・事業所、社協等の会計担当者等	70	6~11月	社会福祉法人会計に関する基礎知識を習得する
		会計実務フォローアップ研修 (※)	社会福祉法人・施設・事業所、社協等の会計担当者等	50	7月19日	社会福祉法人会計に関する基礎知識の定着を図るとともに、実務に必要な応用知識を習得する
		会計実務担当者研修 (税務編)	社会福祉法人・施設・事業所、社協等の会計責任者及び担当者	60	8月26日	社会福祉法人会計基準における税務会計の基礎知識や制度動向を理解する
		会計実務担当者研修 (予算・決算編)	社会福祉法人・施設・事業所、社協等の会計責任者及び担当者	90	12月4日	社会福祉法人会計基準における決算処理・予算編成のための知識や制度動向を理解する
		社会福祉法人財務管理研修	社会福祉法人・施設・事業所、社協等の管理職、リーダー、財務担当職員等	90	8~3月	社会福祉法人の財務三表 (資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表) の見方と財務分析方法に関する知識を習得する
	24講座			2,110	—	—
	自主研修 計37講座			3,052	—	—

※通信講座及びeラーニングの研修回数は1回、日数は1カ月単位で1日とカウント

(県委託研修)

種類	コース	研修名	主な研修対象	定員(人)	実施期日(予定)	研修のねらい(主な内容)
		ヤングケアラー・若者ケアラー支援研修	福祉、介護、教育、医療等の現場職員	170	11,12月	祖父母、父母、きょうだいなどへの介護や看護、日常生活上での世話などをするヤングケアラー(18歳未満の子ども)や若者ケアラー支援の基本理解と支援者間のネットワーク構築の進め方への理解
		1講座		170	—	—

(介護支援専門員研修)

種類	コース	研修名	主な研修対象	定員(人)	実施期日(予定)	研修のねらい(主な内容)
介護支援専門員養成	法定研修	介護支援専門員実務研修(後期) (※)	第27回 介護支援専門員実務研修受講試験合格者	750	4~7月	介護支援専門員に求められる基本的な価値(態度)、知識、技術を習得するため、15日間(87時間)の研修を実施する。
		介護支援専門員実務研修(前期) (※)	第28回 介護支援専門員実務研修受講試験合格者	460	1~3月	
		介護支援専門員更新研修B・再研修(※)	専門員証の交付を受けてから有効期間が満了するまでに実務経験を有しない介護支援専門員	820	4~8月	介護支援専門員として実務に就いていない者が実務に就く際に、必要となる価値(態度)、知識、技術を再修得するため、9日間(54時間)の研修を実施する。
		介護支援専門員専門研修課程I更新研修A(前期) (※)	実務経験6カ月以上の介護支援専門員	400	4~7月	事例検討を中心とした演習を通じ、専門職としての資質向上を図るため、価値(態度)、専門知識、技術を高める9日間(56時間)の研修を実施する。
		介護支援専門員専門研修課程II更新研修A(後期) (※)	実務経験3年以上の介護支援専門員	970	10~2月	事例研究を中心とした演習を通じ、専門職としての課題解決能力の向上を図るため、価値(態度)、専門知識、技術をさらに高める6日間(33.5時間)の研修を実施する。
	自主研修	介護支援専門員研修施設ケアマネジメント研修(※)	介護保険3施設及び特定施設入居者生活介護に従事している介護支援専門員	100	2~3月	施設における介護支援専門員の役割の理解と施設ケアプランを作成するために必要とされる知識、技術を習得するため、2日間(14時間)の研修を実施する。
5講座			3,500	—	—	
総計 57講座			8,057	—	—	

(介護支援専門員実務研修受講試験)

名称	対象	定員 (人)	実施期日	ねらい
第28回介護支援専門員実務研修受講試験	保健・医療・福祉に関する国家資格及び都道府県知事資格に基づく当該資格に係る業務に従事する者	3,000	10月12日	介護支援専門員の養成にあたり、事前に必要な基礎知識などを有することを確認するために実施

(2) 研修センター以外の各部署実施研修

2025.4月時点

担当部	研修名	主な研修対象	定員(人)	実施期日回数等(予定)	研修のねらい(主な内容)
企画部	社会福祉情勢セミナー	県内市区町社協、社会福祉法人・施設、職能団体の役職員等	100	11月	地域共生社会の実現を念頭に、社会福祉に関する最新の情勢や政策動向を学ぶことで、政策提言活動の充実を図る
地域福祉部	トップマネジメントセミナー(県内社協会長会議)	県内市区町社協会長	50	1回	地域福祉の情勢や課題を踏まえ、市町社協の基盤強化に向けた取り組みについて検討協議を行う
	社協経営セミナー	県内市区町社協事務局長等	80	2回	市町社協の経営改善に向けた主体的な取り組みを促進する
	包括的支援体制づくりセミナー	県内市区町行政・市町社協	100	1回	市町における包括的支援体制づくりの推進を図る
	県内社協地域福祉担当者研修	県内市区町社協	80	2回	市町社協のコミュニティワーカーを育成する
	生活支援コーディネーター養成セミナー(基礎・実践・フォローアップ)	生活支援コーディネーター	80	3回	住民とともに地域づくりをすすめる生活支援コーディネーターを養成する
福祉事業部	経営計画普及セミナー	社会福祉法人の理事長、役員(特に小規模・中規模法人をターゲットとする)	100	8月	経営計画策定法人の実践報告を交えながら、計画策定意義や必要性の普及促進を図る
	リスクマネジメント研修	県内福祉サービス事業者役職員等	100	2月	福祉サービスの質の向上を目指し、事故予防等の取り組みの強化を図る
	ほっとかへんネット実践交流会	社会福祉法人の役職員	100	2回	ほっとかへんネットの実践を持ち寄り、活動のヒントとなるようなテーマでの研修・交流会を実施する
福祉人材部	福祉人材確保・定着力向上研修	福祉施設・事業所の人事・採用担当者	100	11月	福祉人材の確保・定着の強化を図るため、採用や定着のためのノウハウを習得する
福祉資金部	生活福祉資金基礎研修会	生活福祉資金貸付事業新任担当者・現任担当者	-	4月	生活福祉資金新任担当者・既担当者も対象とし、生活福祉資金の成り立ちや制度の理解、及び、貸付を通じた支援のための基礎的技量の獲得を目指す
	相談支援スキルアップ研修会(生活福祉資金担当者研修)	生活福祉資金担当者、ほっとかへんネットワーク及び担当管理職員	-	3回	ほっとかへんネットワーク養成の一環、生活福祉資金担当者の相談支援の質の向上を図る
権利擁護センター	日常生活自立支援事業新任専門員研修会	日常生活自立支援事業の新任専門員・担当者	-	5月	活動上必要な基本理念や知識及び事務手続きを学び、支援の視点や技術を身につける
	日常生活自立支援事業専門員研修会	日常生活自立支援事業の専門員・担当者	-	9月	専門員の職務、業務において必要となる事項、個別ケースの援助能力を高めるための実践につながる知識や技術を学ぶ
	日常生活自立支援事業生活支援員研修会	日常生活自立支援事業の生活支援員・担当者	-	10月	生活支援員としての役割と利用者に関わるうえで必要な基本姿勢を学ぶ
ひょうごボランティア	災害ボランティアコーディネーター養成研修(基礎編)	市区町社協職員、行政職員、NPO・関係団体職員	70	未定	大規模災害発生時における三者(行政、社協、NPO等)の連携の重要性を学ぶ
	災害ボランティアコーディネーター養成研修(応用編)	市区町社協職員	40	未定	市区町社協の災害救援担当者等が災害ボランティアセンターの運営方法等について学ぶ
介護実習支援センター	外国人介護人材受入促進セミナー	介護事業所等の職員	30	未定	各種制度の紹介・解説、受入施設の事例発表等のセミナーを開催し、外国人介護人材の円滑な受け入れを促進する
	日本文化講習会	外国人介護技能実習生等	30	8月、3月	外国人介護技能実習生等の日本文化理解を促進する
	技能実習生等受入施設職員研修	外国人介護技能実習生等の受入施設職員	30	9月、3月	外国人介護技能実習生等に対する日本語教育の方法、効果的なOJTを学ぶ
	日本語能力評価研修	外国人介護技能実習生等	80	10月	日本語能力試験の合格に向けた模擬試験実施とその解説を行う
	介護の日本語研修	外国人介護技能実習生等	40	2月	介護現場での円滑な就労・定着を図るための「介護の日本語」を学ぶ
	外国人介護人材のための介護技術向上研修	外国人介護技能実習生等	30	12月	介護福祉士国家資格取得支援のため、介護福祉士国家試験模擬試験実施とその解説を行う
運営適正化委員会	苦情解決セミナー	県内福祉サービス提供事業所の苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員等	180	2回	県内の福祉サービス提供事業所における苦情解決の仕組みの構築と円滑な苦情処理の方法を学ぶ

兵庫県地域包括・在宅介護 支援センター (地域福祉部)	講演会	地域包括支援センター、在宅介護 支援センター職員	-	1回	最新の情勢動向、今後の展望・展開方策等を検討す る
	職員研修会 (新任・現任)	地域包括支援センター、在宅介護 支援センター職員	60	3回	地域包括支援センター・在宅介護支援センターとし て求められる役割・機能を理解し、制度動向や実践 に必要な知識技術を学ぶ
兵庫県ホームヘルプ 事業者協議会 (地域福祉部)	管理者研修	事業管理者	60	1回	事業管理者として取り組むべき課題と対応策を学ぶ
	サービス提供責任者研修	サービス提供責任者	60	2回	サービス提供責任者の資質向上を図る
兵庫県社会福祉法人 経営者協議会 (福祉事業部)	社会福祉法人経営トップセミナー	社会福祉法人の理事長、役員等	100	12月	社会福祉法人が目指す方向性や各種制度改革への対 応課題について研究協議する
	社会福祉法人のための財務セミナー	社会福祉法人の理事長、役員等	100	1月	社会福祉法人が目指す方向性や各種制度改革への対 応課題について研究協議する
	青年協議会： 社会福祉法人経営計画策定 リーダー養成ゼミナール	社会福祉法人の若手経営者及び幹 部職員等	10法人	9月～2月	改正社会福祉法の内容を着実に実行し、経営基盤の 強化を図るため、経営計画策定支援を通して、社会 福祉法人の経営力を高める
	青年協議会： 定例研修会		80	8月、2月	各種社会福祉制度改革の動向や法人・施設経営に関 する課題、マネジメント手法等を学ぶことを通した 会員相互の研鑽と資質向上を図る
青年協議会： 視察研修	20		9月	会員同士の横の繋がりを緊密にすることを目的と し、県内法人の視察し、地域や種別を問わず様々な 社会福祉法人の取組みを学ぶ	

## 4 令和6年度 兵庫県社会福祉協議会 研修実施状況

### (1) 研修センター実施研修

(※) はオンラインを活用して開催

(県指定管理研修)

コース	研修名	主な研修対象	受講人数	実施期日	研修のねらい	ページ	
福祉行政職員研修	福祉行政機関新任職員研修	県及び市町で福祉行政に従事する新任職員	38	5月20日	社会福祉の理念及び担当行政機関の職員に求められる姿勢、基礎知識、技術を理解する	18	
	生活保護	新任ケースワーカー研修	県・市福祉事務所等のケースワーカー（経験1年未満）	102	6月27日	生活保護制度の基本的事項、面接相談・相談援助に必要な知識・技術を理解する	19
		中堅ケースワーカー研修	県・市福祉事務所等のケースワーカー（経験1年以上）	56	12月16日	生活保護制度の適正な運営に必要な専門知識を理解する	20
		医療扶助・介護扶助事務担当者研修	県・市福祉事務所等の医療扶助・介護扶助事務担当者	22	8月22日	医療扶助・介護扶助の適正な運営に必要な専門知識を理解する	21
		査察指導員研修	県・市福祉事務所等の査察指導員	20	2月28日	生活保護ケースワーカーのスーパーバイザーとして必要な専門知識を理解する	22
種別新任	福祉従事者新任職員研修（児童福祉・保育 Aコース）(※)	保育所・認定こども園の新任保育士・保育教諭	39	5月24日	福祉施設業務に従事する上で必要な基礎知識、心構え等についての理論と実際を理解する	23	
	福祉従事者新任職員研修（児童福祉・保育 Bコース）(※)		35	6月18日			
	福祉従事者新任職員研修（児童福祉・社会的養護）	児童養護施設等の新任職員	47	7月9日		24	
	福祉従事者新任職員研修（障害者福祉 Aコース）	障害者福祉施設・事業所の新任職員	61	5月27日		25	
	福祉従事者新任職員研修（障害者福祉 Bコース）(※)		41	6月24日			
	福祉従事者新任職員研修（高齢者福祉 Aコース）	高齢者福祉施設・事業所の新任職員	28	5月28日		26	
	福祉従事者新任職員研修（高齢者福祉 Bコース）(※)		21	6月25日			
援社会基礎福祉	はじめて福祉の仕事に就く人のための研修（基礎編 Aコース）(※)	福祉行政機関、社会福祉施設・事業所等職員で、社会福祉の基礎教育を受けていない職員	53	6月20日	社会福祉の理念、価値、倫理等、社会福祉に従事する職員として必要な考え方や基礎知識を理解する	27	
	はじめて福祉の仕事に就く人のための研修（基礎編 Bコース）(※)		30	10月29日			
	はじめて福祉の仕事に就く人のための研修（実践編 Aコース）	福祉行政機関、社会福祉施設・事業所等職員で、社会福祉の基礎教育を受けていない職員	41	7月31日	社会福祉に従事する職員が、社会福祉の理念、価値、倫理の知識を現場での実践に応用するため、事例検討等を通じて体験的に理解する	28	
	はじめて福祉の仕事に就く人のための研修（実践編 Bコース）		42	11月25日			
テーマ別中堅	福祉従事者中堅職員研修（アセスメント技術）	高齢・障害福祉施設・事業所の中堅職員	34	1月28日	利用者一人ひとりの特性とニーズを捉える方法に関する知識を理解し、事例検討を通じて実践を振り返る	29	
	福祉従事者中堅職員研修（子どもの理解と発達支援）	児童福祉施設の中堅職員	41	6月11日	発達障害や気になる子ども一人ひとりの特性とニーズを捉える方法に関する知識を理解し、事例検討を通じて実践を振り返る	30	
	福祉従事者中堅職員研修（職業倫理と権利擁護）	社会福祉施設・事業所の中堅職員	64	8月20日	利用者の尊厳を尊重し、人権擁護を基本とした職業倫理等を理解し、事例検討を通じて実践を振り返る	31	
県指定管理研修		14講座	815	—	—	—	

## (自主研修)

コース	研修名	主な研修対象	受講人数	実施期日	研修のねらい	ページ		
種別 新任	社会福祉協議会新任職員研修	県内市区町村協新任職員	92	4月22日	社協の理念と組織特性を総合的に学び、役割や使命、活動支援の必要性や当事者活動の意義等を理解する	32		
				4月23日				
援助会 基礎社	聴き上手、伝え上手になるためのコミュニケーション研修(基礎編)	福祉施設・事業所・社協等に勤務する新任職員(概ね1~3年目)	88	8月7日	コミュニケーションスキルの基礎知識を学び、相手を尊重しながら自分の意見を率直に伝えるアサーティブ・コミュニケーションや新任職員として知っておきたいメンタルヘルス等について理解する	33		
	聴き上手、伝え上手になるためのコミュニケーション研修(実践編)	福祉施設・事業所・社協等に勤務する新任・中堅職員	59	8月29日	他者とのコミュニケーションを通して、コンセンサス、合意形成を図っていくための手法、プロセス等について、グループでの演習を通じて体験的に理解する	34		
	福祉従事者のためのセルフケア研修 ~福祉に活かすコンパッション~	福祉施設・事業所・社協等に勤務し、関心のある新任及び中堅職員	41	9月19日	自身の健康維持や仕事への意欲を高めるセルフ・コンパッション(自分自身を受け入れ、優しい気持ちを向ける力)を理解し、それらを高めるワークを通じて体験的に理解する	35		
	相談面接技術研修(基礎編 Aコース)	福祉施設・事業所・社協・行政に勤務し、相談面接技術の基礎を学びたい職員	55	7月22日	相談面接技術の基礎的な知識・技術を習得する	36		
	相談面接技術研修(基礎編 Bコース)			42			7月23日	
	相談面接技術研修(実践編 Aコース)	福祉施設・事業所・社協・行政に勤務し、相談面接業務に携わる職員	24				1月23日	相談面接に必要とされる効果的な応答技法について実践的な技術を習得する
				1月24日				
相談面接技術研修(実践編 Bコース)	23	7月26日	2月13日					
		2月27日						
テーマ別 中堅	社会福祉協議会中堅職員研修(新)	市区町村社協の中堅職員	20	2月21日	社協職員に求められる地域支援に関する基本的な価値、知識や技術等を理解する	38		
	チーム力を高めるファンリテーション研修	福祉施設・事業所・社協等の中堅・指導的職員	77	7月17日	チーム形成に役立つファンリテーション力の向上に必要な知識、技術を理解する	39		
職種・業種別	多職種連携力を高める研修(新)	福祉施設・事業所・社協等の中堅・指導的職員	29	1月14日	多職種連携を進めるうえで押さえておくべき基本的な考え方や視点、役割等を理解する	40		
	看護職と介護職の連携強化研修	社会福祉施設・事業所等に勤務する看護職員・介護職員・相談支援業務に従事する職員	52	12月3日	地域包括ケアに向けた看護・介護の連携視点と多職種連携を理解する	41		
	栄養士・調理師研修	社会福祉施設・事業所等に勤務する栄養士・調理師・介護職等の栄養管理や給食に携わる職員	38	2月6日	「食」を通じた利用者支援に向けて、現場での実践事例を通じて実践力・連携力向上を図る	42		
スーパーバイザー 養成	リーダーのためのスーパービジョン基礎ゼミナール(新)	福祉施設・事業所・社協等に勤務する指導的職員	15	10月24日	スーパービジョンを体験し、スーパーバイズ(評価、助言、教育、指導、相談、支援)に必要な知識・技術を理解する	43		
				11月19日				
				12月18日				
				1月21日				
保育リーダーゼミナール(※)	保育所・認定こども園で主任など指導的立場にある保育士	11	9月13日	保育所、認定こども園におけるリーダーとしての役割、スーパーバイズに必要な知識・技術を理解する	45			
			10月18日					
			11月22日					
			12月20日					
人材育成・マネジメント	管理職のためのマネジメント基礎講座(※)	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー(係長、主任等)	97	4月18日~3月20日	管理職に求められる仕事や役割、マネジメントの基本的事項の理解とともに、福祉事業の特徴や人材・部下育成のポイント等を理解する	47		
	新任管理職研修	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職(0~3年目程度)	37	7月5日	管理職に求められる基本的事項を押さえ、管理職として現場で実践する組織マネジメント手法等を理解する	48		
				8月2日				
	管理職のためのマネジメント実践研修	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー	23	3月6日	法人理念の実現に向け、安定的・継続的に取組を継続していくためのマネジメント力や協働を高める発信力の向上等を目指した視点等を理解する	49		
	リスクマネジメント研修	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー	52	10月4日	虐待について理解し、虐待の未然防止・早期発見・対応方法等に関する知識を理解する	50		
管理職のためのストレスケア研修	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー	29	9月11日	管理職に求められるストレスマネジメント(部下へのラインケアや管理職自身のセルフケア)に必要な知識・技術を理解する	51			

人材育成・マネジメント	管理職のためのアンガーマネジメント・ハラスメント研修	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー	34	12月13日	「怒りの感情」と向き合い、コントロールするための知識と技術を学び、それを生かした管理職としての対応のあり方や組織におけるハラスメント防止への応用方を理解する	52
	福祉従事者のためのアンガーマネジメント研修	福祉施設・事業所、社協等の新任・中堅職員	54	12月9日	「怒りの感情」と向き合い、コントロールするための基礎知識と技術を理解する	53
	職場定着研修(※)	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー	36	10月16日	職場定着率を高めるためにリーダーとして出来る組織づくりのための知識・技術を理解する	54
	労務管理研修(※)	福祉施設・事業所、社協等に勤務する労務担当者、管理職	63	1月31日	円滑な組織運営のため、管理職、担当職員が知っておくべき労務管理の知識・技術を理解する	55
	人が育ち、自分も伸びるリーダーシップ研修(※)～信頼され安心感を与えるリーダーになるためのポイント～	福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職・リーダー	54	6月10日	リーダーとしての基本的役割、課題把握の方法等を理解する	56
			49	2月20日		57
	コーチング研修	社会福祉施設・団体等に勤務する管理職・現場リーダー(係長や主任等)	74	11月13日	リーダーとしての基本的役割、課題把握の方法等を理解する	58
	職場研修担当者研修	職場研修企画担当者及び関心のある職員	32	11月20日	求められる職員像の明確化と職場研修全体像の構築・見直しを行うために必要な知識と手法等を理解する	59
	フォローアップ研修	福祉施設・事業所・社協等に勤務する中堅職員	67	5月15日	中堅職員がフォローアップ(上司やリーダーに効果的に従い、時にはその枠組みを超えて行動するプロセス)を發揮するために必要な知識・能力の高め方を理解する	60
	OJTリーダー養成研修(基礎編)	社会福祉施設・団体等に勤務する管理職・新任職員のOJTを担当する職員	95	7月4日	OJTの重要性を理解し、OJT担当者に求められる基本的な役割とその進め方を理解する	61
OJTリーダー養成研修(実践編)	社会福祉施設・団体等で新任職員のOJTを担当する職員	65	7月25日	OJTの実践ポイントと具体的な指導方法を理解し、現場での支援目標の立案と実践後の振り返りを通じて体験的に理解する	62	
			10月3日			
フォローアップ	新任職員ステップアップ研修	福祉施設・事業所・社協等に勤務する新任職員(概ね1～3年目)	91	11月8日	専門職、社会人、組織人として習得するべき仕事の基本姿勢とセルフマネジメントの基本を理解し、これから中堅職員としてステップアップする上での心構え等を理解する	63
トップマネジメント経営	社会福祉協議会新任局長研修	市区町村協の事務局長等	8	4月22日	社協の理念と組織の特性を総合的に学ぶとともに、役割・使命と社協経営の基礎を理解する	64
	社会福祉法人理事・評議員研修(※)	社会福祉法人の理事、評議員等	11	3月4日	社会福祉法人の理事・評議員に求められる制度やその役割等を理解する	65
	社会福祉法人監事研修(※)	社会福祉法人の監事等	6	5月7日～1月21日	社会福祉法人の監事に求められる制度や役割、監査時の留意点等を理解する	66
財務・会計	会計実務基礎講座(通信講座)(※)	社会福祉法人・施設・事業所、社協等の会計担当者等	63	6月～11月	社会福祉法人会計に関する基礎知識を習得する	67
	会計実務フォローアップ研修(※)	社会福祉法人・施設・事業所、社協等の会計担当者等	44	7月19日	社会福祉法人会計に関する基礎知識の定着を図るとともに、実務に必要な応用知識を習得する	68
	会計実務担当者研修(税務編)	社会福祉法人・施設・事業所、社協等の会計責任者及び担当者	59	8月26日	社会福祉法人会計基準における税務会計の基礎知識や制度動向を理解する	69
	会計実務担当者研修(予算・決算編)		44	12月4日	社会福祉法人会計基準における決算処理・予算編成のための知識や制度動向を理解する	70
	社会福祉法人財務管理講座(※)	社会福祉法人・施設・事業所、社協等の管理職、リーダー、財務担当職員等	20	9月10日～3月31日	社会福祉法人の財務三表(資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表)の見方と財務分析方法に関する知識を習得する	71
自主研修		37講座	1,873	—	—	—

## (県委託研修)

コース	研修名	主な研修対象	受講人数	実施期日	研修のねらい	ページ
ヤングケアラー・若者ケアラー支援研修	ヤングケアラー・若者ケアラー支援研修	福祉、介護、教育、医療等の現場職員	53	11月26日	祖父母、父母、きょうだいなどへの介護や看護、日常生活上での世話などをするヤングケアラー(18歳未満の子ども)や若者ケアラー支援の基本理解と支援者間のネットワーク構築の進め方への理解	72
			58	12月6日		
委託研修		1講座	111	—	—	—
小計(52)=県指定管理研修(14)+自主研修(37)+委託研修(1)			2,799	—	—	—

(介護支援専門員研修)

コース	研修名		主な研修対象	受講人数	実施期日	研修のねらい	ページ
介護支援専門員養成	介護支援専門員実務研修(※)	後期	第26回 介護支援専門員実務研修受講試験合格者	535	4月11日 ～7月16日	介護支援専門員に求められる基本的な価値(態度)、知識、技術を習得するため、15日間(87時間)の研修を実施する。	74
		前期	第27回 介護支援専門員実務研修受講試験合格者	710	1月9日 ～3月15日		
	介護支援専門員更新研修B・再研修(※)		専門員証の交付を受けてから有効期間が満了するまでに実務経験を有しない介護支援専門員	734	4月10日 ～8月22日	介護支援専門員として実務に就いていない者が実務に就く際に、必要となる価値(態度)、知識、技術を再修得するため、9日間(54時間)の研修を実施する。	77
	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ更新研修A(前期)(※)		実務経験6カ月以上の介護支援専門員	383	4月17日 ～7月26日	事例検討を中心とした演習を通じ、専門職としての資質向上を図るため、価値(態度)、専門知識、技術を高める9日間(56時間)の研修を実施する。	79
	介護支援専門員専門研修課程Ⅱ更新研修A(後期)(※)		実務経験3年以上の介護支援専門員	1,325	10月8日 ～2月26日	事例研究を中心とした演習を通じ、専門職としての課題解決能力の向上を図るため、価値(態度)、専門知識、技術をさらに高める6日間(33.5時間)の研修を実施する。	81
	介護支援専門員研修施設ケアマネジメント研修(※)		介護保険3施設及び特定施設入居者生活介護に従事している介護支援専門員	109	3月4日 3月5日 3月18日 3月19日	施設における介護支援専門員の役割の理解と施設ケアプランを作成するために必要とされる知識、技術を習得するため、2日間(14時間)の研修を実施する。	83
介護支援専門員研修			5講座	3,796	—	—	—

合計	57講座(14+37+1+5)	6,595	—	—	—
----	-----------------	-------	---	---	---

名称	対象	実受験者数(人)	実施期日	ねらい	ページ
第27回介護支援専門員実務研修受講試験	保健・医療・福祉に関する国家資格及び都道府県知事資格に基づく当該資格に係る業務に従事する者	2,522	10月13日	介護支援専門員の養成にあたり、事前に必要な基礎知識などを有することを確認するために実施	84



## (2) 研修センター以外の各部署実施研修

(※) はオンラインを活用して開催

担当部	研修名	主な研修対象	受講人数	実施期日	研修のねらい(主な内容)	ページ
企画部	社会福祉情勢セミナー	県内市区町社協、社会福祉法人・施設、職能団体の役員等	76	11月27日	地域共生社会の実現を念頭に、社会福祉に関する最新の情勢や政策動向を学ぶことで、政策提言活動の充実を図る	85
地域福祉部	トップマネジメントセミナー(県内社協会長会議)	県内市区町社協会長	44	9月11日	地域福祉の情勢や課題を踏まえ、市町社協の基盤強化に向けた取り組みについて検討協議を行う	86
	社協経営セミナー	県内市区町社協事務局長等	20	2月4日	市町社協の経営改善に向けた主体的な取り組みを促進する	87
	包括的支援体制づくりセミナー	県内市区町行政・市町社協	79	10月11日	市町における包括的支援体制づくりの推進を図る	88
	生活支援コーディネーター養成セミナー(基礎)	生活支援コーディネーター	53	7月1日 7月2日	住民とともに地域づくりをすすめる生活支援コーディネーターを養成する	90
	生活支援コーディネーター養成セミナー(実践)		126	12月16日		92
	生活支援コーディネーター養成セミナー(フォローアップ)		48	2月6日		94
福祉事業部	経営計画普及セミナー(※)	社会福祉法人の理事長、役員(特に小規模・中規模法人をターゲットとする)	24	8月9日	経営計画策定法人の実践報告を交えながら、計画策定意義や必要性の普及促進を図る	96
	リスクマネジメント研修	県内福祉サービス事業者役員等	52	3月7日	福祉サービスの質の向上を目指し、事故予防等の取り組みの強化を図る	97
	ほっとかへんネット実践交流会	社会福祉法人の役員、社会福祉協議会の職員	65 61	8月23日 3月10日	ほっとかへんネットの実践を持ち寄り、活動のヒントとなるようなテーマでの研修・交流会を実施する	98 99
福祉人材部	福祉人材確保・定着力向上研修	福祉施設・事業所の人事・採用担当者	170	12月17日	福祉人材の確保・定着の強化を図るため、採用や定着のためのノウハウを習得する	100
福祉資金部	生活福祉資金基礎研修会	生活福祉資金貸付事業新任担当者・現任担当者	55	4月16日	生活福祉資金新任担当者・既担当者も対象とし、生活福祉資金の成り立ちや制度の理解、及び、貸付を通じた支援のための基礎的技量の獲得を目指す	101
	相談支援スキルアップ研修会(生活福祉資金担当者研修)	生活福祉資金担当者、ほっとかへんネットワーカー及び担当管理職員	37	8月5日	ほっとかへんネットワーカー養成の一環、生活福祉資金担当者の相談支援の質の向上を図る	102
			58	8月27日		
63	10月21日					
権利擁護センター	日常生活自立支援事業新任専門員研修会	日常生活自立支援事業の新任専門員・担当者	24	5月1日	新任の専門員・担当者が、活動上必要な事業の枠組みや専門員・生活支援員の役割等について理解を深める	103
	日常生活自立支援事業専門員研修会	日常生活自立支援事業の事業管理者、専門員・担当者	38	1月21日	日常生活自立支援事業の適正な運営確保について、業務監督の考え方、内部けん制の重要性、予防のための取り組みについて学ぶ	104
	日常生活自立支援事業生活支援員研修会	日常生活自立支援事業の生活支援員・専門員・担当者	81	11月14日	日常生活自立支援事業について理解を深め、生活支援員の役割を再確認するとともに、利用者に関わるうえでの心構えについて学ぶ。また、他市町の生活支援員と悩みや工夫、知恵を共有することで、今後の支援活動へのヒントを得る	105
ひょうごボランティアプラザ	災害ボランティアコーディネーター養成研修(基礎編)	市区町社協職員、行政職員、NPO・災害ボランティア活動支援関係団体連絡会議構成委員	103	12月25日	「大規模災害を想定した災害ボランティア連携訓練」と併せて実施し、被災者一人ひとりの自立した生活再建を目指す取組である「災害ケースマネジメント」を学び、支援の連携を考え、平時からの取組について考える。	106
	災害ボランティアコーディネーター養成研修(応用編)	市区町社協職員、災害ボランティア活動支援関係団体連絡会議構成委員	90	9月4日	県内で大規模災害が発生した際、災害ボランティアが最大限の力を発揮できるよう、平時からの相互ネットワークの強化を図るため「災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議」と合同開催。令和6年能登半島地震における支援活動や被災地の受援体制の様子から、様々な課題や困難を共有し、自団体における体制整備や支援の連携強化を図る。	107

担当部	研修名	主な研修対象	受講人数	実施期日	研修のねらい(主な内容)	ページ
介護実習支援センター ひょうご外国人	外国人介護人材受入促進セミナー	介護事業所等の職員	80	9月18日	各種制度の紹介・解説、受入施設等の事例発表等のセミナーを開催し、外国人介護人材の円滑な受け入れを促進する	108
				1月24日		
				3月18日		
				3月19日		
	日本文化講習会	外国人介護職員	119	8月23日	外国人介護職員の日本文化理解を促進する	110
				3月12日		
	外国人介護職員の受入施設職員研修	外国人介護職員の受入施設職員	11	9月11日	外国人介護職員が活躍できる職場環境づくりや、外国人介護職員に対する日本語教育の方法、効果的なOJTを学ぶ	111
			33	12月3日		112
			46	3月10日		
	日本語能力評価研修	外国人介護職員	78	11月5日	日本語能力試験の合格に向けた模擬試験実施とその解説を行う	113
11月6日						
11月11日						
11月12日						
介護の日本語研修	外国人介護職員	52	2月4日	介護現場での円滑な就労・定着を図るための「介護の日本語」を学ぶ	114	
			2月18日			
			2月25日			
介護技術向上研修	外国人介護職員	27	12月18日	介護福祉士国家試験模擬試験の実施・解説を通じ介護技術の向上を図る。	115	
			12月25日			
			1月8日			
運営適正化委員会	苦情解決セミナー	県内福祉サービス提供事業所の苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員等	96	11月14日	県内の福祉サービス提供事業所における苦情解決の仕組みの構築と円滑な苦情処理の方法を学ぶ	116
兵庫県地域包括支援センター協議会 (地域福祉部)	講演会	地域包括支援センター、在宅介護支援センター職員	33	6月26日	最新の情勢動向、今後の展望・展開方策等を検討する	117
	職員研修会(新任)	地域包括支援センター、在宅介護支援センター職員	52	5月21日	地域包括支援センター・在宅介護支援センターとして求められる役割・機能を理解し、制度動向や実践に必要な知識技術を学ぶ	118
	職員研修会(現任)		52	12月12日		119
		64	3月19日	120		
兵庫県ホームヘルプ事業者協議会 (地域福祉部)	管理者研修	事業管理者	59	6月19日	事業管理者として取り組むべき課題と対応策を学ぶ	121
	サービス提供責任者研修	サービス提供責任者	54	11月19日	サービス提供責任者の資質向上を図る	122
44			3月13日	123		
兵庫県社会福祉法人(福祉事業部)	7月例会(※)	社会福祉法人の理事長、役員等	129	7月19日	社会福祉法人が目指す方向性や各種制度改革への対応課題について研究協議する	124
	社会福祉法人経営トップセミナー(※)	社会福祉法人の理事長、役員等	78	12月20日	社会福祉法人が目指す方向性や各種制度改革への対応課題について研究協議する	125
	社会福祉法人のための財務セミナー	社会福祉法人の理事長、役員等	64	1月31日	社会福祉法人が目指す方向性や各種制度改革への対応課題について研究協議する	126
	青年協議会： 社会福祉法人経営計画策定 リーダー養成セミナー	社会福祉法人の若手経営者及び幹部職員等	27 (7法人)	9月17日	改正社会福祉法の内容を着実に実行し、経営基盤の強化を図るため、経営計画策定支援を通して、社会福祉法人の経営力を高める	127
				10月18日		
				11月22日		
12月17日						
青年協議会： 定例研修会		65	9月20日	各種社会福祉制度改革の動向や法人・施設経営に関する課題、マネジメント手法等を学ぶことを通じた会員相互の研鑽と資質向上を図る	128	
			41			2月21日
青年協議会： 視察研修		16	3月11日	会員同士の横の繋がりを緊密にすることを目的とし、県内法人の視察し、地域や種別を問わず様々な社会福祉法人の取組みを学ぶ。	129	

### (3) 各研修の実施概要

#### ① 研修センター実施研修

(指定管理研修)

－福祉行政職員コース－

1 研修名	福祉行政機関新任職員研修		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	4,800円※兵庫県職員は無料
4 目的	福祉行政に新たに従事する職員が、社会福祉に関する基礎的な知識と技術を学ぶとともに福祉制度利用者への理解を深める。		
5 実施日	令和6年5月20日(月)	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県・市・町の福祉行政に従事している期間が2年未満の職員		
8 受講人数	38人		

#### ●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
5 月 20 日	10:20 開講あいさつ 県福祉部地域福祉課 課長 小田 直樹氏		
		オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:00	【講義】 「社会福祉の動向と課題」 関西福祉大学 社会福祉学部 教授 谷口 泰司氏	1 社会福祉の諸制度 2 現在の福祉行政を取り巻き動向と課題 3 課題解決に向けて福祉行政が果たすべき役割 4 福祉行政職員に求められる姿勢
	13:00 ～ 14:30	【講義】 「当事者として、専門職として 地域自立生活支援を考える」 一般社団法人 兵庫県相談支援ネットワーク 代表理事 玉木 幸則氏	1 当事者としての体験を通して、また社会福祉士として地域生活支援を考える 2 地域生活上の福祉諸制度や施策の課題と自らの職務の関連
	14:45 ～ 17:15	【講義・演習】 「面接相談における 効果的なコミュニケーション」 関西福祉科学大学 社会福祉学部 准教授 小口 将典氏	1 福祉相談における面接の重要性 2 相談援助(面接)の基礎的な知識と技法
	17:15	振り返り／行動目標の設定	
17:20	閉講		

－福祉行政職員コース－

1 研修名	生活保護新任ケースワーカー研修		
2 種 別	県指定管理研修	・県補助研修	・自主研修
3 参加費	無料		
4 目 的	生活保護のケースワークを新たに担当する職員が、利用者の理解と対応に必要な知識・技術を身につけることを目的とする。		
5 実施日	令和6年6月27日(木)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	令和6年4月1日現在で経験年数が1年未満の生活保護担当のケースワーカー		
8 受講人数	102人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
6 月 27 日	10:00 開講あいさつ 県福祉部地域福祉課 副課長 新林 正哉氏		
		オリエンテーション	
	10:10 ～ 11:00 「生活保護制度について」 兵庫県福祉部地域福祉課 生活保護班長 木元 倫代氏	ケースワーカーとして理解しておくべき 基本的な事項	
	11:15 ～ 12:00 「ケース記録の書き方について」 兵庫県福祉部地域福祉課 主査 中町 将氏	ケース記録の基本的な書き方の習得	
	13:00 ～ 14:30 「先輩ケースワーカーの実践に学ぶ」 <発表者> 市福祉事務所の先輩ケースワーカー ①尼崎市北部保健福祉センター 事務員 岩森 仁美氏 ②宝塚市生活援護課 事務職員 山村 修兵氏 ③加古川市生活福祉課 書記 瀧野 貴大氏	<発表内容> ケースワーカー事務について、日常心が けていることや受講生からの質問事項など	
	14:45 ～ 16:55 「グループ討議」 <助言者> 市福祉事務所の先輩ケースワーカー ①尼崎市北部保健福祉センター 事務員 岩森 仁美氏 ②宝塚市生活援護課 事務職員 山村 修兵氏 ③加古川市生活福祉課 書記 瀧野 貴大氏	<討議議題> 1 ケースワーカー業務の進め方 2 支援困難ケース、対応に特に配慮を要す るケースへの対応について 3 自立助長に向けた支援の取り組み 4 その他	
	16:55	振り返り／行動目標の設定	
	17:00	閉講	

－福祉行政職員コース－

1 研修名	生活保護中堅ケースワーカー研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	生活保護の実務を担当する中堅職員が、利用者支援に必要な知識・技術を身に付けることを目的とする。		
5 実施日	令和6年12月16日(月)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	令和6年4月1日時点で、経験年数が1年以上の生活保護担当のケースワーカー		
8 受講人数	56人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名
12 月 16 日	10:00 開講あいさつ 県福祉部地域福祉課 副課長 新林 正哉氏
	オリエンテーション
	10:10 ～ 11:00 【講義】 「ヤングケアラー支援について」 兵庫県福祉部地域福祉課 地域福祉班 主幹 岡田 翼 氏
	11:10 ～ 12:00 【講義】 「困難を抱える女性・DV被害者を支える ～女性家庭センターの役割～」 兵庫県立女性家庭センター 相談・支援課 課長補佐 関根 友紀氏
	13:00 ～ 14:30 【講義】 「ステップアップ生活保護ケースワーク ～どうせなら面白く実のある時間を過ごしたい～」 神戸市垂水区役所 保健福祉部 衛藤 晃氏
	14:45 ～ 16:55 【演習（事例検討）】 <助言者> 神戸市垂水区役所 保健福祉部 衛藤 晃氏
	16:55 振り返り／行動目標の設定
	17:00 閉講

－福祉行政職員コース－

1 研修名	生活保護医療扶助・介護扶助事務担当者研修		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目的	医療扶助・介護扶助事務を担当している職員が、事務処理に必要な知識の習得を行うとともに、課題について検討することで、職務能力の向上を図ることを目的とする。		
5 実施日	令和6年8月22日(木)	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県健康福祉事務所・市福祉事務所(神戸市除く)の医療扶助・介護扶助事務担当者、現業員等(医療扶助・介護扶助事務に従事している期間がおおむね5年未満の職員)		
8 受講人数	22人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
8 月 22 日	10:00	開講／オリエンテーション	
	10:10 ～ 12:00	【講義】 「医療扶助・介護扶助の適正な実施について」 兵庫県福祉部地域福祉課生活保護班 班長 木元 倫代氏	生活保護法における医療扶助・介護扶助の制度と仕組みについて理解を深める
		【講義】 「電子レセプトの活用について」 兵庫県福祉部地域福祉課生活保護班 副主任 古倉 佳典氏	医療扶助の適正化に向けた電子レセプトの活用について理解を深める
	13:00 ～ 14:00	【講義】 「地域における薬局薬剤師の業務について」 兵庫県精神保健福祉センター 一般社団法人 兵庫県薬剤師会 常務理事 安田 理恵子氏	薬局薬剤師の業務について理解を深めるとともに、重複投薬・多剤投与など医療扶助適正化に向けた連携について考える。
	14:15 ～ 15:45	【グループ討議】 議題：医療扶助・介護扶助の事務処理上の取扱いについて <進行> 兵庫県福祉部地域福祉課 生活保護班 職員	日々の医療扶助・介護扶助に関する業務において課題となっている問題点や状況について共有し、意見交換を行う
	16:00 ～ 16:40	【グループ発表・まとめ】 <進行> 同上	同上
	16:40	振り返り／行動目標の設定	
	16:45	閉講	

－福祉行政職員コース－

1 研修名	生活保護査察指導員研修		
2 種 別	県指定管理研修	・県補助研修	・自主研修
3 参加費	無料		
4 目 的	生活保護の査察指導に携わっている職員が、スーパーバイザーとして求められる視点や役割について理解し、指導力の向上を図る。		
5 実施日	令和7年2月28日（金）	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	県健康福祉事務所・市福祉事務所（神戸市を除く）の生活保護査察指導員		
8 受講人数	20人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名
2 月 28 日	開講あいさつ 12:50 県福祉部地域福祉課 副課長 新林 正哉氏
	オリエンテーション
	【講義】 13:00 「生活保護行政から検討する査察指導員の役割」 ～ 15:20 立正大学 社会福祉学部 教授 池谷 秀登氏
	【演習】 15:30 「査察指導員の困難さを共有する」 ～ 16:30 立正大学 社会福祉学部 教授 池谷 秀登氏
	16:30 振り返り／行動目標の設定
	16:40 閉講

－種別新任コース－

1 研修名	福祉従事者新任職員研修(児童福祉・保育)		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	4,800円
4 目的	社会、地域における保育所・認定こども園の役割及び保育士・保育教諭に期待される姿勢・視点を理解するとともに、保育現場での意欲的な実践につなげることを目的とする。		
5 実施日	Aコース:令和6年5月24日(金) Bコース:令和6年6月18日(火)	6 場所	A: 県福祉人材研修センター B: Zoomによるオンライン
7 対象者	令和6年4月1日現在、県内公立・民間保育所(園)に勤務する保育士および認定こども園に勤務する保育教諭で、下記の要件を満たす者 ① 保育の経験年数が通算で1年未満の者 ② 保育の経験年数が通算で2年未満の者で、昨年度本会主催の新任職員研修を受講していない者		
8 受講人数	74人(A:39人、B:35人)		

●プログラム

時間	研修科目／講師名	研修内容
10:15	開講あいさつ 県福祉部子ども政策課 課長 石井 輝昌氏	
	オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	【講義】 「保育士に求められる役割と専門性」 A: 武庫川女子大学 講師 岡田 朱世氏 B: 神戸親和大学 教授 猪田 裕子氏	1 保育士の役割 2 子ども理解と健やかな成長 3 新任保育士として大切にする視点 4 安心、信頼される保育士になるために
A 5 月 24 日 ・ B 6 月 18 日	【実践発表・演習】 「子どもの健やかな成長を支える保育士を目指して ～先輩保育士の話を聴こう～」 <A: 登壇者> 三木市立別所認定こども園 岡部 安由氏 認定こども園ささやまこども園 細川 叶絵氏 <B: 登壇者> 認定こども園とみた 堀井 汐織氏 丹波篠山市立にしき保育園 羽馬 祥子氏 <助言者> A: 武庫川女子大学 講師 岡田 朱世氏 B: 神戸親和大学 教授 猪田 裕子氏	先輩保育士から仕事上、大切にしていることを聴き、今後の自身の姿を描く
16:15 ～ 16:30	【振り返り】 「自分の保育観を深めよう」	3年後になりたい保育士像を描く
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	



－種別新任コース－

1 研修名	福祉従事者新任職員研修（児童福祉・社会的養護）		
2 種別	県指定管理研修	・県補助研修	・自主研修
3 参加費	4,800円		
4 目的	社会的養護など児童福祉を取り巻く情勢と児童福祉施設の役割・特性を理解し、施設職員として求められる基本姿勢や専門性について学ぶ。		
5 実施日	令和6年7月9日（火）	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	令和6年4月1日現在、県内の児童福祉施設（児童養護施設、母子生活支援施設、乳児院等）に勤務する職員で下記①②のいずれかにあてはまる者 ① 在職期間1年未満の者 ② 在職期間2年未満で昨年度本会主催の新任職員研修を受講していない者		
8 受講人数	47人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
10:15	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	【講義】 「児童福祉施設を取り巻く現状」 大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉学類 教授 伊藤 嘉余子氏	1 児童福祉を取り巻く情勢（社会的養護の基本的方向性等）と施設の役割の理解 2 虐待や障害、複合課題を抱える児童の権利擁護
7月9日 13:00 ～ 16:30	【講義・演習】 「職員に求められる専門性とは～先輩職員の実践に学ぶ～」 <発表者> 母子生活支援施設 伊丹深愛館 野口 美羽衣氏 児童養護施設 睦の家 藤本 勝志氏 <コーディネーター> 大阪公立大学 現代システム科学域 教育福祉学類 教授 伊藤 嘉余子氏	1 職業理解と自己目標の重要性 2 社会的養護を必要とする児童の理解に基づく支援方法 3 施設職員としての専門性 4 チームアプローチの重要性
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－種別新任コース－

1 研修名	福祉従事者新任職員研修（障害者福祉）		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	4,800円
4 目的	社会、地域における障害福祉施設の役割及び利用者の生活を支えるうえで求められる基本的姿勢・視点を理解するとともに、施設での実践に向け意欲を高める。		
5 実施日	Aコース:令和6年5月27日（月） Bコース:令和6年6月24日（月）	6 場所	A:県福祉人材研修センター B:Zoomによるオンライン
7 対象者	令和6年4月1日現在、県内の障害福祉施設に勤務する職員で、下記①②のいずれかにあてはまる者 ① 在職期間1年未満の者 ② 在職期間2年未満で昨年度本会主催の新任職員研修を受講していない者		
8 受講人数	102人（A:61人、B:41人）		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
A 5 月 27 日 ・ B 6 月 24 日	10:15 開講あいさつ 県福祉部障害福祉課障害政策班 班長 井川 善博氏	
	オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:00 【講義】 「利用者の生活を支える 障害福祉施設職員の役割と専門性」 A・B 武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 准教授 増田 和高氏	1 障害福祉を取り巻く情勢 2 利用者主体の支援とは 3 地域生活移行と地域 4 障害福祉施設職員に求められる役割と専門性
	13:00 ～ 16:30 【演習】 「私が目指す職員像 ～当事者・先輩職員の声を聴いて～」 <スピーカー> A：地域活動支援センター「うらら」 小西 貴男氏 B：西宮市社会福祉協議会 ふれぼの 伊勢 千鶴氏 <先輩職員> A：社会福祉法人愛心福祉会 愛心園 花房 陽平氏 B：社会福祉法人福成会 塚口福成園 永井 嘉寿馬氏 <コーディネーター> A・B 社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり研究研修所 所長 北野 誠一氏	1 利用者の視点に立った支援姿勢の獲得 2 今後の実践における目標設定
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－種別新任コース－

1 研修名	福祉従事者新任職員研修（高齢者福祉）		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	4,800円
4 目的	高齢者福祉を取り巻く情勢と施設職員の役割を理解し、利用者の尊厳や主体性を保持した支援、多職種と協働した福祉サービスの実践について学ぶ。		
5 実施日	Aコース:令和6年5月28日（火） Bコース:令和6年6月25日（火）	6 場所	Zoomによるオンライン
7 対象者	令和6年4月1日現在、県内高齢者福祉施設・事業所に勤務する職員で、下記①②のいずれかに当てはまる者 ① 在職期間1年未満の者 ② 在職期間2年未満で昨年度本会主催の新任職員研修を受講していない者		
8 受講人数	49人（A:28人、B:21人）		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
A 5 月 28 日	10:15 開講あいさつ 県福祉部高齢政策課 副課長 河部 大氏	
	オリエンテーション	
B 6 月 25 日	10:30 ~ 12:00 【講義】 「高齢者福祉の動向と 施設職員に求められるもの」 A・B 神戸学院大学 教授 備酒 伸彦氏	1 地域包括ケアの推進など高齢者福祉を取り巻く情勢の理解 2 高齢者施設職員の役割の理解 3 チームアプローチの重要性の理解
	13:00 ~ 16:30 【講義・演習】 「対人援助職者としての基本と目標 そして、今後の具体的な取組みについて」 A・B 兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人氏	1 対人援助職者に求められる基本視点 ・専門職の価値・倫理 ・基本的態度 2 目指したい職員像とは
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－社会福祉援助基礎コース－

1 研修名	はじめて福祉の仕事に就く人のための研修（基礎編）		
2 種別	県指定管理研修	・県補助研修	・自主研修
3 参加費	4,800円		
4 目的	福祉現場で働くにあたり最低限身につけておきたい社会福祉制度や法令等の基本的な考え方を理解し、権利擁護や職業倫理等に関する基本的事項について習得する。		
5 実施日	Aコース:令和6年6月20日(木) Bコース:令和6年10月29日(火)	6 場所	Zoomによるオンライン
7 対象者	下記のいずれかにあてはまる方 ① 県内社会福祉施設・事業所、社会福祉協議会に勤務する職員 ② 県・市町の福祉関係業務に従事する行政職員		
8 受講人数	83人 (A:53人、B:30人)		

●講師 関西福祉大学 社会福祉学部 教授 谷口 泰司氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
A 6 月 20 日 ・ B 10 月 29 日	13:50	開講／オリエンテーション	
	14:00 ～ 15:00	【講義】 「制度やサービスの理解」	1 福祉を取り巻く情勢 2 福祉サービスの理念 3 福祉サービスの特性
	15:10 ～ 16:10	【講義】 「専門職の視点」	1 人権と尊厳 2 職業倫理
	16:10 ～ 17:00	【演習】 「研修のまとめ」	1 自身の実践を振り返る 2 今日の学びを明日の実践へ生かす
	17:00	振り返り／行動目標の設定	
	17:10	閉講	

－社会福祉援助基礎コース－

1 研修名	はじめて福祉の仕事に就く人のための研修（実践編）		
2 種別	県指定管理研修	・県補助研修	・自主研修
3 参加費	4,800円		
4 目的	社会福祉施設・事業所や行政・相談機関など、福祉の現場で働き始めた人にとって、社会福祉に携わる者として知っておくべき基本的なこと・大切なことがあることから、利用者その人と向き合い、尊重し、理解していく際の基本的な考え方や視点を身につけ、これから福祉の専門職として育っていくための土台となる大切なポイントについて学ぶ。		
5 実施日	Aコース:令和6年7月31日(水) Bコース:令和6年11月25日(月)	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	下記①～③のいずれかにあてはまり、原則、社会福祉に関する専門教育を受けていない職員 ① 県内社会福祉施設、社会福祉協議会に勤務する職員 ② 県内市町の福祉関係業務に従事する職員 ③ 県の福祉関係業務に従事する職員（※健康福祉事務所等）		
8 受講人数	83人（A:41人、B:42人）		

●講師 武庫川女子大学教育学部 講師 藤野 ゆき氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
A 7 月 31 日 ・ B 11 月 25 日	10:10 開講／オリエンテーション	
	10:20～12:00 【講義・演習】 「福祉で働く人に欠かせない考え方や判断基準を知ろう」	1 福祉で働く人に必要な基本的な理念を学ぶ（人権の尊重、尊厳の保持、ノーマライゼーション等） 2 福祉で働く人が持つておくべき判断基準やルールを学ぶ
	13:00～17:00 【講義・演習】 「その人らしさを理解するために必要なポイント」	1 人間を知る、自分を知る 2 ジレンマを抱えた時、あなたはどのようにする？ 3 私たちを取り巻く生活環境を知る 4 福祉で働く人に求められる基本的態度
	17:00 振り返り／行動目標の設定	
	17:10 閉講	

－テーマ別中堅コース－

1 研修名	福祉従事者中堅職員研修（アセスメント技術）		
2 種別	県指定管理研修	・県補助研修	・自主研修
3 参加費	4,800 円		
4 目的	中堅職員が、これまでの自らの実践を振り返るとともに、支援に必要なアセスメント（事前評価）の視点を学び、社会福祉の現場で働く人の職業倫理と「仮説と検証」の方法を身につける。		
5 実施日	令和7年1月28日（火）	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の高齢・障害分野の社会福祉施設・事業所に勤務する職員で経験年数が概ね3年以上の中堅職員（管理者を除く）		
8 受講人数	34人		

●講師 兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
1 月 28 日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:30	【講義】 「アセスメントの基本を学ぼう」	1 アセスメントとは何か 2 人を理解するということ 3 援助職中心ではなく利用者（当事者）中心のアセスメントの視点と方法
	13:30 ～ 16:30	【演習・講義】 「事例から学ぼう！ アセスメントの実践ポイント」	高齢・障害者への支援事例を通して、アセスメントに必要となる基本的な視点と方法を理解する
	16:30	振り返り／行動目標の設定	
	16:40	閉講	

－テーマ別中堅コース－

1 研修名	福祉従事者中堅職員研修（子どもの理解と発達支援）		
2 種別	県指定管理研修	・県補助研修	・自主研修
3 参加費	4,800円		
4 目的	質の高い保育・支援のためには、一人ひとりの子どもを理解するとともに、家族を含めた子どもを取り巻く環境理解の視点が必要です。本研修では、気になる子ども・発達障害の子どもへの支援に欠かせないアセスメントの基本と活用について学び、中堅職員として、現場でのこれまでの実践事例を振り返りながら、日ごろの保育・支援のヒントを得る。		
5 実施日	令和6年6月11日（火）	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内保育所・認定こども園、その他児童福祉施設に勤務する概ね3年以上の職員		
8 受講人数	41人		

●講師 兵庫大学 短期大学部 保育科 教授 森田 恵子氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:30	【講義】 「発達が気になる子どもの 理解と支援の基本」	1 発達障害の理解と生活支援 2 ライフステージの視点で捉える （年齢別の状態と特徴、その対応方法） 3 保護者支援に必要な視点とは
13:30 ～ 16:30	【講義・演習】 「子どもの理解から関わり・支援へ」 ～支援上の「困難さ」や「引っかかり」 にどう対応していくか～	1 現場で感じる支援上の「困難さ」や「引っかかり」を共有 2 他施設での取り組みの情報交換 （事例の共有、検討と解説） 3 明日からの実践に向けて、子どものアセスメントと支援を考える
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－テーマ別中堅コース－

1 研修名	福祉従事者中堅職員研修（職業倫理と権利擁護）		
2 種 別	県指定管理研修	・ 県補助研修	・ 自主研修
3 参加費	4,800円		
4 目 的	利用者の生活を支える福祉従事者は、常に利用者の権利を擁護する存在であることが必要であり、新任職員のとときと比べて知識や技術が格段に向上した今、種別を問わず、その専門性の土台となる価値や職業倫理について改めて振り返るとともに、日々の支援の場で意識すべき視点や考え方を学ぶ。		
5 実施日	令和6年8月20日（火）	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内社会福祉施設・事業所に勤務する職員で経験年数が概ね3年以上の中堅職員（施設長・課長等の管理者を除く）		
8 受講人数	64人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	（受付開始9:30～）
8月20日 10:30～ 12:00	【講義】 「社会福祉における“専門性”とは？ ～中堅職員が支援の原点を再考する意義～」 武庫川女子大学 心理・社会学部 准教授 増田 和高氏	1 基本的人権や意思決定支援 2 施設職員の専門性とは 3 専門職の知識・技術・価値・倫理
13:00～ 16:30	【講義・演習】 「日々の実践を振り返り 明日からの支援に生かす視点を学ぶ」 兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人氏	1 利用者主体の支援における専門性とは 2 中堅職員として日々の実践の振り返り テーマ:利用者の権利・職業倫理
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	



(自主研修)

－種別新任コース－

1 研修名	社会福祉協議会新任職員研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	2,200円
4 目 的	社会福祉協議会が地域のニーズに応え、地域福祉推進の要としての役割を果たせるよう、社協活動を担う職員として必要な基本的視点や姿勢を学ぶ。		
5 実施日	令和6年4月22日(月)、4月23日(火)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	原則、在職期間1年未満の職員		
8 受講人数	92人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
4月22日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:00	【講義①】 「社会福祉の動向と地域福祉」 武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 教授 松端 克文氏	1 社会福祉を取り巻く動向（情勢・政策動向）と、焦点となる課題を理解する 2 地域福祉の目的と理念を学ぶ 3 地域福祉の対象と推進方法を学ぶ
	13:00 ～ 13:45	【講義②】 「社会福祉協議会の機能と役割」 兵庫県社会福祉協議会 事務局次長 杉田 健治	1 社協の基本機能とその成り立ちを学ぶ 2 県社協の役割と市町社協との関係を理解する
	14:00 ～ 17:30	【演習①】「当事者の暮らしを知る」 <発表者> 特定非営利活動法人「結」 渡辺 聖史氏 ひょうご多胎ネット 天羽 千恵子氏 <進行> 兵庫県社会福祉協議会 権利擁護センター センター長 新屋 幸子	当事者から直接、地域での暮らしにおける生きづらさ等を聴くことによって、当事者の視点から地域生活の諸課題を捉え、社協における当事者支援活動の意義を考える
		1日目終了	
4月23日	9:50	オリエンテーション	
	10:00 ～ 11:00	【講義③】 県内市町社協取り組み現況説明 <報告者> 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 主任 富永 堯史	県内市町社協の取り組みと現況を知る
	12:00 ～ 15:35	【演習②】 「社協活動の実際から“社協らしさ”を学ぶ」 <実践報告> 三田市社会福祉協議会 浜田 明日香氏 稲美町社会福祉協議会 馬田 慶明氏 <進行> 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 主任 富永 堯史	1 先輩職員の体験から、地域における社協の役割を学ぶ 2 実際の活動から社協の使命・特性を抽出し、理解を深める 3 参加者同士の相互交流を通じ、意欲の向上を図る
	15:35	振り返り／行動目標の設定	
	15:45	閉講	

－社会福祉援助基礎コース－

1 研修名	聴き上手、伝え上手になるためのコミュニケーション研修（基礎編）		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	4,800円
4 目 的	社会福祉施設・事業所に勤務する新任職員が、専門職・組織人として身につけておくべきコミュニケーションスキルの基本を習得する。		
5 実施日	令和6年8月7日(水)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	県内社会福祉施設・事業所で勤務する新任職員（概ね1～3年目）		
8 受講人数	88人		

- 講 師 神戸親和大学 非常勤講師／公認心理師・臨床心理士・認定医療心理士  
高橋 美智子氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
8 月 7 日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:00	【講義・演習】 「社会福祉従事者だからこそ知っておきたいメンタルヘルスのセルフケア」	1 ストレス反応が出ている自分に気づく 2 ストレスに対処する方法を知る
	13:00 ～ 14:30	【講義・演習】 「コミュニケーションスキルの基礎」	1 コミュニケーションスキルの基礎を知る（話す・聴く・自己開示・感情コントロール・セルフモニタリング） 2 聴き上手になる（相手が「わかってもらった」と思う聴き方）
	14:40 ～ 16:30	【講義・演習】 「アサーティブ・コミュニケーション」	1 伝え上手になる（相手に伝わる話し方） 2 アサーティブ・コミュニケーションの基礎を知る（自分も相手も大切に自己表現）
	16:30	振り返り／行動目標の設定	
	16:40	閉講	

－社会福祉援助基礎コース－

1 研修名	聴き上手、伝え上手になるためのコミュニケーション研修（実践編）		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	5,300円
4 目 的	社会福祉施設・社協・事業所で勤務する中堅職員が、専門職として身につけておくべきコミュニケーションスキルの機能や方法を理解し、演習を通じて習得する。		
5 実施日	令和6年8月29日(木)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	県内社会福祉施設・社協・事業所で勤務する中堅職員（概ね3年以上）		
8 受講人数	59人		

●講 師 関西福祉科学大学 社会福祉学部 教授 都村 尚子氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
09:50	開講／オリエンテーション	
8 月 29 日 10:00 ～ 12:00	【講義・演習】 「社会福祉援助とコミュニケーション技術①」	1 コミュニケーションの意義 2 コミュニケーションの概要と環境 3 援助の場面で重要な援助的コミュニケーション
13:00 ～ 17:00	【講義・演習】 「社会福祉援助とコミュニケーション技術②」	1 利用者の特性に応じたコミュニケーション 2 グループ演習：合意形成を図るための手法やプロセスの体験的理解
17:00	振り返り／行動目標の設定	
17:10	閉講	

－社会福祉援助基礎コース－

1 研修名	福祉従事者のためのセルフケア研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	5,300円
4 目 的	福祉従事者は共感的、受容的な態度が求められるその業務特性から、ストレスを抱えたり困難な状況に直面したりしやすいといえます。自身の意欲を高めるセルフ・コンパッション（自分自身を受け入れ、優しい気持ちを向ける力）を理解するとともに、職場での困難な状況下など様々な場面を想定したワークを通じて体験的に理解する。		
5 実施日	令和6年9月19日（木）	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	県内社会福祉施設・事業所・社協で勤務する職員（主に新任及び中堅）		
8 受講人数	41人		

●講 師 関西学院大学文学部 教授 有光 興記氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	【講義】 「福祉従事者が知っておきたい 『セルフ・コンパッション』の考え方」	1 自分自身と他者への寛容性が培われる「セルフ・コンパッション」の理解 2 自身の「コンパッション尺度」を測る
9 月 6 日 13:00 ～ 14:30	【演習】 「今この瞬間への優しい気づき あるがままの自分を受け入れる」	1 マインドフルネス(瞑想)の理解 2 セルフ・コンパッションの実践
14:40 ～ 16:30	【演習】 「職場における寛容性を育むレッスン」	1 職員(先輩、後輩、上司等)に向けるコンパッション 2 利用者(家族)に向けるコンパッション 3 明日からの実践目標をイメージする
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－社会福祉援助基礎コース－

1 研修名	相談面接技術研修（基礎編）		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	8,400円
4 目的	様々な問題やニーズを持つ利用者を理解するための相談面接の知識・技術を学び、援助者としてのコミュニケーション力を高める。		
5 実施日	Aコース:令和6年7月22日(月)～23日(火) Bコース:令和7年1月23日(木)～24日(金)	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	下記①、②のいずれかに該当する職員で、相談援助業務の従事年数が3年未満の職員 ① 県内の社会福祉施設・事業所、社協等に勤務し、相談援助業務に従事する職員 ② 県及び県内市町の福祉関係業務に従事する職員で、主として相談援助業務に携わる職員		
8 受講人数	97人 (A:55人、B:42人)		

●講師 関西学院大学 人間福祉学部 教授 川島 恵美氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
A 7 月 22 日	10:20 開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:30 【講義・演習】 「基本的コミュニケーション」	1 コミュニケーションの基本 2 コミュニケーションのチャンネル (言語・準言語・非言語レベル)
B 1 月 23 日	13:30 ～ 16:30 【演習】 「きくこと・はなすこと」	1 よりよい聞き手・話し手として大切なこと 2 「きく」ということ (1) 訊く (2) 聞く (3) 聴く
	16:30 1日目終了	
A 7 月 23 日	10:00 ～ 12:30 【講義・演習】 「援助的コミュニケーション」	1 援助とは何か 2 利用者理解のための援助的コミュニケーションスキル 3 かかわり行動・言語反応のバラエティ
B 1 月 24 日	13:30 ～ 16:00 【演習】 「援助場面における 応答パターン演習」	1 援助場面の応答パターン練習 (1) プロセスレコード作成 (2) ロールプレイング・フィードバック (3) 全体分かち合い
	【まとめと振り返り】	1 質疑応答 2 今後の実践に向けた振り返り
	16:00 振り返り／行動目標の設定	
	16:10 閉講	

－社会福祉援助基礎コース－

1 研修名	相談面接技術研修（実践編）		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	10,600円
4 目的	様々な問題やニーズを持つ利用者を理解するための相談面接の知識・技術を学び、利用者の特性に合わせた効果的な援助を行う実践力を高める。		
5 実施日	Aコース:令和6年7月26日(金)・8月9日(金) Bコース:令和7年2月13日(木)・2月27日(木)	6 場所	関西学院大学 人間福祉学部多機能演習室
7 対象者	下記①、②のいずれかにあてはまる職員で、相談援助業務の従事年数が3年以上の職員 ① 県内の社会福祉施設・事業所、社協等に勤務し、相談援助業務に従事する職員 ② 県及び県内市町の福祉関係業務に従事する行政職員で、主として相談援助業務に携わる職員		
8 受講人数	47人 (A:24人、B:23人)		

●講師 関西学院大学 人間福祉学部 教授 川島 恵美氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
A 7 月 26 日 ・ B 2 月 13 日	10:20	開講／オリエンテーション
	10:30 ～ 12:00	【ガイダンス】 1 研修のねらい・進め方と内容、心構え 2 利用者のニーズを把握する相談面接の意義 3 機材の使用法説明・試し録画
	13:00 ～ 16:30	【講義①】 「かかわり行動について」 1 非言語的コミュニケーション 2 録画フィードバック 【演習①】 「ロールプレイング録画1回目」 1 相談場面のロールプレイング録画と観察 2 援助者がクライアントに与える影響 3 きき手の聴き方
	16:30	1日目終了
	A 8 月 9 日 ・ B 2 月 27 日	10:30 ～ 12:30
13:30 ～ 16:30		【演習③】 「ロールプレイング録画2回目」 フィードバックに基づいた再度の相談場面のロールプレイング 【演習④】 「録画2回目のフィードバック」 1 グループ及び全体でフィードバック 2 援助者として必要な視点の理解
16:30		振り返り／行動目標の設定
16:40		閉講

－テーマ別中堅コース－

1 研修名	社会福祉協議会中堅職員研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	2,700円
4 目 的	社会福祉協議会が地域のニーズに応え、地域福祉推進の要としての役割を果たすため、社協活動の中核を担う中堅職員が、社協の使命、機能及び役割や、実践に必要な基礎的知識を改めて学びながら自身の実践を振り返り、自身の実践の向上につなげる。		
5 実施日	令和7年2月21日(金)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の社会福祉協議会に勤務している職員(おおむね社協勤務経験年数5年以上10年未満)		
8 受講人数	20人		

●プログラム

日時	研修科目/講師名	研修内容
10:20	開講/オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	<b>【講義】</b> 「社会福祉協議会の徹底理解 ～県内社協の実践の歴史からひもとく～」 兵庫大学 生涯福祉学部 教授 小林 茂氏	1 地域福祉の理念と動向 2 社協のなりたちと県内社協実践の歴史 3 社協の機能と役割、専門性 4 これから求められること
2 月 21 日  13:00 ～ 17:00	<b>【実践報告・演習】</b> 『住民主体の地域づくり』の実際 <実践報告者> 香美町社会福祉協議会 地域福祉係長(生活支援コーディネーター) 北脇 洋子氏 <進行> 兵庫大学 生涯福祉学部 教授 小林 茂氏	1 先輩職員の実践から住民主体の地域づくりの実際を学ぶ 2 実践から、社協の使命や特性に基づいた意図をひもとき、理解を深める 3 参加者同士の相互交流を通じ、実践の向上を図る
17:00	振り返り/行動目標の設定	
17:10	閉講	

－テーマ別中堅コース－

1 研修名	チーム力を高めるファシリテーション研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	6,200円
4 目 的	社会福祉施設・事業所でファシリテーションを実践する立場にある職員に必要な、個人やチーム内におけるコミュニケーション力やファシリテーション技術を高める方法を学ぶとともに、効率的・効果的な会議やミーティングの場の運営方法を習得する。		
5 実施日	令和6年7月17日(水)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	県内社会福祉法人の施設・事業所に勤務する職員で、原則としてチームアプローチを進める立場にあるチームリーダー(係長や主任等)や中堅職員(概ね経験年数3年以上の職員)		
8 受講人数	77人		

●講 師 株式会社ふくなまジャパン 代表取締役社長 眞辺 一範氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
7月17日	10:20	開講／オリエンテーション
	10:30 ～ 12:00	【講義・演習】 「チームという“場”を活かした 基本的なファシリテーションの視点」
	13:00 ～ 16:30	【演習】 「具体的な会議の進め方を学ぶ」
	16:30	カンファレンスやミーティング等の会議 運営の方法
	16:30	振り返り／行動目標の設定
	16:40	閉講



－地域福祉・多職種連携コース－

1 研修名	多職種連携力を高める研修		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	5,300円
4 目的	<p>「地域共生社会」の実現のためには、高齢、障害などの支援や分野の枠を超えて、関係機関との協働とともに、そのサービスの担い手等による多職種の連携が求められています。一方で、実際には情報共有時や支援を行うにあたって、様々な課題や困難さを感じることも少なくない。</p> <p>本研修では、日々の実践の中で感じる、「連携って具体的に何をやるの?」「顔が見える関係」ってどんな関係?」などの多職種連携に関する疑問や悩みを分かち合いながら、押さえておきたい基本的な考え方や視点、必要となる能力や大切なポイント等を理解することを目的とする。</p>		
5 実施日	令和7年1月14日(火)	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の福祉施設・事業所・社会福祉協議会・行政機関に勤務する指導的職員(リーダー、主査、主任等)・中堅職員		
8 受講人数	29人		

●講師 神戸女子大学 看護学部 准教授 小坂 素子氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	【講義・演習】 「お互いの能力を最大限に引き出す 多職種連携」	1 「多職種」や「連携」、「顔のみえる関係」とは何かを理解する 2 連携するために必要な3つの能力を知る
1月14日 13:00 ～ 16:30	【演習】 「ケースビネットを用いた事例検討 ～それぞれの専門性と役割の 相互理解を深めるために～」	1 ケースビネットを用いた事例検討を通じて多職種連携の実際を体験する 2 連携が機能する際の視点や役割について振り返る(リフレクション) 3 自身の役割を実際の職場に置き換え、実践につなげるための行動を考える
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－地域福祉・多職種連携コース－

1 研修名	看護職と介護職の連携力強化研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	4,800円
4 目 的	社会福祉施設・事業所における看護・介護職員が、利用者の生活や利用者主体のケアを支える上で必要な連携力を高めるため、相互の役割や専門性を理解したうえで、連携することで目指すべき目的や現場で行う具体的なチームアプローチについて考える。		
5 実施日	令和6年12月3日(火)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	県内の社会福祉施設・事業所に勤務する看護職員、介護職員(障害福祉施設における保育士・支援員も含む)		
8 受講人数	52人		

- 講 師 テキックス株式会社 ななーる訪問看護ステーション 神戸エリア管理者  
鶴本 和香氏  
社会福祉法人関寿会 はちぶせの里 統括管理者  
中野 穰氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	【講義・演習】 「看護職・介護職の連携 ～多職種協働とは?～」	1 相互の役割と専門性の理解 2 「多職種連携」は何のために必要なのか、その意味と目的を知る
12月3日 13:00 ～ 16:30	【演習】 「事例から多職種協働を考える」	1 自身の職場の状況と課題(情報交換) 2 事例からアセスメントの7つの領域を応用し各専門職の役割を振り返る
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－地域福祉・多職種連携コース－

1 研修名	栄養士・調理師研修		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	4,800円
4 目的	福祉施設に勤務する栄養士・調理師として、自らの専門性をさらに高めるための知識などを学ぶとともに、多職種連携における視点から、利用者の生活を食事面から支えていくために必要な視点や方策を学ぶことを目的とする。		
5 実施日	令和7年2月6日(木)	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の社会福祉施設・事業所に勤務する栄養士、調理師など栄養管理や給食に携わる職員		
8 受講人数	38人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	<b>【講義】</b> 「今の時代に求められる栄養士の役割」 兵庫県保健医療部 健康増進課 保健・栄養指導班(栄養・食育担当) 主幹 信木 由紀子氏	1 栄養支援と食を巡る情勢 2 社会福祉施設における栄養士・調理師の役割 3 地域連携や多職種連携の必要性
2月6日 13:00 ～ 16:30	<b>【実践報告・グループ討議】</b> 「利用者の生活を食で支える」 <実践報告者> <b>高齢</b> 独立行政法人地域医療機能推進機構 神戸中央病院附属介護老人保健施設 管理栄養士 岸野 三枝子氏 <b>障害</b> 社会福祉法人宝塚さざんか福祉会 宝塚あしたば園 管理栄養士 薮内 一美氏 <b>保育・児童</b> 社会福祉法人夢工房 夢の園保育園 栄養士 矢田 梢氏 <進行> 兵庫県栄養士会 副会長 中森 良子氏	1 各組織での食に関する取組みや工夫 2 取組みを進めるための多職種との連携や協働する際の視点やポイント
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－スーパーバイザー養成コース－

1 研修名	リーダーのためのスーパービジョン基礎ゼミナール		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	24,800円
4 目 的	社会福祉施設・事業所等に勤務する現場リーダーが、これまでの対人援助における実践を客観的かつ論理的に振り返るとともに、自身だけでなく、職場の実践力向上にも資するスーパービジョン※の基本的な知識・技術を習得する。		
5 実施日	第1回:令和6年10月24日(木) 第2回:令和6年11月19日(火) 第3回:令和6年12月18日(水) 第4回:令和7年1月21日(火)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の社会福祉施設・事業所等に勤務する現場リーダーで、スーパービジョンを実施する(今後その役割を担うことを期待されている)職員(例:部課長、フロアー長、係長や主任等)		
8 受講人数	15人		

講 師 兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10月24日	10:30～12:00 【講義・演習】 「支援に求められる専門性Ⅰ (対人援助の基本)」	1 ゼミナールの目的と進め方 2 専門職としての価値・倫理 3 アセスメントとICF
	13:00～16:30 【講義・演習】 「支援に求められる専門性Ⅱ (対人援助の基本)」	1 信頼関係形成と自己覚知 2 相談面接技術と社会資源 3 実践の記録(事例シート作成)
	16:30	第1回終了・課題説明(事例シート及び振り返りシートの作成)
11月19日	10:30～12:30 【講義・演習】 「相手と自分を育むスーパービジョンⅠ」	1 前回の振り返り 2 社会福祉の職場における人材育成・支援者支援 3 スーパービジョンの意義・機能・方法・視点
	13:30～16:30 【講義・演習】 「相手と自分を育むスーパービジョンⅡ」	1 スーパービジョンの要素を取り入れた事例検討の意義 2 事例検討におけるスーパーバイザーの役割 3 事例提供者の決定
	16:30	第2回終了・課題説明(振り返りシートの作成)
12月18日	10:30～12:30 【講義・演習】 「事例検討の意義と方法」	1 前回の振り返り 2 事例検討の基本的な進め方と留意点
	13:30～16:30 【講義・演習】 「事例検討会の実際」	1 事例検討会の運営のポイントと参加メンバーの役割理解 2 スーパービジョンの体験的理解
	16:30	第3回終了・課題説明(振り返りシートの作成)

日時	研修科目	研修内容	
1 月 21 日	10:30 ～ 12:00	【講義・演習】 「事例検討会の実施（模擬）①」	1 これまでの振り返り 2 事例検討会の実施と観察Ⅰ
	13:00 ～ 16:30	【講義・演習】 「事例検討会の実施（模擬）②」 「まとめ・スーパービジョンを活用した 人材育成」	1 事例検討会の実施と観察Ⅱ 2 人材育成とチームワークの促進 3 スーパーバイザーとしての振り返りと 今後の目標
	16:30	振り返り／行動目標の設定／課題説明（修了レポート）	
	16:40	閉講	

●修了レポート集の発行

テーマ「ゼミナールを終えて～スーパーバイザーとして役割を発揮するために～」

- ① 受講前の課題に対する学びや新たな気づき
- ② 受講後、日常の業務に活かしたり、反映できたこと
- ③ 受講後、職場での新たな実践(今後しようと思うこと)や計画を立ててみようと思うこと
- ④ 自分や自身の仕事に関して、これから必要なこと、目指したいこと

－スーパーバイザー養成コース－

1 研修名	保育リーダーゼミナール		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	24,800円
4 目 的	これまでの保育実践を振り返りながら、主任保育士が直面している①人材養成、②子育て支援（保護者支援）に焦点をあて、ソーシャルワークで用いられる手法を手がかりに、スーパーバイザー（リーダー・指導者）としての役割を果たすためのスキルの習得を目的とする。		
5 実施日	第1回:令和6年9月13日(金) 第2回:令和6年10月18日(金) 第3回:令和6年11月22日(金) 第4回:令和6年12月20日(金)	6 場 所	Zoomによるオンライン
7 対 象 者	県内の保育所、認定こども園に勤務し、全4回通じて受講できる方で、新任職員や後輩の育成・指導を担う方（例:主任・主幹・副主任やそれに準ずる現場リーダーなど）		
8 受講人数	11人		

講 師 関西福祉科学大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授 小口 将典氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
9月13日	11:10～12:30 【講義】 「保育リーダーに求められるものと難しさーいま、保育所が直面している課題ー」	1 この研修で学ぶもの 2 保育の多様化の現状 3 リーダーが抱える悩み
	13:30～17:10 【講義・グループワーク】 「人材育成の課題」 「保育所保育指針(第5章職員の資質の向上)」 「基本理念と保育内容」 「職場の課題の整理」	1 人材養成における課題の共有 2 保育現場に求められている人材養成 3 「保育士」が「保育士」を育てる 4 組織マネジメント 5 職場の課題の見える化
	17:10	振り返り
	17:15	第1回終了
		第1回事後課題の作成
10月18日	11:10～12:30 【グループワーク】 「職場における問題の共有」	1 職場の課題の整理 2 保育内容の見直し 3 組織改善に向けて
	13:30～15:00 【講義・グループワーク】 「組織の改善に向けての取り組み」 「組織目標の設定」	1 PDCA サイクルによる組織改革 2 組織改善の理解 3 問題の構造を分析する
	15:00～16:00 【講義】 「ディズニーランドの人材養成」 「リーダーに求められるもの」	1 目指すべき人材養成 2 保育における価値と職業倫理 3 リーダーはボスではない
	16:00～17:10 【演習】 「コミュニケーション技術」 「職場におけるコミュニケーションの流れ」	1 よいリーダーになるための手がかり 2 話しかけにくい雰囲気を出していませんか？
	17:10	振り返り
	17:15	第2回終了
		第2回事後課題の作成

日時	研修科目	研修内容
11月22日	11:10～12:30 【講義】 「保育所における子育て支援の多様化」 「保育所保育指針（第4章 子育て支援）」 「保育所の特性を生かした支援」	1 子育て支援が求められている社会的背景 2 「子育て以外に関する相談」の多様化 3 保育所での対応の限界 4 他機関との連携
	13:30～15:30 【講義・演習】 「バイステックの7原則」 「インテーク面接」 「カレーライス の 作り方」	1 相談支援（人材養成）における基本原則 2 相談の場の築き方 3 「閉ざされた質問」と「開かれた質問」 4 「気づき」を促す言葉かけ 5 スーパービジョンの必要性
	15:30～17:10 【グループワーク】 「相手の力を引き出す質問技法」 「事例検討」 「私がやっていることは虐待なのでしょうか？」	1 リフレーミング 2 解決志向アプローチ
	17:10	振り返り
	17:15	第3回終了
		第3回事後課題の作成
12月20日	11:10～12:30 【グループワーク】 「課題の共有」 「解決志向アプローチの振り返り」	1 リフレーミング 2 解決志向アプローチ
	13:30～14:30 【講義・グループワーク】 「ヒヤリ・ハット」 「職員研修のあり方」	1 ハイブリッドの法則 2 新人だからこそ直面する事故の予測
	14:30～16:30 【グループワーク】 「キャリアデザインを意識した人材養成」 「人材養成プログラムの作成」	1 人材養成の手順 2 保育をどう伝える？
	16:30～17:10 【全体共有】 「学びの共有」	1 グループ発表 2 研修のまとめ 3 人材養成・保護者支援で使えるソーシャルワークの技術
	17:10	振り返り／行動目標の設定
	17:20	閉講
		修了レポートの作成・提出

●修了レポート集の発行

テーマ「今後の保育リーダーとしての取り組みに向けて」

- ① 研修を通して得た学びや気づき
- ② あなたの保育所（園）の保育を高めていくために、今後、自分が取り組もうと思うこと（または研修後、取り組んでいること）

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	管理職のためのマネジメント基礎講座		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	4,000円
4 目的	<p>大抵の場合、管理職になる瞬間はある日突然やってきます。準備する間もなく管理職としての仕事に就き、現場でのプレーヤーとしての仕事も求められ、学ぶ余裕もなく日々が過ぎていく。そんな状況が皆さんの周りにもありませんか？</p> <p>福祉現場で多忙を極める管理職の方にとって、「経営」や「マネジメント」といった幅広い概念や手法を学ぶのに、どこから手を付ければよいのだろうか悩まれることも多い。</p> <p>そこで、当講座では学習の最初のステップを提供するため、動画視聴により基本的な心構えや基礎知識を学び、今後の現場実践への手がかりを得ることを目的とする。</p>		
5 実施日	令和6年4月18日(木)～令和7年3月20日(木) (随時募集/受講期間約1か月)	6 場所	オンラインによる映像配信
7 対象者	県内の社会福祉施設・事業所における管理職以上の職にある方 (リーダー層で、受講希望される方も可)		
8 受講人数	計97人		

●講師 兵庫県立大学大学院 社会科学研究所 経営専門職専攻 教授 當間 克雄氏

●プログラム

視聴時間		研修科目	研修内容
第1回	合計 約110分	(動画①) 「経営・マネジメントの基本を知る」	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 管理職は孤独である</li> <li>2 経営・マネジメントとは</li> <li>3 マネジメントの三角形</li> <li>4 管理職の仕事・役割・スキル</li> <li>5 概念や理論を学び続ける重要性</li> </ol>
第2回	合計 約120分	(動画②) 「福祉事業の特性と人材の動機付け・育成」	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉事業の特性</li> <li>2 チームとして成果をあげるための声掛け・コミュニケーションのあり方</li> <li>3 承認を効果的に伝える実践</li> </ol>
まとめ	合計 約10分	(動画③) 「人を生かす管理職になるために」	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 全2回で学んだ内容の振り返り</li> <li>2 これからの学びについて</li> </ol>



－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	新任管理職研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	16,600円
4 目 的	組織やチームを管理する立場を担う管理職に求められる仕事や役割を理解するとともに、人材育成を通じた組織づくりや具体的なマネジメント分析手法等について、講師、受講者間での対話を通じて学ぶ。		
5 実施日	1日目:令和6年7月5日(金) 2日目:令和6年8月2日(金)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	主に新任の社会福祉施設・事業所の施設長・部門管理者(部課長・フロアー長)、社会福祉協議会事務局長、事務局次長、部課長等の管理職		
8 受講人数	37人		

●講 師 兵庫県立大学大学院 社会科学部 経営専門職専攻 教授 當間 克雄氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
7 月 5 日	13:20	開講／オリエンテーション	
	13:30 ～ 12:30	【講義・演習】 「経営・マネジメントの基礎を知る」	1 事前質問への回答 2 自身の現状や困りごとを棚卸してみよう 3 管理職は何を行い、どんな役割が期待されるのか
	13:30 ～ 16:10	【講義・演習】 「福祉事業の特性と 人材の動機付け、育成」	1 施設・事業所が取り組む事業の特徴 2 部下とのコミュニケーションのポイント
	16:10 ～ 16:30	【演習】 「自身の適応課題に取り組む」	管理職としての現場課題を明確にし、今後の行動目標をたてる
	16:30	1日目終了／現場での実践目標を設定・実践	
	8 月 2 日	10:20	オリエンテーション
10:30 ～ 12:30		【講義】 「人材育成のための具体的な マネジメント手法」	1 1日目の振り返り(事後質問への回答) 2 職場づくりのために理解しておきたい5つの視点 3 具体的なマネジメントの実践・分析手法を学ぶ
14:40 ～ 17:00		【演習】 「部下の育成・学習を促進する目標設定」	1 管理職としての現場課題を明確にし、今後の行動目標をたてる 2 質疑応答 3 2日間の振り返り・まとめ
16:30		振り返り／行動目標の設定	
16:40		閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	管理職のためのマネジメント実践研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	8,300円
4 目 的	<p>福祉の仕事は「感情労働」であり、ストレスを感じやすい仕事といえます。そのため、たとえ職員一人ひとりが高い専門性や経験を持っていたとしても、ストレスによってモチベーションが低下すると、利用者の方へのサービス提供の質にも影響を及ぼすことになる。</p> <p>福祉従事者には、仕事に誇りとやりがいを持ち、それによって前向きなモチベーションを持ちながら仕事に取り組むことが求められますが、それは決して容易いことではない。その原因はどこにあるのか。</p> <p>本研修では、福祉の仕事でやりがいと自律的なモチベーションを持つための心理的なメカニズムを概説する。そして、職員が生き生きと働くためのマネジメントとして、職員の仕事と成長を支援する「サーバント・リーダーシップ（※）」について理解を深め、それを実践するための素地を学ぶ。</p>		
5 実施日	令和7年3月6日(木)	6 場 所	Zoomによるオンライン
7 対象者	県内社会福祉施設・事業所・社会福祉協議会に勤務する管理職、リーダー、主査、主任等		
8 受講人数	23人		

●講 師 九州大学大学院 人間環境学研究院 准教授 池田 浩氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
13:00	開講／オリエンテーション	
13:10 ～ 15:20	【講義】 「職員の意欲を引き出す モチベーションマネジメント」	1 ケアワークと感情労働 2 やりがいとモチベーションを生み出すカギとしての「社会的貢献感」 3 ケアワークで求められる自律的モチベーション 4 やりがいとモチベーションを生み出すサーバント・リーダーシップほか
15:30 ～ 16:30	【演習】 「モチベーションマネジメントで 組織の活性化を図る」	1 組織（職場）が抱える課題は何か 2 現場で活かせる方策のヒントを探る
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	リスクマネジメント研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	8,300円
4 目 的	社会福祉施設・事業所の管理職・リーダーが、リスクマネジメントの観点から虐待について理解を深め、職場全体で虐待予防や早期発見・早期対応できる仕組みづくりに向けた基本的視点や実践手法等を習得する。		
5 実施日	令和6年10月4日(金)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の社会福祉施設・事業所で勤務する管理職、指導的職員(係長・主任・主査・リーダー等)		
8 受講人数	52人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
09:50	開講／オリエンテーション	
10:00 ～ 12:00	<b>【講義・演習】</b> 第1部 「虐待疑いケース発生時の対応と課題」 第2部 「虐待発生状況と関連法規について」 佐藤健宗法律事務所 弁護士 三好 登志行氏	第1部 1 もし、今虐待が起こったら？ 2 虐待疑いケースにおける課題 第2部 1 虐待の発生状況 2 虐待に関する法律の各種定めと厚生労働省、子ども家庭庁が示すマニュアル等について
10 月 4 日 13:30 ～ 13:30	<b>【講義】</b> 第3部 「虐待防止への取組みと事前準備」 佐藤健宗法律事務所 弁護士 三好 登志行氏	第3部 1 虐待防止委員会の設置と運営 2 社会福祉法人における苦情処理第三者委員会の活用 3 虐待発生時の各課題への対処法
13:30 ～ 16:00	<b>【実践報告・演習】</b> 「虐待防止委員会の設置と運営」  <報告者> 社会福祉法人みんなでききる(新潟県)理事 障害福祉サポートセンター「りとるらいふ」統括施設長 片桐 公彦氏  <進行> 佐藤健宗法律事務所 弁護士 三好 登志行氏	虐待防止委員会の設置や取組みの報告を聞き、自組織で取り組む際のポイントを学ぶ
16:00	振り返り／行動目標の設定	
16:10	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	管理職のためのストレスケア研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	8,300円
4 目 的	管理監督職が、ストレスマネジメントの意義や重要性を理解するとともに、自身や部下の心理的な健康状態を把握し、メンタル不調を予防するための方法や不調者への対応等、管理監督職に求められるセルフケア、ラインケアの知識・技術を習得することを目的とする。		
5 実施日	令和6年9月11日(水)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	県内社会福祉施設・社協・団体に勤務する管理職及び監督職等のリーダー		
8 受講人数	29人		

- 講 師 神戸親和大学 非常勤講師／公認心理師・臨床心理士・認定医療心理士  
高橋 美智子氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	【講義】 「ストレスの基礎知識とセルフケア」	1 ストレスの仕組み 2 福祉職場のストレスの特徴 3 セルフケアとストレスマネジメント
13:00 ～ 16:30	【講義・演習】 「管理監督職の役割とラインケアの進め方」	1 4つのケアと管理監督職の役割 2 いつもと違う職員の把握と対応 3 事例検討 4 コミュニケーションする際の方法と留意点 5 職場環境改善へのアプローチ
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	管理職のためのアンガーマネジメント・ハラスメント防止研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	10,500円(別途診断料)
4 目 的	<p>日常業務の中で、「よかれと思って言ったのに、こちらの意図が伝わらずイライラする…」「些細なことでカッとなり、部下に対してつい感情的な言い方をしてしまった」ということはありませんか。</p> <p>ときに「怒りの感情」は利用者への虐待や職員へのパワーハラスメントにもつながりかねない。自身の「怒りの感情」に気づいて向き合い、コントロールするための知識と技術を用いて、管理職としての対応のあり方や組織におけるパワーハラスメント防止への実践的な方法を学ぶことを目的とする。</p>		
5 実施日	令和6年12月13日(金)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	社会福祉施設、事業所、社会福祉協議会の施設長、事務局長、部門管理者(部長、課長、フロアー長)等		
8 受講人数	34人		

●講 師 株式会社ナースハート 代表取締役 井上 泰世氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:50	【講義・演習】 「管理職に求められる アンガーマネジメントの基本的理解」	1 アンガーマネジメントの基本理解と必要性 2 「怒り」の感情のコントロール方法
12月13日 13:50 ～ 16:30	【講義・演習】 「管理職として、適切に部下と関わる ～部下を育てる上手な叱り方～」	1 アンガーマネジメント診断結果のポイント 2 職場のパワーハラスメントについて 3 パワーハラスメントを防ぐための実践的方法(グループワーク)を繰り返し、実践的に学びます。
16:30	振り返り・行動目標の設定	
16:40	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	福祉従事者のためのアンガーマネジメント研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	7,500円(別途診断料)
4 目 的	<p>福祉従事者は人との関わりやコミュニケーションの過程で、時に双方の感情が衝突したり、一方の感情が高まる場面での対処が求められるなど、感情のコントロールが難しい職種でもあります。特に「怒りの感情」は、時に虐待やハラスメントにもつながりかねない。</p> <p>本研修では、中堅職員として利用者の尊厳を守り、より良い支援を行うために、自身の「怒りの感情」に気づき、自らの力でコントロールする等、怒りの感情と上手に向き合う方法について学ぶことを目的とする。</p>		
5 実施日	令和6年12月9日(月)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の社会福祉施設・事業所・社会福祉協議会等に勤務する職員で経験年数が概ね3年以上の中堅職員		
8 受講人数	54人		

●講 師 株式会社ナースハート 代表取締役 井上 泰世氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
12 月 9 日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:30	【講義・演習】 「福祉従事者に求められる アンガーマネジメントの基本的理解」	1 「怒り」の感情とは 2 アンガーマネジメントの必要性 3 揺れ動く感情との向き合い方
	13:30 ～ 16:30	【講義・演習】 「支援時における感情の扱い方」	1 自分の「怒り」の傾向やクセに気付く 2 「怒り」の感情のコントロール方法
	16:30	振り返り／行動目標の設定	
	16:40	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	職場定着研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	8,300円
4 目 的	<p>近年の研究では、「心理的安全性※」が、成果を出せるチームづくりに必要な条件のひとつとされ、企業でも取り入れられるなど、「心理的安全性」が確保された組織のあり方が注目されている。福祉職場はチームによる連携が欠かせない職場だが、心理的安全性が低い職場では、職員がミスを報告しなくなる、提案や発言をしなくなる可能性がある。強い不安やストレスが高まると、離職につながることも考えられる。</p> <p>本研修では、チームづくりに生かせる心理的安全性の考え方を理解し、職員が安心して働き続けられる組織づくりについて学ぶ。</p>		
5 実施日	令和6年10月16日(水)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の社会福祉施設・事業所、社会福祉協議会等に勤務する管理職及び監督職等のリーダー		
8 受講人数	36人		

- 講 師 一般社団法人チーム力開発研究所 理事  
九州大学大学院 人間環境学研究院 学術研究員 青島 未佳氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10月16日	10:50 開講／オリエンテーション	
	11:00～12:30 【講義・演習】 「リーダーが理解しておきたい『心理的安全性』とは」	1 心理的安全性の定義と考え方 2 心理的安全性の確保された組織とは
	13:30～16:00 【講義・演習】 「心理的安全性を生かした組織づくり」	心理的安全性の高い組織づくりに向けてリーダーが取り組むべきこと
	16:00 振り返り／行動目標の設定	
	16:10 閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	労務管理研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	8,300円
4 目 的	職員が安心して働ける職場づくりに向けた円滑な組織運営のために、リーダーに必要な労務管理の知識の理解を目的とする。		
5 実施日	令和7年1月31日(金)	6 場 所	Zoomによるオンライン
7 対 象 者	県内の社会福祉施設・事業所・社会福祉協議会に勤務する管理職・リーダー・労務担当等		
8 受講人数	63人		

- 講 師 社会保険労務士法人アイアール 樽谷総合事務所 代表・特定社会保険労務士  
樽谷 かず子氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	【講義1】 「労務管理関係法令の基本と最新情勢を学ぶ」	1 労務関係法令の基本と制度改正動向 2 知っておきたい、労務管理をめぐる最新トピックス
13:00 ～ 16:00	【講義2】 「福祉職場における労務管理上の留意点とトラブル防止に向けて」	1 おさえておくべき労務管理上の留意点 2 労務管理上のトラブル事例とトラブルを未然に防ぐためのポイント
16:00 ～ 16:30	質疑応答・まとめ	
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	



－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	人が育ち、自分も伸びるリーダーシップ研修 Aコース		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	6,200円
4 目的	管理職、指導的職員が、リーダーに求められる役割及び組織の課題把握とその解決方法を学ぶことで、チームのマネジメント力を高める。		
5 実施日	令和6年6月10日(月)	6 場所	Zoomによるオンライン
7 対象者	県内の社会福祉施設・事業所、社会福祉協議会に勤務する管理職・現場リーダー（係長や主任等）		
8 受講人数	54人		

●講師 日本女子大学 人間社会学部 教授 久田 則夫氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
9:50	開講／オリエンテーション	
10:00 ～ 12:00	【講義・演習】 「求められるリーダーシップとは ～その視点と役割～」	1 質の高い利用者支援に求められるリーダーの能力と行動 2 4つのマネジメント推進とリーダーの役割 3 福祉職場の現状把握
6 月 10 日 13:00 ～ 14:50	【演習】 「リーダーとして職場の課題と いかに向き合い、対処するか」	1 各職場で抱える問題や改善するべき点の討議 2 リーダーとしての実行プロセス 3 業務を改善する行動計画づくり
14:50 ～ 15:00	【まとめ・講評】 「明日からの実践に向けて」	1 リーダーとしての視点の再確認 2 今後の実践に向けたポイント理解
15:00	振り返り／行動目標の設定	
15:10	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	人が育ち、自分も伸びるリーダーシップ研修 Bコース		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	6,200円
4 目的	<p>近年、組織を構成する職員や働き方の多様化が進む中で、これらに対応したチームのマネジメントはどのように行っていけばよいのか。リーダーの皆さんは、強靱なリーダーシップを発揮し、組織を引っ張っていく必要があると思っておられますか。ときにはそのような役割も求められますが、リーダーシップのあり方は時代によっても変遷する。</p> <p>本研修は、今の時代に求められるリーダーシップ理論を知り、リーダーに求められる役割や組織の課題把握とその解決方法を学ぶことで、マネジメント力を高めることを目的とする。</p>		
5 実施日	令和7年2月20日(木)	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の社会福祉施設・事業所、社会福祉協議会に勤務する管理職・現場リーダー（係長や主任等）		
8 受講人数	49人		

●講師 関西学院大学 商学部 助教 松下 将章 氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	【講義】 「自分らしいリーダーシップとは」	1 組織を取りまく環境変化 2 リーダーシップの定義と変遷
13:00 ～ 16:30	【演習】 「リーダーシップを発揮したチームづくり」	1 リーダーが抱える葛藤やモヤモヤに 気づき、それをわかちあう 2 その解決に向けた視点や手法の理解
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	コーチング研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	6,200円
4 目 的	管理職、リーダーに求められる人材育成上の役割や技法を学ぶとともに、それらを活用し、組織変革に向けて組織の課題把握とその解決に応用するマネジメント力を高める。		
5 実施日	令和6年11月13日(水)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内社会福祉施設・事業所、社協等に勤務する管理職、チームリーダー（係長や主任等）		
8 受講人数	74人		

●講 師 株式会社ふくなかまジャパン 代表取締役社長 眞辺 一範氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	【講義・演習】 「チームメンバーの育成に必要な基本的な考え方 ～コーチングとその基本姿勢～」	1 OJTとコーチングの概念・基本姿勢 2 コーチングに必要な基本スキル
11 月 13 日 13:00 ～ 16:00	【講義・演習】 「育ち合うチームづくりとコーチングの実践」	ロールプレイを通じたチームメンバーへのコーチング
16:00 ～ 16:30	【まとめ・振り返り】 「今後の行動計画を立てる」	
16:30	振り返り/行動目標の設定	
16:40	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	職場研修担当者研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	5,300円
4 目 的	<p>「人材育成計画の策定が進められない」「計画を策定したけど実行に至らない」「評価や振り返りまで実施できていない」といったお悩みはありませんか？</p> <p>この研修では、人材育成の目的と重要性を職員の視点、顧客の視点、組織の視点から整理し、職務をとおして能力開発をする「OJT」や、「OJT」を補完する「OFF-JT」の特徴について理解を深める。</p> <p>また、職員の動機付け、定着を促進し、そしてサービスの質の向上につながる人材育成計画の作成から実践、評価・振り返りに至る一連の進め方やその具体的内容について学ぶ。</p>		
5 実施日	令和6年11月20日(水)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	県内の社会福祉施設・事業所、社会福祉協議会における職場研修担当者		
8 受講人数	32人		

●講 師 株式会社エイデル研究所 事業企画部部长 櫻井 園子氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
11 月 20 日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:00	<p>【講義】 「人材育成とは」</p> <p>【グループワーク】 「人材育成の難しさ」</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人材育成の目的と重要性</li> <li>2 自組織における人材育成の在り方のセルフチェック</li> <li>3 人材育成の阻害要因の明確化</li> </ol>
	13:00 ～ 13:50	<p>【講義＋ワーク】 「階層別人材育成計画の作成①」</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 階層と役割の明確化</li> <li>2 各階層に求められる職務行動や知識、技術の抽出</li> </ol>
	14:00 ～ 14:50	<p>【講義＋ワーク】 「階層別人材育成計画の作成②」</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 育成手法の整理</li> <li>2 育成計画の骨組みの作成</li> </ol>
	15:00 ～ 15:50	<p>【講義＋ワーク】 「階層別人材育成計画の作成③」</p>	キャリア段階ごとの人材育成のポイント
	16:00	<p>【講義＋ワーク】 「階層別人材育成計画の検証と評価」</p>	作成した人材育成計画の検証と評価の視点
	16:20	まとめ	
	16:30	振り返り／行動目標の設定	
	16:40	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	フォロワーシップ研修		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	6,200円
4 目的	<p>一定の勤務経験を積んできた中堅職員は、指示をうけて自身のことができる新任職員の段階を超えて、主体的に現場業務の中核を担うことが期待される。また、先輩・上司の立場、役割、意向を理解したうえで、自身だけでなく、後輩職員を指導・支援していく立場でもある。</p> <p>本研修では、フォロワーシップ※の考え方をもとに、中堅職員に期待される役割を理解し、これまでの実践を振り返りながら、現場実践に活かせる行動原理等を習得する。</p> <p>※ フォロワーシップとは、一般的に、チームの成果を最大化させるために、自律的・主体的にリーダーに働きかけ、支援することを意味する。</p>		
5 実施日	令和6年5月15日(水)	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の社会福祉施設・事業所・社会福祉協議会等に勤務する中堅職員 (概ね経験年数3年目以上の職員)		
8 受講人数	67人		

●講師 滋賀大学 経済学部 企業経営学科 教授 小野 善生氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
5月15日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:00	【講義】 「中堅職員に求められる基本的役割 ～フォロワーの視点からリーダーをみる～」	1 中堅職員のためのフォロワーシップとは 2 中堅職員の役割と、リーダー・フォロワーの関係の理解
	13:00 ～ 16:30	【演習】 「上司・部下との橋渡し役となり、 共に組織を支えるために」	1 中堅職員としての自己理解を深める 2 課題の明確化と行動目標設定
	16:30	振り返り／行動目標の設定	
	16:40	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	OJTリーダー養成研修（基礎編）		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	5,300円
4 目的	新任職員や後輩職員等のOJTを担う職員（エルダー、OJTリーダー等）に求められる役割を理解するとともに、OJTを効果的に推進するための基礎的な方法を学ぶ。		
5 実施日	令和6年7月4日（木）	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	① 県内社会福祉施設・団体に勤務する職員で、新任職員や後輩の育成・指導を担う方（OJT担当の経験年数が概ね3年未満の方） ② 上記①の上位者である管理職（所属長・事務局長・部門管理者等）やリーダー		
8 受講人数	95人		

●講師 関西福祉科学大学 学長 津田 耕一氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
7 月 4 日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:00	【講義】 「OJTを理解しよう」	1 職場研修の形態とOJT 2 OJTの重要性 3 OJTの意味と進め方
	13:00 ～ 14:30	【講義・演習】 「OJTを担う者の役割とは」	1 OJTを担う職員の心がまえと留意点 2 リーダー・管理職と連携した職場づくりと人材育成の方法
	14:40 ～ 16:30	【演習・まとめ】 「明日からの実践に向けた取り組み」	1 自らの経験や実践を振り返る 2 OJTの実際（業務を依頼・指示する際の手順やポイント）
	16:30	振り返り／行動目標の設定	
	16:40	閉講	

－人材育成・チームマネジメントコース－

1 研修名	OJTリーダー養成研修（実践編）		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	8,400円
4 目 的	新任職員等のOJTを担う職員（エルダー、OJTリーダー等）が、OJTの展開方法を踏まえ、的確に役割を遂行できるための知識や技術を習得する。		
5 実施日	1日目:令和6年7月25日(木) 2日目:令和6年10月3日(木)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	県内社会福祉施設・団体に勤務する職員で、新任職員や後輩の育成・指導を担う方（OJT担当の経験年数が概ね3年以上の方）		
8 受講人数	65人		

●講 師 関西福祉科学大学 学長 津田 耕一氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
7月25日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:30	【実践報告】 「新任職員等へのOJTの実際」 <登壇者> 社会福祉法人勝心会 ほうらいの里 山本 将史氏 社会福祉法人楽久園会 ゆりの荘 藤本 晋志氏	1 チームワークや意欲向上に向けた取り組み 2 気になる職員の育成の取り組み
	13:30 ～ 16:45	【講義・演習】 「職員の育成上の課題を整理し、 OJT実践計画を作成しよう」	1 職員の育成上の課題整理と目標の検討 2 OJT実践計画の作成
	16:45	1日目終了	※職場でのOJTの実践課題提示
10月3日	10:20 ～ 12:30	【講義・演習】 「職場での実践の振り返り、 OJT実践計画を改善しよう」	1 1日目に作成した実践計画に基づく職場でのOJT実践の振り返り 2 研修での学びを踏まえ、実践計画の改善を図る
	13:30 ～ 16:45	【講義・演習】 「教え方の工夫を学ぼう」 ～指導力の向上に向けて～	1 OJTの実践における教え方（“ホウ・レン・ソウ”の重要性と方法） 2 職員とのコミュニケーションの図り方
	16:45	振り返り／行動目標の設定	
	16:55	閉講	※職場での実践課題提示

－新任フォローアップコース－

1 研修名	新任職員ステップアップ研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	4,800円
4 目 的	社会福祉施設・事業所、社協等に勤務する新任職員が、専門職・組織人として習得すべき仕事の基本姿勢とセルフマネジメントの基本を身につけるとともに、今後、中堅職員にステップアップするうえでの目標を描く。		
5 実施日	令和6年11月8日(金)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内の社会福祉施設・事業所、社協等で、1年以上勤務する新任職員		
8 受講人数	91人		

- 講 師 一般財団法人野外活動協会（OAA）  
理事長・生涯学習コーディネーター 清水 勲夫氏

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
11月8日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:00	【講義・演習】 「福祉のプロ・組織人に求められる 中堅職員としての資質」	1 新任としてのこれまでを検証・評価し、今後のステップアップの課題を明らかにする 2 専門職・組織人として求められる能力・知識・技術について理解する 3 受講者間で、これまでをふり返り共有する（グループづくり）
	13:00 ～ 16:30	【講義・討議・演習】 「求められる中堅職員への ステップアップ」 ～現状の検証から次の一手を探り、 そして、次への一歩を踏み出す～	1 職務におけるリーダーシップを学び、メンバー育成や業務の円滑な推進について学ぶ 2 連携を促進するコミュニケーション・ファシリテーションの基本を学ぶ 3 自身の今後の目標や課題を見出す
	16:30	振り返り／行動目標の設定	
	16:40	閉講	



－トップマネジメント経営コース－

1 研修名	社会福祉協議会新任局長研修		
2 種 別	県指定管理研修 ・ 県補助研修 ・ 自主研修	3 参加費	3,200円
4 目 的	社会福祉協議会が地域のニーズに応え、地域福祉推進の要としての役割を果たせるよう、事務局長として必要な知識や基本的視点を身につける。		
5 実施日	令和6年4月22日(月)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	新任の事務局長及び事務局長次長		
8 受講人数	8人		

●プログラム

日時	研修科目／講師	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	講義①「社会福祉の動向と地域福祉」 武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 教授 松端 克文氏	1 社会福祉を取り巻く動向（情勢・政策動向）と、焦点となる課題を理解する 2 地域福祉の目的と理念を学ぶ 3 地域福祉の対象と推進方法を学ぶ
13:00 ～ 13:45	講義②「社会福祉協議会の機能と役割」 兵庫県社会福祉協議会 事務局次長 杉田 健治	1 社協の基本機能とその成り立ちを学ぶ 2 県社協の役割と市町社協との関係を理解する
14:00 ～ 14:30	講義③「社会福祉協議会の経営視点と事務局長の役割」 兵庫県社会福祉協議会 事務局長 馬場 正一	1 社協を取り巻く情勢と経営課題 2 事務局長の基本的な役割
14:30 ～17:00	【実践報告】 「社協経営の実際 ～現場実践から学ぶ～」 <実践報告者> 豊岡市社会福祉協議会 事務局長 田中 正義氏 <コーディネーター> 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠	実践報告を通して、社協経営の視点と組織における事務局長の基本的な役割への理解を深める
17:00	振り返り／行動目標の設定	
17:10	閉講	

ートップマネジメント経営コースー

1 研修名	社会福祉法人理事・評議員研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	9,300円
4 目 的	変わる日本の人口、家族、地域社会のあり様や社会経済の現状と動向を踏まえ、これから迎える大きな社会の変化に社会福祉法人として対応していくための手掛かりを得るとともに、社会福祉法人制度や関係法令、理事や評議員に求められる役割や責務、社会福祉法人の健全な経営のあり方等に理解を深めることを目的とする。		
5 実施日	令和7年3月4日(火)	6 場 所	Zoomによるオンライン
7 対 象 者	県内の社会福祉法人理事(長)、評議員、監事、施設長や事務局長等幹部職員		
8 受講人数	11人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
3 月 4 日	13:00	開講／オリエンテーション	
	13:10 ～ 15:20	【講義1】 「人生100年時代の到来」 政策研究大学院大学 教授 小野 太一氏	1 日本における人口・社会経済の変化 2 地域社会の諸課題は何か 3 社会福祉法人への期待
	13:00 ～ 13:45	【講義2】 「社会福祉法人のガバナンス ～理事・評議員の役割から～」 独立行政法人 福祉医療機構 経営サポートセンター リサーチグループ グループリーダー 松本 庄平氏	1 社会福祉法人の使命とガバナンス 2 社会福祉法人の健全な経営に求められること 3 社会福祉法人の理事と評議員等の役割、責任及び業務遂行上の留意点
	17:00	振り返り／行動目標の設定	
	17:10	閉講	

－トップマネジメント経営コース－

1 研修名	社会福祉法人監事研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	9,300円
4 目 的	社会福祉法人を取り巻く情勢や期待される役割を理解し、監事としての役割と責任を再確認するとともに、監査に必要な基礎知識を身につけることを目的に開催する。		
5 実施日	令和6年5月7日(火) ～令和7年1月21日(火) (随時申込/視聴期間約1か月)	6 場 所	アーカイブ配信
7 対 象 者	県内社会福祉法人の監事 (※理事長、理事、施設長、事務局長、職員の受講可)		
8 受講人数	6人		

●講 師 一般社団法人福祉経営管理実践研究会 副会長 三宅 由佳氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
約90分	【講義】 「社会福祉法人を取り巻く情勢と 監事の役割」	1 社会福祉法人制度改革で求められたこと 2 社会福祉法の概要 3 法人監事の権限と義務 4 不正事例検討
約90分	【講義】 「監査の実際（業務監査を中心に）」	1 社会福祉法人の監事監査 2 監事監査規程の検討 3 指導監査ガイドラインの概要 4 業務監査における視点とチェックポイント
約105分	【講義】 「監査の実際（会計監査を中心に）」	1 経理規程の見直し 2 計算書類の見方 3 会計監査における視点とチェックポイント 4 (参考) 社会福祉法人に今後求められていくこと
終了後	受講確認・振り返り提出	

－財務・会計コース－

1 研修名	会計実務基礎講座（通信課程）		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	35,500円
4 目 的	会計実務担当者の初任者に必要な会計業務に関する基礎知識を習得する。		
5 実施日	令和6年6月～11月 <スクーリング> 1回目:令和6年6月5日(水) 2回目:令和6年11月12日(火)	6 場 所	職場、自宅等での自習 学習サポートとして、オンラインによる映像配信及びスクーリングを実施(県福祉人材研修センター)
7 対象者	社会福祉法人・施設の会計担当初任者や社会福祉法人会計を基礎から学びたい方		
8 受講人数	63人		

- 委託機関 一般社団法人福祉経営管理実践研究会  
(担当講師:三宅由佳税理士事務所 代表 三宅 由佳氏)

●プログラム

実施日・実施方法	学習項目	課題の内容
6月5日(水) 13:30～16:30 集合または オンライン配信	スクーリング① (180分)	講座開始にあたって
	・社会福祉法人のあり方と会計 ・計算書類について ・減価償却(入門編)	1 科目及び残高からの貸借対照表作成 2 支払資金と純資産の計算 3 計算書類(貸借対照表、資金収支計算書、事業活動計算書)間の関係性
自宅や職場	6月課題への取り組み	
7月1日(月) ～7月31日(水) オンライン配信	ワンポイント配信①(60分程度)	7月学習ポイント解説
	・簿記・会計とは ・勘定科目 ・仕訳と転記 ・支払資金の取引	支払資金関係取引の仕訳(基礎)と転記
自宅や職場	7月課題への取り組み	
8月1日(木) ～8月31日(土) オンライン配信	ワンポイント配信②(60分程度)	8月学習ポイント解説
	・試算表の作成 ・6桁精算表の作成	1 支払資金関係取引の仕訳(応用)と転記 2 6桁精算表の作成
自宅や職場	8月課題への取り組み	
9月1日(日) ～9月30日(月) オンライン配信	ワンポイント配信③(60分程度)	9月学習ポイント解説
	・固定資産と減価償却 ・8桁精算表の作成(基礎)	1 固定資産の取得、減価償却、売却、除却の処理 2 8桁精算表の作成(基礎)
自宅や職場	9月課題への取り組み	
10月1日(火) ～10月31日(木) オンライン配信	ワンポイント配信④(60分程度)	10月学習ポイント解説
	・固定負債と引当金 ・基本金・国庫補助金等特別積立金 ・8桁精算表の作成(応用)	1 固定負債と引当金に係る仕訳 2 基本金・国庫補助金等特別積立金に係る仕訳 3 8桁精算表の作成(応用)
自宅や職場	10月課題への取り組み	
11月12日(火) 13:30～15:30 集合または オンライン配信	スクーリング②(120分)	総まとめ
自宅や職場	総まとめ問題(修了テスト)への取り組み	

－財務・会計コース－

1 研修名	会計実務フォローアップ研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	6,200円
4 目 的	① 社会福祉法人会計に関する入門、初級程度の内容を学び（本会主催の「会計実務基礎講座（通信課程）」で学んだ内容の復習を行い）、基礎知識の定着を図る ② 実務で、処理に悩んだり応用的な知識を必要としたりする実務上のポイントを学び、中級レベルの学習に向けた足がかりとする		
5 実施日	令和6年7月19日(金)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	① 本会主催の「会計実務基礎講座（通信課程）」を修了、受講された方 ② 県内の社会福祉法人、施設に勤務する会計責任者・担当者及び会計を学びたい方		
8 受講人数	44人		

- 講 師 一般社団法人 福祉経営管理実践研究会 副会長  
三宅由佳税理士事務所 代表 三宅 由佳氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:20	開講／オリエンテーション	
10:30 ～ 12:00	【講義・演習】 「社会福祉法人会計の基本をおさらいする」	1 社会福祉法人会計簿記の基礎 2 社会福祉法人会計基準の概要 3 会計の区分 4 計算書類等の見方
13:30 ～ 14:30	午前中の続き	
14:30 ～ 16:30	【講義・演習】 「会計実務担当者として押さえておきたい 社会福祉法人会計特有のポイント」	1 固定資産の管理 2 引当金の処理 3 基本金・国庫補助金等特別積立金の処理
16:30	振り返り／行動目標の設定	
16:40	閉講	

－財務・会計コース－

1 研修名	会計実務担当者研修（税務編）		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	8,300円
4 目 的	法人の税務会計に関する正しい知識を身につけ、適正に処理する力を習得する。		
5 実施日	令和6年8月26日(月)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対象者	県内社会福祉法人・施設の会計責任者及び担当者		
8 受講人数	59人		

●講 師 田中正明税理士・行政書士事務所 所長・税理士 田中 正明氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
8 月 26 日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:00	【講義】 「社会福祉法人の税務Ⅰ」	1 社会福祉法人の消費税 ・課税対象の範囲の確認 （障害者相談支援事業等） ・インボイス制度と実務対応
	13:00 ～ 14:30		
	14:30 ～ 16:30	【講義】 「社会福祉法人の税務Ⅱ」	2 社会福祉法人の源泉所得税 ・給与等の源泉徴収 ・報酬・料金等の源泉徴収 ・定額減税と年末調整 3 社会福祉法人と電子帳簿対応 4 最新の会計・税制の動向
	16:30	振り返り／行動目標の設定	
	16:40	閉講	

－財務・会計コース－

1 研修名	会計実務担当者研修（予算・決算編）		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	8,300円
4 目 的	法人の予算・決算業務に関する正しい知識を身につけ、実務上の留意点を習得することを目的とする。		
5 実施日	令和6年12月4日（水）	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	県内社会福祉法人・施設の会計責任者及び担当者		
8 受講人数	44人		

●講 師 田中正明税理士・行政書士事務所 所長・税理士 田中 正明氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容	
12 月 4 日	10:20	開講／オリエンテーション	
	10:30 ～ 12:30	【講義】 「社会福祉法人の会計基準に基づく決算・予算①」	1 会計基準における決算書の体系と機能 2 予算チェックリストによる確認 3 決算チェックリストによる確認
	13:30 ～ 16:30	【講義】 「社会福祉法人の会計基準に基づく決算・予算②」	4 決算チェックリストによる確認（続） 5 会計処理のための最新動向
	16:30	振り返り／行動目標の設定	
	16:40	閉講	

－財務・会計コース－

1 研修名	社会福祉法人財務管理講座		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	8,300円
4 目 的	社会福祉法人会計の基本と特徴をおさえ、適正な経営を実現するための判断力を養う。		
5 実施日	令和6年9月10日(火)～令和7年3月31日(月) (随時申込/視聴期間約1か月)	6 場 所	オンラインによる動画配信
7 対象者	県内社会福祉法人・事業所の役職員で、計算書類についての知識及び計算書類に基づく経営分析方法を学び、経営状況の改善を図ろうとする者		
8 受講人数	20人		

●講 師 田中正明税理士・行政書士事務所 所長・税理士 田中 正明氏

●プログラム

視聴時間	研修科目	研修内容
1	約13分 I 社会福祉法人における財務分析の目的	1 財務分析の視点 2 財務分析の方法
	約10分 II 財務分析のための準備資料	準備する資料と経営指標
	約23分 III 法人分析のための計算書類の見方と指標	1 計算書類の相互関係 2 経営指標
	約16分 IV 法人分析の演習	1 計算書類の準備 2 法人用財務分析シートへの入力 3 グラフの確認
2	個人演習	プログラム1の動画視聴後、各自で、自法人の計算書類をもとに「法人用財務分析シート」の作成に取り組む。
3	約16分 V 事業財務分析のための計算書類の見方	計算書類(資金収支計算書・事業活動計算書、貸借対照表)の見方
	約17分 VI 事業財務分析の演習	1 計算書類の準備 2 事業用財務分析シートへの入力 3 データの補正
4	個人演習	プログラム3の動画視聴後、各自で、自法人の計算書類をもとに、「事業用財務分析シート」の作成に取り組む。
5	約34分 VII 事業分析のための指標①	1 主要分析指標・データ 2 分析結果の注意事項 3 原因を探る・対策を練る①
	約24分 VII 事業分析のための指標②	1 原因を探る・対策を練る② 2 財務分析の問題点と限界
6	振り返りシート及び行動目標シートの作成	



－ヤングケアラー・若者ケアラー支援研修コース－

1 研修名	ヤングケアラー・若者ケアラー支援研修		
2 種 別	県指定管理研修・ <u>県委託研修</u> ・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	<p>祖父母、父母、兄弟などへの介護や看護、日常生活上での世話などをする若者ケアラーや18歳未満の子どものヤングケアラーは、周囲も気づきにくく本人や家族の自覚がないまま表面化しないなど、近年、大きな社会問題となっている。</p> <p>このため、兵庫県ケアラー支援に関する検討委員会が策定した「兵庫県ケアラー・ヤングケアラー支援推進方策(令和4年2月策定)」を踏まえ、福祉、介護、医療、教育等の様々な分野が連携した支援体制を構築するため、関係機関の職員等を対象とした研修を実施する。</p>		
5 実施日	第1回:令和6年11月26日(火) 第2回:令和6年12月6日(金)	6 場 所	県福祉人材研修センター
7 対 象 者	<p>次の2点をいずれも満たす方</p> <p>①「兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラー支援研修(オンライン研修)」を受講した方 または県HPに掲載している「兵庫県ヤングケアラー・若者ケアラーへの理解を深めるシンポジウムR4年度」の配信動画を視聴した方</p> <p>② ヤングケアラー等の相談支援を行う(可能性が高い)支援現場の中堅リーダー職員 または管理職等</p>		
8 受講人数	111人(第1回:53人、第2回:58人)		

●プログラム

日時	研修科目／講師名
13:20	開講／オリエンテーション
13:30 ～ 13:50	【講義】 「ヤングケアラー支援と多職種連携 ～それぞれの立場からの気づきと役割～」 大阪公立大学 現代システム科学研究科 教授 濱島 淑恵氏
13:50 ～ 14:20	【事例紹介】 「元ヤングケアラーの体験談」 特定非営利活動法人ふうせんの会 運営メンバー 川崎 大介氏
14:30 ～ 14:50	【講義】 「現場支援で大切なこと ～アプローチと多職種連携～」 特定非営利活動法人ふうせんの会 アドバイザー 末廣 順子氏
14:50 ～ 17:00	【演習】 「事例をもとに支援・多職種連携を考える」 大阪公立大学 現代システム科学研究科 教授 濱島 淑恵氏 特定非営利活動法人ふうせんの会 運営メンバー 川崎 大介氏 特定非営利活動法人ふうせんの会 アドバイザー 末廣 順子氏 特定非営利活動法人ふうせんの会 事務局次長 佐治 明子氏 特定非営利活動法人ふうせんの会 運営メンバー 朝田 健太氏
17:00	閉講

日時	研修科目／講師名
13:20	開講／オリエンテーション
13:30 ～ 13:50	【講義】 「ヤングケアラー支援と多職種連携 ～それぞれの立場からの気づきと役割～」 関西福祉科学大学 社会福祉学部 福祉創造学科 准教授 南 多恵子氏
13:50 ～ 14:20	【事例紹介】 「元ヤングケアラーの体験談」 特定非営利活動法人ふうせんの会 運営メンバー 川崎 大介氏
12月6日 14:30 ～ 14:50	【講義】 「現場支援で大切なこと ～アプローチと多職種連携～」 特定非営利活動法人ふうせんの会 アドバイザー 末廣 順子氏
14:50 ～ 17:00	【演習】 「事例をもとに支援・多職種連携を考える」 関西福祉科学大学 社会福祉学部 福祉創造学科 准教授 南 多恵子氏 特定非営利活動法人ふうせんの会 運営メンバー 川崎 大介氏 特定非営利活動法人ふうせんの会 アドバイザー 末廣 順子氏 特定非営利活動法人ふうせんの会 事務局長代理 西川 ゆかり氏 特定非営利活動法人ふうせんの会 運営メンバー 尾上 浩美氏
17:00	閉講

－介護支援専門員養成コース－

1 研修名	介護支援専門員実務研修		
2 種 別	県知事指定研修	3 参加費	受講料 52,000 円 資料代 3,000 円
4 目 的	介護支援専門員に求められる価値（態度）、知識、技術を修得する。		
5 実施日	第 26 回合格者対象 後期:令和 6 年 4 月 11 日(木) ～令和 6 年 7 月 16 日(火) 第 27 回合格者対象 前期:令和 7 年 1 月 9 日(木) ～令和 7 年 3 月 15 日(土)	6 場 所	第 26 回後期 県福祉人材研修センター 第 27 回前期 県福祉人材研修センター
7 対 象 者	介護支援専門員実務研修受講試験合格者		
8 受講人数	1,245 人（第 26 回：535 人、第 27 回：前期 710 人）		

●プログラム（15 日間、研修時間 87 時間）

（第 26 回後期）

[1 日目]

9:10	9:20	10:25	12:30	13:20	15:25
オリエンテーション	【講義】 「ケアマネジメン トの展開(講義編)①基 礎理解」	【講義】 「ケアマネジメン トの展開 (講義編) ②脳血管疾患」	昼 休 憩	【講義】 「ケアマネジメ ントの展開(講義 編) ③認知症」	事 務 連 絡

[2 日目]

9:30	9:45	12:55	13:55	16:05
オリエンテーション	【演習】 実習振り返り	昼 休 憩	【演習】 「ケアマネジメン トの展開(演習 編) ①基礎理解」	事 務 連 絡

[3 日目]

9:30	9:35	12:45	13:35	16:45
オリエンテーション	【演習】 「ケアマネジメン トの展開(演 習編) ②脳血管疾患」	昼 休 憩	【演習】 「ケアマネジメン トの展開(演習編) ③認知症④筋骨格系疾患及び廃用症 候群」	事 務 連 絡

[4 日目]

9:10	9:15	11:15	12:05	14:10	16:20
オリエンテーション	【講義】 「ケアマネジメン トの展開(講義編)④筋骨格 系疾患及び廃用症候群」	昼 休 憩	【講義】 「ケアマネジメン トの展開(講義編)⑤内臓 の機能不全」	【講義】「ケアマネジメ ントの展開(講義編)⑥ 看取り」	事 務 連 絡

[5 日目]

9:30	9:40	12:50	13:40	16:50
オリエンテーション	【演習】 「ケアマネジメン トの展開 (演習編) ④筋骨格系疾患及 び廃用症候群」	昼 休 憩	【演習】 「ケアマネジメン トの展開(演 習編) ⑤内臓の機能不全」	事 務 連 絡

－介護支援専門員養成コース－

[6日目]

9:30	9:35	12:45	13:35	16:45
オリエンテーション	【演習】 「ケアマネジメントの展開 (演習編)⑥看取り」	昼休憩	【講義・演習】 「アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合演習1」	事務連絡

[7日目]

9:30	9:40	11:50	12:40	14:40
オリエンテーション	【講義・演習】 「アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合演習2」	昼休憩	【演習】 「研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り」	修了証明書交付

(第27回前期)

[1日目]

9:10	9:25	12:35	13:25	16:55
オリエンテーション	【講義】 「介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント」	昼休憩	【講義】 「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」	事務連絡

[2日目]

9:10	9:15	12:25	13:15	16:25
オリエンテーション	【講義】 「自立支援のための ケアマネジメントの基本」	昼休憩	【講義】 「自立支援のための ケアマネジメントの基本」	事務連絡

[3日目]

9:10	9:15	12:25	13:15	14:20	17:30
オリエンテーション	【講義】 「生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の意義」	昼休憩	【講義】 「介護支援専門員に求められるマネジメント(チームマネジメント)」	【講義】 「人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理」	事務連絡

[4日目]

9:10	9:15	12:25	13:15	15:25	17:30
オリエンテーション	【講義】 「地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの深化及び地域の社会資源」	昼休憩	【講義】 「ケアマネジメントのプロセス」	【講義】 「ケアマネジメントに係る法令等の理解」	事務連絡

[5日目]

9:10	9:20	9:45	11:10	12:30	13:20	17:05
オリエンテーション	【講義】 「ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術①受付及び相談並びに契約」	【演習・講義】 「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」「ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術①受付及び相談並びに契約」	【講義】 「ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術②アセスメント及びニーズの把握の方法」	昼休憩	【演習】 「課題分析(アセスメント・ニーズの把握)の方法」(前半)	事務連絡

－介護支援専門員養成コース－

[6日目]

9:10	9:15	10:10	11:00	11:50	14:30
オリエンテーション	【演習】 「課題分析（アセスメント・ニーズの把握）の方法」（後半）」	【講義】 「ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術③居宅サービス計画等の作成」	昼休憩	【演習】 「ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術③居宅サービス計画等の作成」 2日間のまとめ・講評	事務連絡

[7日目]

9:10	9:20	11:30	12:20	12:50	13:30	15:30
オリエンテーション	【講義・演習】 「利用者、多くの種類の専門職等への説明及び合意」	昼休憩	【講義】 「ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術④サービス担当者会議の意義及び進め方」	【ビデオ学習】 「サービス担当者会議の開き方、進め方」	【演習】 「模擬サービス担当者会議」	事務連絡

[8日目]

9:10	9:15	10:25	11:25	12:15	14:25	15:25
オリエンテーション	【演習】 介護支援専門員に求められるマネジメント（チームマネジメント）	【講義】 「ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術⑤モニタリング及び評価」	昼休憩	【演習】 「ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術⑤モニタリング及び評価」	実習オリエンテーション	事務連絡

－介護支援専門員養成コース－

1 研修名	介護支援専門員更新研修B・再研修		
2 種別	県知事指定研修	3 参加費	受講料 28,000円 資料代 2,000円
4 目的	介護支援専門員として実務に就いていない者又は実務から離れている者が、実務に就く際に、介護支援専門員として必要な価値（態度）、知識、技術を再修得する。		
5 実施日	(1～4日目) 令和6年4月10日(水)～5月15日(水) (5日目) 令和6年6月3日(月)～6月11日(火) (6～7日目) 令和6年7月5日(金)～7月18日(木) (8～9日目) 令和6年7月29日(月)～8月22日(木)	6 場所	(1～4日目・6～7日目) eラーニング又は県福祉人材研修センター (5日目・8日目) 県福祉人材研修センター又はZoomによるオンライン研修 (9日目) 県福祉人材研修センター
7 対象者	(更新研修B— 実務未経験者) 現在の介護支援専門員証の有効期間が概ね2年以内に満了する方で、介護支援専門員としての実務経験がない方 (再研修— 介護支援専門員証の有効期間満了者) 介護支援専門員証の有効期間が満了し、一旦失効した方		
8 受講人数	734人		

●プログラム（9日間、研修時間 54時間）

[1日目]

9:10	9:20	12:30	13:20	16:35	17:35
オリエンテーション	【講義】 「介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント」	昼休憩	【講義】 「人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理」	【講義・演習】 「介護支援専門員に求められるマネジメント(チームマネジメント)」	事務連絡

[2日目]

9:10	9:15	12:25	13:15	16:25
オリエンテーション	【講義】 「地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの深化及び地域の社会資源」	昼休憩	【講義】 「生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の意義」	事務連絡

[3日目]

9:10	9:15	12:25	13:15	15:25	17:30
オリエンテーション	【講義】 「自立支援のためのケアマネジメントの基本」	昼休憩	【講義】 「自立支援のためのケアマネジメントの基本」	【講義】 「ケアマネジメントに係る法令等の理解」	事務連絡

[4日目]

9:10	9:15	10:50	11:50	12:40	13:45	15:50
オリエンテーション	【講義】 「ケアマネジメントの展開(講義編)①生活の継続及び家族等を支える基本的なケアマネジメント」	【講義】 「ケアマネジメントの展開(講義編)②脳血管疾患のある方のケアマネジメント」	昼休憩	【講義】 「ケアマネジメントの展開(講義編)②脳血管疾患のある方のケアマネジメント」	【講義】 「ケアマネジメントの展開(講義編)③認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント」	事務連絡

－介護支援専門員養成コース－

[5日目]

9:10	9:20	10:30	12:10	13:10	17:20
オリエンテーション	【演習】 「介護支援専門員に求められるマネジメント（チームマネジメント）（講義編）」	【演習】ケアマネジメントの展開（講義編）①生活の継続及び家族等を支える基本的なケアマネジメント」	県事務連絡 昼休憩	【演習】 「ケアマネジメントの展開（講義編）②脳血管疾患のある方のケアマネジメント③認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント」	事務連絡

[6日目]

9:10	9:15	10:50	12:20	13:10	15:15
オリエンテーション	【講義】 「ケアマネジメントの展開（講義編）④大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント」	【講義】 「ケアマネジメントの展開（講義編）⑤地域共生社会の実現に向けた他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメント」	昼休憩	【講義】 「ケアマネジメントの展開（講義編）⑥高齢者に多い疾患等の留意点の理解」	事務連絡

[7日目]

9:10	9:15	10:50	12:20	13:10	15:15
オリエンテーション	【講義】 「ケアマネジメントの展開（講義編）⑦心疾患のある方のケアマネジメント」	【講義】 「ケアマネジメントの展開（講義編）⑧誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント」	昼休憩	【講義】 「ケアマネジメントの展開（講義編）⑨看取りに関する事例」	事務連絡

[8日目]

9:10	9:20	12:30	13:20	17:05
オリエンテーション	【演習】 「ケアマネジメントの展開（演習編）④大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント⑤地域共生社会の実現に向けた他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメント」	昼休憩	【演習】 「ケアマネジメントの展開（演習編）⑦心疾患のある方のケアマネジメント⑧誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント」	事務連絡

[9日目]

9:10	9:15	11:55	12:45	17:05
オリエンテーション	【演習】 「ケアマネジメントの展開（演習編）⑨看取りに関する事例」	昼休憩	【演習】 「アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合演習」	修了証明書 交付

－介護支援専門員養成コース－

1 研修名	介護支援専門員専門研修課程Ⅰ・更新研修A（前期）		
2 種別	県知事指定研修	3 参加費	受講料 35,000円 資料代 2,000円
4 目的	介護支援専門員が、一定の実務経験をもとに、価値（態度）、専門知識、技術の修得を図り、その専門性を高め資質の向上を図る。		
5 実施日	(1～4日目) 令和6年4月17日(水)～5月9日(木) (5～6日目) 令和6年5月20日(月)～6月1日(土) (7～8日目) 令和6年6月24日(月)～7月4日(木) (9日目) 令和6年7月22日(月)～7月26日(金)	6 場所	(1～4日目) eラーニング又は 県福祉人材研修センター (5～6日目) 県福祉人材研修センター (7～9日目) 県福祉人材研修センター又は Zoomによるオンライン 研修
7 対象者	（専門研修課程Ⅰ－実務従事者） 申し込み時点で実務に就いており、かつ現在の介護支援専門員証を交付されてから実務経験が6か月以上ある方 （更新研修A（前期）－実務経験者） 現在の介護支援専門員証の有効期間が概ね2年以内に満了する方で、以下(1)(2)のいずれかに該当する方 (1) 申し込み時点で実務についているが、現在の証の有効期間内の実務経験が6か月未満の方 (2) 現在の証の有効期間内の実務経験があるが、申し込み時点で実務に就いていない方		
8 受講人数	383人		

●プログラム（9日間、研修時間56時間）

[1日目]

9:10	9:20	11:50	12:40	16:10	18:05
オリエンテーション	【講義】 「介護保険制度及び地域包括ケアシステムの現状」	昼休憩	【講義】 「対人個別援助技術（ソーシャルケースワーク）及び地域援助技術（コミュニティソーシャルワーク）」	【講義】 「ケアマネジメントの実践における倫理」（前半）	事務連絡

[2日目]

9:10	9:15	10:05	12:30	13:20	15:25	17:30
オリエンテーション	【講義】 「ケアマネジメントの実践における倫理」（後半）	【講義】 「生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の実践」	昼休憩	【講義】 「生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の実践」（続き）	【講義】 「リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する理解」	事務連絡

[3日目]

9:10	9:15	10:45	12:15	13:05	15:25	16:55	17:55
オリエンテーション	【講義】 「生活の継続及び家族等を支える基本的なケアマネジメント」	【講義】 「脳血管疾患のある方のケアマネジメント」	昼休憩	【講義】 「認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント」	【講義】 「大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント」	【講義】 「家族への支援の視点や社会資源の活用に向けた関係機関との連携が必要な事例のケアマネジメント」（前半）	事務連絡

[4日目]

9:10	9:15	10:25	11:45	12:35	13:55	16:20
オリエンテーション	【講義】 「家族への支援の視点や社会資源の活用に向けた関係機関との連携が必要な事例のケアマネジメント」（後半）	【講義】 「心疾患のある方のケアマネジメント」	昼休憩	【講義】 「誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント」	【講義】 「看取り等における看護サービスの活用に関する事例」	事務連絡



－介護支援専門員養成コース－

[5日目]

9:10	9:25	11:05	11:15	15:25
オリエンテーション	【演習】 「ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定」(前半)	昼休憩	【演習】 「ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定」(前半)(続き)	事務連絡

[6日目]

9:10	9:20	12:30	13:20	15:30
オリエンテーション	【演習】 「ケアマネジメントにおける実践の振り返り及び課題の設定」(後半)	昼休憩	【演習】 「ケアマネジメントの演習 ①生活の継続及び家族等を支える基本的なケアマネジメント」	事務連絡

[7日目]

9:10	9:20	13:00	13:50	17:40
オリエンテーション	【演習】 「ケアマネジメントの演習 ②脳血管疾患のある方のケアマネジメント」  【演習】 「ケアマネジメントの演習 ③認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント」	昼休憩	【演習】 「ケアマネジメントの演習 ④大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント」  【演習】 「ケアマネジメントの演習 ⑤家族への支援の視点や社会資源の活用に向けた関係機関との連携が必要な事例のケアマネジメント」	事務連絡

[8日目]

9:10	9:20	13:00	13:50	15:20
オリエンテーション	【演習】 「ケアマネジメントの演習 ⑥心疾患のある方のケアマネジメント」  【演習】 「ケアマネジメントの演習 ⑦誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント」	昼休憩	【演習】 「ケアマネジメントの演習 ⑧看取り等における看護サービスの活用に関する事例」	事務連絡

[9日目]

9:10	9:20	11:55	12:45	14:20	15:20
オリエンテーション	【講義・演習】 「個人での学習及び介護支援専門員相互間の学習」  【講義・演習】 「研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り」	昼休憩	【講義・演習】 「個人での学習及び介護支援専門員相互間の学習」	【演習】 「研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り」	修了証交付

－介護支援専門員養成コース－

1 研修名	介護支援専門員専門研修課程Ⅱ・更新研修A（後期）		
2 種 別	県知事指定研修	3 参加費	受講料 18,000 円 資料代 1,200 円
4 目 的	実務経験を有する介護支援専門員に対し、事例検討や演習を通じ、価値(態度)、専門知識、技術の向上を図り、支援困難事例等への対応のスキルを高めることにより、課題解決能力の向上を図る。		
5 実施日	(1～3日目) 令和6年10月8日(火)～10月31日(木) (4日目) 令和6年11月21日(木)～12月12日(木) (5～6日目) 令和7年1月15日(水)～2月26日(水)	6 場 所	(1～3日目) eラーニング又は 県福祉人材研修センター (4～6日目) 兵庫県豊岡総合庁舎又は Zoom 又は 県福祉人材研修センター
7 対象者	(専門研修課程Ⅱ— 実務従事者) 申し込み時点で実務に就いており、かつ現在の介護支援専門員証を交付されてから実務経験が3年以上ある方 (更新研修A（後期）— 実務経験者) 現在の介護支援専門員証の有効期間が概ね2年以内に満了する方で、以下(1)(2)のいずれかに該当する方 (1) 申し込み時点で実務についているが、現在の証の有効期間内の実務経験が3年未満の方 (2) 現在の証の有効期間内の実務経験があるが、申し込み時点で実務に就いていない方		
8 受講人数	1,325人		

●プログラム（6日間、研修時間33.5時間）

[1日目]

9:10	9:20	12:30	13:20	15:40	17:50
オリエンテーション	【講義】 「介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開」	昼休憩	【講義】 「ケアマネジメントの実践における倫理」	【講義】 「リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する理解」	事務連絡

[2日目]

9:10	9:20	10:30	11:30	12:20	13:10	14:50	16:10
オリエンテーション	【講義】 「生活の継続及び家族等を支える基本的なケアマネジメント」	【講義】 「心疾患のある方のケアマネジメント」	昼休憩	【講義】 「誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント」	【講義】 「脳血管疾患のある方のケアマネジメント」	【講義】 「認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント」	事務連絡

[3日目]

9:10	9:20	10:30	12:25	13:15	14:25	15:55
オリエンテーション	【講義】 「大腿骨頸部折のある方のケアマネジメント」	【講義】 「家族への支援の視点や社会資源の活用に向けたケアマネジメント」	昼休憩	【講義】 「看取り等における看護サービスの活用に関する事例」	【講義】 「本研修の事例研究のすすめ方」	事務連絡

[4日目]

9:10	9:25	10:35	12:15	13:05	15:30	15:40
オリエンテーション	【演習】 「生活の継続及び家族等を支える基本的なケアマネジメント」	【演習】 「大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント、家族への支援の視点や社会資源の活用に向けたケアマネジメント」	昼休憩	【演習】 「大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント、家族への支援の視点や社会資源の活用に向けたケアマネジメント」	更新手続きの説明	事務連絡

－介護支援専門員養成コース－

[5 日目]

9:10	9:20	11:40	12:30	14:45	16:20
オリエンテーション	【演習】 事例選定・「脳血管疾患のある方のケアマネジメント、認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント」	昼休憩	【演習】 「脳血管疾患のある方のケアマネジメント、認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント」	【演習】 「心疾患のある方のケアマネジメント、誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント」	事務連絡

[6 日目]

9:10	9:15	11:20	12:10	14:30	15:20
オリエンテーション	【演習】 「心疾患のある方のケアマネジメント、誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント」	昼休憩	【演習】 「看取り等における看護サービスの活用に関する事例」	【演習】 「自分自身のケアマネジメントを振り返る」	修了証交付

－介護支援専門員養成コース－

1 研修名	施設ケアマネジメント研修		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	受講料 8,500円
4 目的	施設におけるケアマネジャーの役割と可能性、現場で役立つアセスメント、モニタリングの視点について学ぶ。		
5 実施日	Aコース：令和7年3月4日(火)～3月5日(水) Bコース：令和7年3月18日(火)～3月19日(水)	6 場所	Aコース オンライン研修 (Zoom) Bコース 県福祉人材研修センター
7 対象者	介護保険施設等で実務に従事する介護支援専門員		
8 受講人数	109人 (A：33人、B：76人)		

●プログラム

[1日目]

9:30	9:40	11:00	12:10	13:00	16:30
オリエンテーション	【講義】 「利用者支援の基本的考え方、施設ケアマネジャーと自立支援」	【講義】 「アセスメントの基本的考え方」	昼休憩	【演習】 「アセスメント演習」	事務連絡

[2日目]

9:00	9:05	10:30	11:35	12:25	14:10	16:45
オリエンテーション	【講義】 「施設ケアプラン立案の実際」	【演習】 「施設ケアプランの作成」	昼休憩	【演習】 「施設ケアプランの作成」	【講義・演習】 「モニタリングの実際」	事務連絡

－介護支援専門員実務研修受講試験－

1 研修名	第27回介護支援専門員実務研修受講試験		
2 種別	県知事指定試験	3 受験手数料	9,400円
4 目的	介護支援専門員の業務に従事することを希望する者が、介護支援専門員実務研修を受けるにあたって、事前に、介護保険制度や保健医療福祉サービスに関する基礎的知識を有していることを確認するため、兵庫県知事の指定を受け実施する。		
5 実施日	令和6年10月13日(日)	6 場所	神戸大学 (鶴甲第一キャンパス)
7 対象者	「介護支援専門員実務研修受講試験の実施について」の一部改正について(平成30年5月28日付 老発 0528 第2号厚生労働省老健局長通知)に定める対象者		
8 受験者数	受験申込受付数 2,940人 受験者数 2,522名 うち合格者数 744人(合格率 29.5%)		

●受験内容(試験科目・時間)

出題範囲	問題数	試験時間
介護支援分野	25問	120分(10:00~12:00)
保健医療福祉サービス分野		※点字受験など配慮が必要な受験生(受験の特例の措置の取り扱いの決定を受けた方)は、終了時刻が異なる。
・保健医療サービスの知識等	20問	
・福祉サービスの知識等	15問	
合計(解答数)	60問	

②研修センター以外の各部署実施研修

【企画部】

1 研修名	社会福祉情勢セミナー		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目的	地域共生社会の実現を念頭に、社会福祉に関する最新の情勢や政策動向を学ぶことで、政策提言活動の充実を図る		
5 期日	令和6年11月27日(水)	6 場所	県福祉センター
7 対象者	社会福祉法人・施設、社会福祉協議会の役職員等		
8 受講人数	76人		

●講師 武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 社会福祉学科 教授 松端 克文氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
11月27日	13:00 開会・挨拶	
	13:05 ~ 15:15 【基調講演】 「地域福祉の政策化の時代における 社会福祉法人・社協の役割」	1 地域福祉を捉える視点 2 地域福祉を取り巻く情勢と包括的な支援体制づくりを進める上での課題 3 地域福祉推進の方向性と施設・社協に求められる今後の役割
	15:15 閉会	

【地域福祉部】

1 研修名	トップマネジメントセミナー（県内社協会長会議）		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目的	包括的な支援体制づくりにおいて、社協は、自治体との協議を通じ、地域福祉計画へ体制整備について位置づけること、民の代表として地域福祉推進計画を通じた課題提起を行っていくことが求められる中、社協の組織特性である「協議体」としての特性をより発揮するための組織経営はどうあるべきか、実践報告をもとに協議、検討する。		
5 期日	令和6年9月11日（水）	6 場所	神戸三宮東急 REI ホテル
7 対象者	県内市町社協会長		
8 受講人数	44人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
13:00	開会	
13:10	市町社協活動推進協議会 総会	
13:30 ～ 13:50	【説明①】 「地域共生社会の実現に向けた 包括的支援体制づくり」 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠	1 私たちが目指す「地域共生社会」とは 2 体制づくりが求められる背景 3 体制づくりの共通的な視点 4 包括的な支援体制づくりの進め方
13:50 ～ 14:10	【説明②】 「社会福祉協議会基本要項について」 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠	1 旧・基本要項（S37）策定の経緯と位置づけ 2 新・基本要項（H4）の背景 3 基本要項と兵庫県内社協の動き 4 基本要項 2025 第一次案 5 基本等要項の議論から地域福祉の価値展望へ
9 月 11 日	【実践報告】 「住民の意思決定に基づく組織運営 ～地域福祉マネジメントを見据えて～」 <報告者> 養父市社会福祉協議会 会長 宮本 厚子氏 淡路市社会福祉協議会 会長 小南 廣之氏	(養父市社会福祉協議会) 1 市社協のガバナンス強化と各計画 2 財政健全化計画 3 支部運営委員会と役員等の事業への参画 (淡路市社会福祉協議会) 1 当事者を中心におく根拠 2 住民主体で CAPD のサイクルを回し続ける 3 市社協の「共生循環」の取り組み 4 会長として心がけていること
15:40 ～ 17:10	【グループ協議・全体会】 「地域福祉マネジメントの強化に向けて」	1 地域福祉推進計画の策定・実行・評価・改善の過程」における協議・協働の取組状況の共有 2 「協議体」としての社協の組織特性をより発揮するための組織経営についての協議
17:10	閉会	

【地域福祉部】

1 研修名	社協経営セミナー		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	人材不足に対する「確保」への着目に加え、「定着・育成」の充実を図ることが、長期的な人材確保につながるとの視点に立ち、“人財”育成・定着の基礎理解を深め、各社協における具体的な方策を検討する。		
5 期 日	令和7年2月4日(火)	6 場 所	神戸市産業振興センター
7 対 象 者	県内社協事務局長・事務局次長・総務部門(採用・職場研修担当)の管理職等		
8 受講人数	20人		

●プログラム

日時	研修科目/講師名	研修内容	
2月4日	13:15	開会/オリエンテーション	
	13:20 ~ 14:20	【講義】 「力を高め、発揮する仕組みを築き、 人財を育成する」 (株)エイデル研究所 常務取締役 経営支援部部長 京都支社長 小林 雄二郎氏	1 市町村社協 人材育成の現状 2 あるべき姿を支える仕組みの整備 3 社協職員育成の3段階 4 適性、志向性を育む 5 OJTの定義、的確なフィードバック 6 新卒か中途採用か 7 新卒採用の可能性を探る
	14:30 ~ 15:00	【リレー報告①】 「県内社協の取り組みから考える ～定着・育成を見据えた採用の工夫～」 <報告者> 豊岡市社会福祉協議会 事務局長 田中 正義氏 淡路市社会福祉協議会 事務局長 凧 保憲氏 <助言者> (株)エイデル研究所 常務取締役 経営支援部部長 京都支社長 小林 雄二郎氏	(豊岡市社会福祉協議会) 1 各計画・事業・組織・人事、介護サービス事業所の変遷 2 退職者・入職者、財政の推移 3 第2次基盤強化計画 4 人材確保計画 5 第3次基盤強化計画 (淡路市社会福祉協議会) 1 組織概要と活動拠点 2 人口推移と有効求人倍率 3 相談対応と職員採用 4 他法人、自組織への波及
	15:15 ~ 15:45	【リレー報告②】 「県内社協の取り組みから考える ～定着・育成の工夫、仕組みづくり～」 <報告者> 加西市社会福祉協議会 事務局長 奥隅 一博氏 宝塚市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長 牟田 浩伸氏 <助言者> (株)エイデル研究所 常務取締役 経営支援部部長 京都支社長 小林 雄二郎氏	(加西市社会福祉協議会) 1 組織と人員 2 職員面談から見てきたこと 3 職場研修アドバイザーからの助言 4 職員の年齢構成と職務職階 5 所属横断的な議論ができる場づくり ～“夢を語ろう会”～ (宝塚市社会福祉協議会) 1 県内社協事務局長等勉強会でのテーマ設定と分析シートの作成 2 分析シートのねらい、構成、使い方 3 宝塚市社協での分析結果 4 宝塚市社協の人材育成プログラム
	15:55 ~ 17:20	【グループ協議/全体会・まとめ】	1 関心のあるテーマに分かれ、リレー報告についての質問、気づきを共有 2 自組織における今後の取り組みの検討
	17:20	閉会	



【地域福祉部】

1 研修名	包括的な支援体制づくりセミナー		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目的	包括的な支援体制づくりの「地域づくり支援」において、地域の現状を圏域ごとに網羅的に点検する「地域の協同力アセスメント」に取り組むことで、自治体や地域がこれまで積み上げてきた蓄積を振り返る。また、重層的支援体制整備事業の一体的な展開、包括的な支援体制づくりに向けた課題を整理し、関係者がともに点検、改善し続けていくことの重要性を共有する。		
5 期日	令和6年10月11日(金)	6 場所	兵庫県福祉センター
7 対象者	市町行政の包括的な支援体制の整備所管課または重層的支援体制整備事業所管課、地域福祉所管課、その他関連事業所管課(例:高齢・障害等福祉所管課、福祉総務課、まちづくり所管課等)、市町社会福祉協議会(地域福祉推進部門の管理職及びリーダー的立場の職員等)		
8 受講人数	79人		

●プログラム

日時	研修科目/講師名	研修内容
10月11日	10:50 開会・主催者挨拶(県)	
	10:55 ~ 11:15 【基調説明】 「包括的な支援体制づくりのはじめの一步 ～チームでわがまちをデザインする～」 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠	1 「包括的支援体制づくり推進会議」と兵庫県地域福祉支援計画との連携 2 私たちが目指す「地域共生社会」とは 3 体制づくりが求められる背景 4 体制づくりの共通的な視点 5 包括的な支援体制づくりの進め方
	11:15 ~ 11:55 【講義】 「地域を基盤とした包括的支援体制づくりのためのネットワーク形成図と地域の協同力アセスメント」 ローカリズム・ラボ 代表 井岡 仁志氏	1 包括的な支援体制・重層事業に至る政策動向 2 地域福祉と包括的な支援体制の関係 3 重層的支援体制整備事業実施の前提 4 体制整備の手順、A+B+Cモデルの理解 5 包括的な支援体制整備の本質(ネットワーク形成図)
	11:55 ~ 12:50 【パネルディスカッション】 「協働で進める包括的な支援体制 ～『包括的支援体制づくり推進会議』を通じて～」 <登壇者> 伊丹市健康福祉部(共生福祉社会推進担当) 主幹 丸山 孝興氏 淡路市社会福祉協議会 事務局長 凧 保憲氏 兵庫県社会福祉法人連絡協議会代表者等 連絡会 代表 澤村 安由里氏 <助言者> ローカリズム・ラボ 代表 井岡 仁志氏 <進行> 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠	(各登壇者より) 1 包括的支援体制づくり推進会議を振り返って 2 これからの取組に向けて

	13:50 ～ 16:00	<p>【演習】 「地域の協同力アセスメント ～チームで行う点検～」</p> <p>&lt;報告者&gt; 南あわじ市 市民福祉部付課長兼地域包括支援室長 前川 恵理氏</p> <p>南あわじ市社会福祉協議会 地域生活支援部長 平見 明子氏</p> <p>&lt;演習指導&gt; ローカリズム・ラボ 代表 井岡 仁志氏</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域の協同力アセスメントの実際</li> <li>2 南あわじ市での取り組み</li> <li>3 市町別グループ協議       <ol style="list-style-type: none"> <li>①ワークシート記入内容の共有</li> <li>②圏域ごとの地域の協同性の分析</li> <li>③振り返りと今後の取組検討</li> </ol> </li> <li>4 グループ協議結果の全体共有</li> </ol>
	16:00	【まとめ】	各プログラムの登壇者、報告者からのコメント
	16:20	閉会	

【地域福祉部】

1 研修名	生活支援コーディネーター養成セミナー（基礎）		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	住民とともに地域づくりをすすめる生活支援コーディネーターを養成する。		
5 期 日	令和6年7月1日（月）、7月2日（火）	6 場 所	兵庫県福祉センター
7 対 象 者	生活支援コーディネーター		
8 受講人数	53人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
10:30	開会	
10:40	【説明】 「生活支援体制整備とは」 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠	生活支援体制整備事業の目的、住民主体の地域づくりについて学ぶ。
11:00	【演習】 「まずは知ろう！」 特定非営利活動法人なごみ 事務局長 田村 幸大氏 生活支援コーディネーターネットワーク 企画会議委員	コーディネーターの基礎活動である「住民同士のつながりや支えあいの発見（知る）」について、演習を通して学ぶ。
13:30	【演習】 「モヤモヤを解きほぐそう！」 特定非営利活動法人なごみ 事務局長 田村 幸大氏 生活支援コーディネーターネットワーク 企画会議委員	コーディネーターが抱える仕事上のモヤモヤや困りごと、関心ごとについて、先輩コーディネーターと話し合いながら紐解いていく。
14:40	【演習】 「そして伝えよう！」 特定非営利活動法人なごみ 事務局長 田村 幸大氏 生活支援コーディネーターネットワーク 企画会議委員	コーディネーターの基礎活動である「住民のつながりや活動の発見を知らせる」ことについて、演習を通じて「見せる（見える化）」のコツを学ぶ。
16:30	閉会	

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
10:30	開会	
10:30	【本日のねらい】 「生活支援コーディネーターの役割」 兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹端 寛氏	
10:45	【演習】 「話し合う？対話って何だろう？」 <進行> 兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹端 寛氏 <実践報告> 特定非営利活動法人はなのいえ 理事長 内海 正子氏 たつの市社会福祉協議会 地域福祉課 副主幹 藤井 智氏	実践報告をもとに、話し合うこと、対話の重要性を確認するとともに、対話を重ねながら地域づくりを進めることについて理解を深める。
7 月 2 日	13:00 【演習】 「先輩コーディネーターから話を聞こう」 <進行> 兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹端 寛氏 <実践報告> 福崎町福祉課 地域包括支援センター 生活支援コーディネーター 福岡 さやか氏 淡路市社会福祉協議会 地域支えあいセンターほくだん 第2層生活支援コーディネーター 上林 ちか子氏 相生市地域包括支援センター 第2層生活支援コーディネーター 庵奥 真寿美氏	先輩コーディネーターの実践報告を聞き、生活支援コーディネーターの動き方（地域の理解やネットワーク・組織化等）について学ぶ。
15:40	【演習】 「小さなチャレンジが大切」 兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹端 寛氏	明日からすぐできること、工夫すればできること、計画的に取り組むことを設定し共有する。
16:30	閉会	

【地域福祉部】

1 研修名	生活支援コーディネーター養成セミナー（実践）		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	住民とともに地域づくりをすすめる生活支援コーディネーターを養成する。		
5 期 日	令和6年12月16日（月）	6 場 所	兵庫県立のじぎく会館
7 対 象 者	生活支援コーディネーター		
8 受講人数	126人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
10:30	開会	
10:35	<p>【説明・対話（グループ協議を含む）】 「地域支援事業実施要綱及び介護予防・日常生活支援総合事業のガイドラインの一部改正について ～生活支援体制整備事業に関する事項を中心に～」</p> <p>&lt;政策説明&gt; 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室長補佐 岸 英二氏</p> <p>&lt;講師・ファシリテーター&gt; 兵庫県立大学環境人間学部 教授 竹端 寛氏</p>	<p>1 地域支援事業実施要綱及び介護予防・日常生活支援総合事業のガイドラインの一部改正の経緯、趣旨について理解を深める。</p> <p>2 生活支援体制整備事業に関する改正点について、制度の読み解きを行う。</p>
12:15	昼食休憩	
13:15	<p>【対話・質疑】 「生活支援体制整備事業に関する事項等について」</p> <p>&lt;解説・コメント&gt; 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室長補佐 岸 英二氏</p> <p>&lt;講師・ファシリテーター&gt; 兵庫県立大学環境人間学部 教授 竹端 寛氏</p>	<p>政策説明を踏まえ、参加者同士の話し合いから出された質問・疑問に対して、対話形式による詳しい解説・コメントを受け、制度改正の意図、ねらい、改正点を深く理解する。</p>
13:50	<p>【説明・対話（グループ協議を含む）】 「地域支援事業実施要綱及び介護予防・日常生活支援総合事業のガイドラインの一部改正について ～生活支援体制整備事業に関連する総合事業及び介護予防ケアマネジメントを中心に～」</p> <p>&lt;政策説明&gt; 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室長補佐 岸 英二氏</p> <p>&lt;講師・ファシリテーター&gt; 兵庫県立大学環境人間学部 教授 竹端 寛氏</p>	<p>生活支援体制整備事業に関連する総合事業及び介護予防ケアマネジメントについて理解を深める。</p>

14:50	<p>【対話・質疑】 「総合事業及び介護予防ケアマネジメント等について」</p> <p>&lt;解説・コメント&gt; 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室長補佐 岸 英二氏</p> <p>&lt;講師・ファシリテーター&gt; 兵庫県立大学環境人間学部 教授 竹端 寛氏</p>	<p>政策説明を踏まえ、参加者同士の話し合いから出された質問・疑問に対して、対話形式による詳しい解説・コメントを受け、制度改正の意図、ねらい、改正点を深く理解する。</p>
15:50	<p>【グループ協議】 「今回の改正を踏まえ、これから市町域でどのようなことに取り組もうと思うか」</p> <p>&lt;解説・コメント&gt; 厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室長補佐 岸 英二氏</p> <p>&lt;講師・ファシリテーター&gt; 兵庫県立大学環境人間学部 教授 竹端 寛氏</p>	<p>市町域において市町、社協、地域包括支援センター、NPO・企業などの多様な主体と一緒に考える基盤づくりにつなげられるよう、これからの取り組みについて話し合う。</p>
16:30	閉会	

【地域福祉部】

1 研修名	生活支援コーディネーター養成セミナー（フォローアップ）		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	住民とともに地域づくりをすすめる生活支援コーディネーターを養成する。		
5 期 日	令和7年2月6日（木）	6 場 所	兵庫県学校厚生会館
7 対 象 者	生活支援コーディネーター		
8 受講人数	48人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
2 月 6 日	10:30	開会	
	10:35	<p>【全体会】 「地域での共創につながる“対話”とは何か」 &lt;講師&gt; 兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹端 寛氏</p>	<p>1 地域支援事業実施要綱及び介護予防・日常生活支援総合事業ガイドラインの一部改正に関するもやもや（悩み・不安等）を対話により深める。 2 講義を通じて“対話”に関する理解を深める。 3 グループ協議により、住民、他機関、関係者との関わりで感じるもやもや、対話の中でのつまづき、悩みを深掘りする。</p>
	12:00	昼食休憩	
	13:00	<p>【全体会】 「兵庫県の生活支援体制整備が目指す方向と国の制度改正について」 &lt;説明&gt; 兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部長 福本 良忠</p>	<p>「兵庫県生活支援体制整備の手引き」において目指してきた方向性について、今般の国の制度改正が後押しする内容のものであることを確認する。</p>
	13:25	<p>【分科会】 ◆第1層 C0 分科会 「制度改正を受けて、対話を通じて第1層 C0の動きを考えよう」 &lt;講師&gt; 兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹端 寛氏 ◆第2層 C0 分科会 「一年の活動を、対話を通じて深めよう」 &lt;講師&gt; 特定非営利活動法人なごみ 事務局長 田村 幸大氏</p>	<p>◆第1層 C0 分科会 第1層生活支援コーディネーターが抱える制度改正や関係者とのもやもや、悩みや課題等について、対話を通じて深め合う。 ◆第2層 C0 分科会 参加者同士の対話により話題提供者の活動を掘り下げる。問題解決だけではなく、行き詰まった時の考え方、組織内や関係者と一緒に話し合いながら対策や選択肢を考えていくための取り組み方を体感する。</p>
15:50	<p>【全体会】 「第1層 C0・第2層 C0の見てきたこと」 &lt;講師・ファシリテーター&gt; 兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹端 寛氏 特定非営利活動法人なごみ 事務局長 田村 幸大氏</p>	<p>参加者と対話しながら、各分科会で取り組んだ内容及び対話の感想を聞き出し、全体で共有する。</p>	

	16:10	<p>【全体会】 「これからの活動に向けて」 &lt;講師&gt; 兵庫県立大学 環境人間学部 教授 竹端 寛氏</p>	<p>今後の活動に向けて、自ら取り組んで いきたいことを短期・中期・長期の期間 で考え整理する。</p>
	16:30	閉会	



【福祉事業部】

1 研修名	経営計画普及セミナー		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	5,000円
4 目的	経営計画の基本及び機能・効果を学ぶとともに、経営計画策定に取り組んだ法人の実践報告を通じて、法人にもたらした効果などを具体的に学ぶ。		
5 期日	令和6年8月9日(金)	6 場所	Zoomによるオンライン
7 対象者	兵庫県内の社会福祉法人役職員		
8 受講人数	24人		

●講師 兵庫県立大学 社会科学部 経営専門職専攻 教授 當間 克雄氏

●プログラム

日時	研修科目/講師名	研修内容
8月9日	13:30 開会/オリエンテーション	
	13:35 ~ 14:45 【講義】 「なぜ社会福祉法人には経営計画策定が必要なのか」 兵庫県立大学 社会科学部 経営専門職専攻 教授 當間 克雄氏	1 社会福祉法人における経営計画の意義・効果について 2 経営計画の実効性を高めるための組織づくり、仕組みづくりについて
	15:00 ~ 15:55 【実践報告】 「聞いてみたい！経営計画の取組み効果と策定の実際」 解説・コーディネーター 兵庫県立大学 社会科学部 経営専門職 教授 當間 克雄氏 実践報告 社会福祉法人ひまわり 特別養護老人ホームあさがお施設長 波多野 崇 氏 社会福祉法人愛児会 幼保連携型認定こども園ほそだ理事長 井塚 啓文 氏	1 経営計画策定経緯とその過程 2 経営計画策定により法人にもたらした効果や策定後の動き
	16:10 閉会	

1 研修名	リスクマネジメント研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	事故報告書を活用した事故予防の方法から事故発生後の対応を学び、事故再発防止や福祉サービスの質向上につなげる。		
5 期 日	令和7年3月7日(金)	6 場 所	兵庫県学校厚生会館
7 対 象 者	ひょうご福祉サービス総合補償制度加入および加入希望事業所の役職員		
8 受講人数	52人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
3 月 7 日	14:00	開会／オリエンテーション	
	14:05 ～ 14:20	<b>【説明会】</b> 「2025年度版ひょうご福祉サービス 総合補償制度の概要」 「よくある事故の事例」 三井住友海上火災保険株式会社	1 2025年度版の保険内容や改定点の説明 2 2024年度に発生した事故の傾向や事例の紹介
	14:20 ～ 16:00	<b>【講義・演習】</b> 「福祉・介護現場における危険予知訓練 (KYT)」 MS&AD インターリスク総研株式会社 リスクマネジメント第四部 社会保障・医療福祉グループ 医療福祉専任コンサルタント 志賀 洋祐氏	危険予知訓練について、演習を通じた職場での実践ポイント
	16:00	閉会	

1 研修名	第1回ほっとかへんネット実践交流会		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目的	ほっとかへんネット（社会福祉法人連絡協議会）による地域公益活動の推進を図る。		
5 期日	令和6年8月23日（金）	6 場所	福祉人材研修センター
7 対象者	社会福祉法人の役職員、社会福祉協議会の役職員		
8 受講人数	65人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
8 月 23 日	13:30 【開会あいさつ】 兵庫県社会福祉法人連絡協議会 代表 澤村 安由里氏	
	13:45 ～ 14:10 【基調報告】 『能登半島地震に対する兵庫県の災害救援の実態と課題』 兵庫県福祉部地域福祉課 地域福祉班 班長 沖本 孝史氏	1 能登半島地震における兵庫県としての災害救援活動 2 兵庫 DWAT 派遣に関する説明と、今後に向けた取組みについて
	14:10 ～ 14:05 【基調講義】 『能登半島地震における社会福祉法人による 救援活動の実態とその課題について』 佛教大学 専任講師 後藤 至功氏	1 被災地の現状と社会福祉法人の運営上と課題 2 能登半島地震での災害救援活動を振り返り、災害福祉支援の在り方について
	14:55 ～ 16:05 【実践リレー発表】 実践発表①「1.5 次避難所への介護職員等派遣（経営協）」から 大慈厚生事業会 谷 絵美氏 実践発表②「兵庫DWAT」から 淡路島福祉会 新谷 忠史氏 兵庫県福祉部地域福祉課恩給援護班 相良 弥生氏 実践発表③「種別協の施設派遣（中央センタースキーム）」から もみじ会 大西 智之氏 実践発表④「ほっとかへんネット」から ほっとかへんネット新温泉 事務局 平澤 佐知子氏	能登半島地震の災害救援活動について、経営協や各種別、DWAT、ほっとかへんネットのそれぞれの立場から、被災地支援の現状を報告
	16:05 ～ 16:50 【グループワーク】 ①基調講義・リレー発表を聞いての感想 ②被災した場合を想定し、ほっとかへんネットの連携基盤を生かし自分たちで今何をすべきか？ ③まとめ	

1 研修名	第2回ほっとかへんネット実践交流会		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目的	社会福祉法人連絡協議会（ほっとかへんネット）による地域公益活動の推進を図る。		
5 期日	令和7年3月10日(月)	6 場所	県立のじぎく会館
7 対象者	社会福祉法人の役職員、社会福祉協議会の役職員		
8 受講人数	61人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
3 月 10 日	13:30 【開会あいさつ】 兵庫県社会福祉法人連絡協議会 代表 澤村 安由里氏	
	13:35 ～ 14:10 【基調講義】 『ほっとかへんネットの県内の状況と 今後の展開に向けて』 兵庫県社会福祉法人連絡協議会 代表者等連絡会 代表 澤村 安由里氏	1 県内のほっとかへんネットの実践 からみえる取組みポイント 2 今後の展開に向けた視点
	14:20 ～ 15:20 【実績報告】 事例① 『社会福祉法人の種別を超えたつながりをつ くことで地域での様々な課題に柔軟に対 応できる地域をつくる』 ほっとかへんネット宝塚 ウエル清光会 理事・施設長 安田 慶氏 事例② 『「ほっとかへんネットあしや」活動報告 ～こどもの居場所「ほっと屋」～』 ほっとかへんネットあしや実務者リーダー 明倫福祉会 土肥 拓路氏	1 令和6年度から開始した「ほっとか へんネット課題対応プロジェクト助 成」のねらいと概要 2 助成金を活用し活動する「宝塚市」 と「芦屋市」から実践報告 3 課題対応の背景とねらい、現在の取 組み状況と今後の展開について報告
	15:20 ～ 16:30 【グループワーク】 ①「我が町のほっとかへんネットはここにチ カラを入れている」 ②「令和7年度に取組もうとしている内容」 ③ まとめ	1 各グループで、令和6年度の活動の 振り返りと共有 2 実践報告を踏まえ、令和7年度の取 組みに向けて情報交換と共有

【福祉人材センター】

1 研修名	福祉人材確保・定着力向上研修 ～人材確保に向けて SNS を活用しよう～		
2 種別	県指定管理研修・ <b>県補助研修</b> ・自主研修	3 参加費	無料
4 目的	福祉人材の確保に向けて、学生の就職活動や SNS の活用傾向を学ぶとともに、法人側が届けたい情報を効果的に届けるための方策を学ぶ。		
5 期日	令和6年12月17日(火)	6 場所	兵庫県私学会館
7 対象者	県内に施設・事業所が所在する法人(社会福祉法人、医療法人、NPO法人、株式会社等)の人事・採用担当者等		
8 受講人数	170人(会場参加:105人、動画視聴のみ65人)		

●プログラム

日時	研修科目/講師名	研修内容	
12月17日	13:00	開会/オリエンテーション	
	13:05 ～ 13:40	【講義】 「学生の就職活動の実際と SNS」 姫路福祉保育専門学校 介護福祉学科長 鳥羽 由里江氏	1 兵庫県内の介護福祉士養成校の状況 2 学校における就職支援・進路指導 3 学生の就職活動の傾向 4 学生の SNS の活用について
	13:40 ～ 14:40	【講義】 「若者世代にアピールする SNS・ショート動画の活用術」 セントラルビレッジ合同会社 星野 颯氏・田中 大也氏	1 SNS マーケティングの全体像 2 採用市場について 3 ショート動画の活用例 4 事例から見る各 SNS での見せ方
	14:50 ～ 16:30	【情報交換・協議】 「SNS・ショート動画の活用方策を考える」 姫路福祉保育専門学校 介護福祉学科長 鳥羽 由里江氏 セントラルビレッジ合同会社 星野 颯氏・田中 大也氏	1 各法人・施設で運用している SNS の状況・課題 2 講義を聞いての感想・疑問 3 これから自法人で取り組みそうなこと、取り組みたいこと
	16:30	閉会	

【福祉資金部】

1 研修名	生活福祉資金貸付事業基礎研修会		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	<p>新たに生活福祉資金貸付事業を担当する職員、または同事業の基礎を確認したい職員等を対象とし、生活福祉資金ハンドブック等の内容を確認しながら、事業運営に関する基本的な姿勢や知識に加え、各資金の具体的な事務の流れや留意点等について学ぶ。</p> <p>あわせて、令和5年度より導入した生活福祉資金業務システム市区町社協連携対応（市町社協連携システム）の仕組み、市区町社協の窓口での具体的な活用方法等について確認する。</p>		
5 期 日	令和6年4月16日（火）13:00～16:30	6 場 所	県福祉センター
7 対 象 者	県内市区町社協 生活福祉資金貸付事業担当者		
8 受講人数	55人		

●講 師 兵庫県社会福祉協議会 福祉資金部 職員

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
13:00	開会・オリエンテーション	
13:10 ～ 13:40	【説明①】 「生活福祉資金の歴史、基本的な考え方について」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度の成り立ちや考え方、社協が貸付を行う意義等を確認する。</li> <li>・貸付対象世帯の考え方や世帯収入の確認方法、債務関係者の考え方等を確認する。</li> </ul>
13:40 ～ 15:00	【説明②】 「各資金の手続きの留意点について」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各資金（教育・福祉・小口・総合・つなぎ）での提出書類や留意点、借受人の状況変更に応じた対応等を確認する。</li> </ul>
15:00 ～ 15:30	【説明③】 「貸付後（償還）の対応について」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・償還期間中における借受人の状況に応じた対応等を確認する。</li> </ul>
15:40 ～ 16:30	【説明④】 「生活福祉資金業務システム市区町社協連携対応（市町社協連携システム）の仕組みと活用方法について」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの仕組みと窓口での具体的な活用方法について確認する。</li> </ul>
16:30	閉会	

【福祉資金部】

1 研修名	相談支援スキルアップ研修会		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	コロナ特例貸付以降、社協が貸付窓口として社会に広く認知された。また、コロナ禍以降も物価高騰と相まって生活に困窮する世帯は増加し、生活福祉資金貸付の相談、問い合わせ件数が高止まりしている状況がある。ついては、今一度、生活福祉資金の相談場面で求められる「姿勢」と生活福祉資金の相談対応を入口とした「困窮世帯支援」についての手法や考え方について学ぶ。		
5 期 日	第1回目:令和6年8月5日(月) 第2回目:令和6年8月27日(火) 第3回目:令和6年10月21日(月)	6 場 所	第1回目、第3回目:神戸クリスタルタワークリスタルホール 第2回目:兵庫県農業共済会館
7 対 象 者	市区町社協職員 (生活福祉資金担当者、ほっとかへんネットワークワーカー及び担当管理職員)		
8 受講人数	【第1回】37人、【第2回】58人、【第3回】63人		

●講 師 龍谷大学社会学部特任教授（元大津市社会福祉協議会 事務局次長） 山口 浩次氏

●プログラム

日時	研修科目/講師名	研修内容	
8月5日	13:00	開会/オリエンテーション	
	13:10 ～ 14:10	【講義】 「管理職に求められるチームマネジメント～生活困窮者支援は社協組織としての対応を～」	生活困窮者支援で重要となる管理職を中心としたチームマネジメント及び地域課題や必要な支援について行政等に発信する必要性について学ぶ
	14:20 ～ 16:30	【演習】 「生活福祉資金貸付事業を円滑に進めるための管理職に求められるもの」	管理職として必要な姿勢、改善・解決しなければならないことを共有し、今後どのように取り組んでいくのかななどをグループで協議する。併せて、職員の強みを引き出すコーチングについて学ぶ
	16:30	閉会	

日時	研修科目/講師名	研修内容	
8月27日	13:00	開会/オリエンテーション	
	13:05 ～ 14:05	【講義】 「相談援助に必要な基本的な知識・技術について学ぶ」	窓口対応に必要な力（傾聴・受容）及び生活課題に対するアプローチ・組織として対応することの大切について学ぶ
	14:20 ～ 16:30	【グループワーク】 「事例検討を通じて相談援助力をつける」	ピカジップ法による事例検討を通じて相談対応力を高めるとともに、課題解決に導くためのアセスメント力の向上を図る
	16:30	閉会	

日時	研修科目/講師名	研修内容	
10月21日	13:00	開会/オリエンテーション	
	13:05 ～ 14:05	【講義】 「個別支援を踏まえた必要な社会資源の作り方」	特例貸付を含む貸付の相談から見えてきた個別課題を地域課題として捉え、多様化・潜在化している課題に対応するための考え方や支援方法を学ぶ
	14:20 ～ 16:30	【グループワーク】 「事例検討を通じて必要な社会資源を考える」	ピカジップ法による事例検討を通じて、個別支援を踏まえた必要な社会資源の開発力、実践力の向上を図る
	16:30	閉会	

【権利擁護センター】

1 研修名	日常生活自立支援事業 新任専門員研修会		
2 種 別	県指定管理研修・ <b>県補助研修</b> ・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	新任の専門員・担当者が、活動上必要な事業の枠組みや専門員・生活支援員の役割等について理解を深める。		
5 期 日	令和6年5月1日(水)	6 場 所	県福祉センター
7 対 象 者	日常生活自立支援事業の新任専門員・担当者		
8 受講人数	24人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
5 月 1 日	12:30	開会/オリエンテーション	
	12:40 ～ 13:40	【説明1】 「社協の権利擁護活動と 日常生活自立支援事業について」 兵庫県社会福祉協議会 権利擁護センター長 新屋 幸子	1 権利擁護とは 2 事業の成り立ち、仕組み 3 県内の状況など
	13:50 ～ 15:00	【説明2】 「専門員の役割・業務について」 兵庫県社会福祉協議会 権利擁護センター主事 細井 清花	1 専門員が行う事務手続き 2 各種様式、注意事項など
	15:10 ～ 16:30	【実践報告】 「専門員業務の実際について」 豊岡市社会福祉協議会 専門員 西池 深音氏 <進行> 兵庫県社会福祉協議会 権利擁護センター主事 細井 清花	1 実践報告・事例紹介 2 グループ内意見交換 3 質疑応答 4 まとめ
	16:30	閉会	



【権利擁護センター】

1 研修名	日常生活自立支援事業 専門員研修会			
2 種別	県指定管理研修	県補助研修	自主研修	3 参加費 無料
4 目的	事業の原点に立ち返り、四半世紀の歩みを振り返るとともに、事業の意義や役割を確認する。また、今後の事業のあり方や専門員としての取り組みの方向性について、県内の専門員がとともに考える機会として開催する。			
5 期日	令和7年1月21日(火)	6 場所	県福祉センター	
7 対象者	日常生活自立支援事業の専門員・担当者・事業管理者			
8 受講人数	38人			

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
1月21日	12:50	【開会／オリエンテーション】	
	13:00 ～ 13:30	【講演】 「地域福祉権利擁護事業が目指したもの」 県立広島大学 保健福祉学部 講師 手島 洋氏	事業創設にあたっての社会的背景や、社協に期待されたこと、それを当時の県社協や市町社協はどのように受け止めたのかを知り、事業の原点に立ち返る。
	13:30 ～ 14:00	【報告】 「兵庫県における、 日常生活自立支援事業 25年の歩み」 兵庫県社会福祉協議会 権利擁護センター長 新屋 幸子	兵庫県における事業実施体制の変遷を辿るとともに、事業をめぐる課題と解決に向けた取り組み、専門員の声からみえてくる事業の意義や役割を確認する。
	14:10 ～ 16:00	【パネルディスカッション】 〈パネリスト〉 西宮市社会福祉協議会 くらし相談支援課 権利擁護係 永田 彩友美氏 淡路市社会福祉協議会 地域支えあいセンターひがしうら 崎野 貴志氏 兵庫県社会福祉協議会 権利擁護センター主事 細井 清花 〈コーディネーター〉 県立広島大学 保健福祉学部 講師 手島 洋氏	地域における「権利擁護」を実現するために社協が果たす役割とは何か、そのうえで社協が日常生活自立支援事業を担う意味について考える。

【権利擁護センター】

1 研修名	日常生活自立支援事業 生活支援員研修会			
2 種 別	県指定管理研修	県補助研修	自主研修	3 参加費 無料
4 目 的	日常生活自立支援事業における生活支援員の役割を再確認するとともに、利用者を多面的・統合的に理解し、利用者本人が望む暮らしや支援のあり方を考えるための基本的な姿勢について、事例検討を通じて学ぶ。 また、他市町の生活支援員と出会い、それぞれの悩みや工夫、知恵を共有することで、今後の支援活動へのヒントを得ることを目指す。			
5 期 日	令和6年11月14日(木)	6 場 所	県福祉人材研修センター	
7 対 象 者	日常生活自立支援事業の生活支援員、専門員、担当者等			
8 受講人数	81人			

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
12:40	【開会／オリエンテーション】	
12:50 ～ 13:20	【基調説明】 「日常生活自立支援事業の現状と生活支援員の役割について」 兵庫県社会福祉協議会 権利擁護センター長 新屋 幸子	1 日常生活自立支援事業の実施状況 2 生活支援員の役割 意思決定支援のポイント
13:20 ～ 13:50	【講 義】 「事例を振り返る意味 ～利用者をもとにどう理解したか～」 兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人氏	1 事例検討の目的 2 再アセスメントの重要性 「気づきの事例検討会」のポイント
14:00 ～ 15:55	【事例検討】 「本人らしい生活に寄り添って」 (事例提供) 西宮市社会福祉協議会 専門員 大永 美乃氏 (全体進行) 兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人氏	1 事例報告 2 個人ワーク 3 グループワーク 4 全体での事例検討 5 コメント・まとめ 質疑応答
16:00	閉会	

【ひょうごボランティアプラザ】

1 研修名	災害ボランティアコーディネーター養成研修（基礎編）		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・	自主研修	3 参加費 無料
4 目的	<p>近年の頻発・激甚化する自然災害において、多数の被災者から寄せられるニーズに対応し、適切・効果的な支援を行い、速やかに被災地復興を実現させるには、行政、社協、NPO等の三者がそれぞれの強みを活かしつつ、連携して被災地支援を行うことが重要であり、災害事例やグループワークを通じて、三者間で連携した支援活動のあり方や、平時からの連携体制を確立することの重要性について学ぶ。</p> <p>「大規模災害を想定した災害ボランティア連携訓練」と併せて実施し、被災者一人ひとりの自立した生活再建を目指す取組である「災害ケースマネジメント」を学び、支援の連携を考え、平時からの取組について考える。</p>		
5 期日	令和6年12月25日（水）	6 場所	神戸クリスタルタワー
7 対象者	県、県内市町、県内市区町社協、NPO、災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議構成員、学識者等		
8 受講人数	103人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
10:30	開会／挨拶・オリエンテーション等	
10:40 ～ 12:00	<p>【講義・対談】</p> <p>「被災者の早期生活復旧に向けた連携支援 ～災害ケースマネジメントから考える～」</p> <p>&lt;登壇者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津久井 進氏（弁護士、日本弁護士連合会 災害復興支援委員会前委員長）</li> <li>・頼政 良太氏（被災地NGO協働センター 代表、関西学院大学人間福祉学部助教）</li> </ul>	被災者の生活再建に向けて、一人ひとりに寄り添い個別の被災状況・生活状況などを把握し、様々な支援を組み立てていく仕組みを、取組事例を踏まえながら学ぶ。
12月25日 13:00 ～ 15:00	<p>【グループワーク】</p> <p>&lt;コーディネーター&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頼政 良太氏（被災地NGO協働センター 代表、関西学院大学人間福祉学部助教）</li> </ul> <p>&lt;アドバイザー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浅見 雅之氏（(特)神戸まちづくり研究所 副理事長）</li> <li>・野崎 隆一氏（(特)神戸まちづくり研究所 理事）</li> <li>・田中 綾子氏（関西国際大学 准教授）</li> <li>・正井 佐知氏（神戸医療未来大学 講師）</li> <li>・藤本 裕二氏（丹波市社会福祉協議会 事務局次長）</li> <li>・窪 健志氏（NPO 法人コミュニティリンク）</li> <li>・山村 太一氏（CODE 海外災害援助市民センター）</li> </ul>	県内で地震災害が発生したという想定のもと、行政、社協、NPO等が連携しながら、被災者が抱える多様な課題の解消に受けた支援の手法等についてグループワークを通じて学ぶ。
15:10 ～ 16:30	<p>【グループ発表・全体共有・講評】</p> <p>&lt;講評者&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室崎 益輝氏（神戸大学・兵庫県立大学 名誉教授、元ひょうごボランティアプラザ所長）</li> </ul>	
16:30	閉会	

【ひょうごボランティアプラザ】

1 研修名	災害ボランティアコーディネーター養成研修（応用編）		
2 種 別	県指定管理研修 ・ 県補助研修 ・ 自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	<p>被災者中心、被災地主体の復興に向けて、多種多様な団体・機関と連携しつつ、災害ボランティアセンターの運営の流れを把握し、フェイズごとにどのような方針で対応していくかなどの視点や調整力を持った「中核的な人材」の育成が急務となっており、本研修を通じて人材育成を行う。</p> <p>本研修は、令和2年度から6年度の5か年計画の予定で、災害VCの開設から閉所までを段階ごとに分けて実施（段階1（R2）：災害VCの開設→段階2（R3～R5）：災害VCの運営→段階3（R6）：災害VCの閉所）しているが、令和6年度は、「災害救援ボランティア活動支援団体連絡会議」と合同開催とし、令和6年能登半島地震において、被災地の災害ボランティアセンターの運営や被災者支援について支援側・受援側それぞれの視点で発災直後の混乱や現場の動きなどについて、県内社協や支援関係団体連絡会議構成団体の職員等が共有することで、県内で大規模災害が発生した際の自団体における体制整備や支援について考える機会とする。</p>		
5 期 日	令和6年9月4日（水）	6 場 所	神戸クリスタルタワー
7 対 象 者	県内市区町社協、災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議構成員		
8 受講人数	90人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
9月4日	13:15	開会／挨拶・オリエンテーション等
	13:25～16:30	<p>【テーマ】 「令和6年能登半島地震における被災者支援～災害ボランティアセンターの運営・支援の連携～」</p> <p>≪基調講演≫ 特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク理事長 李 仁鉄氏</p> <p>≪リレートーク≫ ・被災地NGO協働センター代表 頼政 良太氏 ・七尾市社会福祉協議会総務管理課 課長 直 龍芳氏</p> <p>≪トークセッション・意見交換・質疑応答≫ ・基調講演とリレートークの内容を深めるトークセッション ・県内で大規模災害が発生した際の支援と受援への対応、平時からの取組など意見交換及び質疑応答</p>
	16:30	閉会

【ひょうご外国人介護実習支援センター】

1 研修名	外国人介護人材受入促進セミナー		
2 種別	県指定管理研修・ <b>県委託研修</b> ・自主研修	3 参加費	無料
4 目的	受入実績のない事業所の不安を払拭し、受け入れを働きかけるセミナーの開催を通じ、外国人介護人材の受入促進を図る。		
5 期日	令和6年9月18日(水)、 令和7年1月24日(金)、 令和7年3月18日(火)、3月19日(水)	6 場所	1月24日：Zoomによるオンライン その他は各地(宝塚、小野、姫路)
7 対象者	外国人介護職員の受け入れを予定・検討している施設の職員		
8 受講人数	80人(9月18日：13人、1月24日：40人、3月18日：8人、3月19日：19人)		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
9月18日	13:30 ～ 13:35	開会／オリエンテーション	
	13:35 ～ 14:35	【講義】 「外国人技能実習生や特定技能外国人等外国人介護人材の受け入れについて」 ひょうご外国人介護実習支援センター 所長 大久保 徹雄	受け入れにかかる制度、実際の受け入れに向けたスケジュール、受け入れ後の施設の対応等の解説
	14:40 ～ 15:10	【講義】 「技能実習生等、外国人介護人材の受け入れ後の状況について」 ひょうご外国人介護実習支援センター 実習支援部長 梶本 出	外国人介護人材の活躍状況、受け入れにあたっての各施設等の感想・工夫を紹介。技能実習生へのインタビュー録画を視聴
	15:10	閉会	

日時	研修科目／講師名	研修内容
13:00 ～ 13:05	開会／オリエンテーション	
13:05 ～ 13:50	【講義】 「外国人介護人材の受け入れについて」 公益財団法人 国際人材協力機構 実習支援部相談支援課 上席調査役 栗本 康佑氏	受け入れにかかる制度、実際の受け入れに向けたスケジュール、受け入れ後の施設の対応等の解説
13:55 ～ 15:25	【講義・事例紹介】 ①『インドネシア共和国公式事業 特定技能介護コース修了生のご紹介について』 社会福祉連携推進法人 日の出医療福祉グループ 人材支援部 部長 武中 朋彦氏 ②『外国人採用を迷っていませんか？ 実はとっても安心「フィリピン介護人材採用のイロハ』』 社会福祉法人報恩会 外国人職員雇用担当 小暮 和久氏 ③『過去 10 年前からベトナム人（EPA 生）、 インドネシア人（技能実習生）、インドネシア人・ミャンマー人（特定技能外国人）を受け入れた経験と特定技能外国人による日本での生活・仕事・勉強について』 くすのき介護福祉事業協同組合 社会福祉法人ささゆり会 理事長 笹山 周作氏 介護福祉士 パウレネ アデリタ ムスウィングダ氏	兵庫県が特定技能の外国人介護人材の確保、育成について先駆的に取り組む県内 3 法人と締結した「公民連携による外国人介護人材の活躍に向けた連携協定」にかかる当該 3 法人の取り組みについての解説
15:30 ～ 15:55	【講義】 「ひょうご外国人介護実習支援センターの 取り組み」 ひょうご外国人介護実習支援センター 所長 大久保 徹雄	外国人介護職員の受け入れにおける「ひょうご外国人介護実習支援センター」の取り組みの紹介
16:00	閉会	

日時	研修科目／講師名	研修内容
13:30 ～ 13:35	開会／オリエンテーション	
13:35 ～ 14:35	【講義】 「外国人技能実習生や特定技能外国人等外国人介護人材の受け入れについて」 ひょうご外国人介護実習支援センター 所長 大久保 徹雄	受け入れにかかる制度、実際の受け入れに向けたスケジュール、受け入れ後の施設の対応等の解説
14:35 ～ 16:00	【講義・事例紹介】 (1月24日開催分の【講義・事例紹介】に同じ)	(1月24日開催分の【講義・事例紹介】に同じ)
16:00	閉会	

【ひょうご外国人介護実習支援センター】

1 研修名	日本文化講習会		
2 種 別	県指定管理研修・ <b>県委託研修</b> ・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	外国人介護職員の日本文化についての理解促進を図る。		
5 期 日	令和6年8月23日(金)、 令和7年3月12日(水)	6 場 所	8月23日：県福祉人材研修センター 3月12日：県福祉人材研修センター
7 対 象 者	外国人介護職員		
8 受講人数	119人(8月23日：75人、3月12日：44人)		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
8月23日	13:30～13:35	開会／オリエンテーション	
	13:35～14:30	【講義】 「施設での看取りにおける介護職の役割について」 社会福祉法人 神戸福生会 業務執行理事 山内 賢治氏	看取りにおける介護職の役割を介護職員に大切なセルフケアの視点も踏まえ解説
	14:30～15:15	【講義】 「介護福祉士取得の体験発表」 社会福祉法人 神戸福生会 特別養護老人ホーム 永栄園職員 ニー チン レム氏	技能実習生を経て介護福祉士国家試験に合格した先輩の体験談
	15:20～16:00	【外国人介護職員間の交流会】	文化・生活習慣の違いからくるストレス、仕事や日常生活の中での悩み、その解消方法等の意見交換
	16:00	閉会	

日時	研修科目／講師名	研修内容	
3月12日	13:30～13:35	開会／オリエンテーション	
	13:35～14:15	【講義】 「介護現場でのハラスメント・不適切なケアを考える」 ひょうご外国人介護実習支援センター 社会福祉士 高山 奈央子	入所者等からのハラスメントへの対応や気づかぬうちに行う不適切なケアにならないための基礎知識の解説
	14:20～14:50	【公演】 「日本の伝統・文化を紙芝居から学ぶ」 兵庫県立ピッコロ劇団 劇団員 風太郎氏 有川 理沙氏	日本の昔話等の紙芝居観覧を通じた日本の伝統・文化の理解促進
	14:55～15:55	【外国人介護職員間の意見交換会】	介護福祉士国家試験の合格者、受験者等による「介護福祉士までの道のりを」テーマにしたパネルディスカッション形式の意見交換会
	16:00	閉会	

【ひょうご外国人介護実習支援センター】

1 研修名	外国人介護職員の受入施設職員研修		
2 種 別	県指定管理研修・ <b>県委託研修</b> ・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	外国人介護職員がさらに活躍できる職場環境づくりを進める。		
5 期 日	令和6年9月11日(水)	6 場 所	Zoomによるオンライン
7 対 象 者	外国人介護職員の受入施設の職員		
8 受講人数	11人		

●プログラム

日時	研修科目/講師名	研修内容
13:30 ～ 13:35	開会/オリエンテーション	
9 月 11 日 13:35 ～ 14:30	【講義】 「外国人介護職員活躍のためのガイドブックについて」 公益社団法人 日本介護福祉士会 副会長 国際支援担当理事 今村 文典氏	外国人介護職員の活躍に向けた必要な支援、キャリアパスの示し方、介護福祉士国家資格の取得支援についての解説
14:40 ～ 15:45	【外国人介護職員間の意見交換会】	受け入れ施設での工夫や取り組み、指導上の悩みや問題点、就労定着支援、日本語コミュニケーション円滑化のための支援等の情報交換
15:45	閉会	



【ひょうご外国人介護実習支援センター】

1 研修名	外国人介護職員の受入施設職員研修		
2 種 別	県指定管理研修・ <b>県委託研修</b> ・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	外国人介護技能実習生等に対する日本語教育の方法、効果的なOJTを学ぶ。		
5 期 日	令和6年12月3日(火)、3月10日(月)	6 場 所	Zoomによるオンライン
7 対 象 者	外国人介護職員の受入施設の職員		
8 受講人数	12月3日:33人、3月10日:46人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
12月3日	13:30～13:35 開会／オリエンテーション	
	13:35～14:35 【講義】 「外国人介護職員のOJT・就労定着支援について」 株式会社ベネッセスタイルケア 海外介護人財開発部 部長 近藤 篤氏 ベネッセ シニア・介護研究所 研究員 林 奈美氏	外国人介護職員への対応・効果的なOJTや就労定着についての支援の解説
	14:40～15:25 【講義】 「外国人介護職員に対する日本語教育について」 社会福祉連携推進法人 日の出医療福祉グループ 人財支援部 外国人就労支援課 北野 文氏	介護現場における「やさしい日本語」や日本語学習サポートなど日本語教育の方法についての解説
	15:30～16:15 【施設職員間の情報交換会】	受け入れ施設での工夫や取り組み、指導上の悩みや問題点、就労定着支援、日本語コミュニケーション円滑化のための支援等の情報交換
	16:15 閉会	

日時	研修科目／講師名	研修内容
3月10日	13:30～13:35 開会／オリエンテーション	
	13:35～14:35 【講義】 「外国人介護職員への対応・効果的なOJT」 社会福祉法人慈仁会 特別養護老人ホーム 山口苑 施設長 照井 治氏	外国人介護職員への対応・効果的なOJTや就労定着についての支援の解説
	14:45～15:25 【講義】 「外国人介護職員に対する日本語教育について」 公益社団法人国際厚生事業団 外国人介護人材支援部 日本語教師 井口 智恵氏	介護現場における「やさしい日本語」や日本語学習サポートなど日本語教育の方法についての解説
	15:35～16:15 【施設職員間の情報交換会】	受け入れ施設での工夫や取り組み、指導上の悩みや問題点、就労定着支援、日本語コミュニケーション円滑化のための支援等の情報交換
	16:15 閉会	

【ひょうご外国人介護実習支援センター】

1 研修名	日本語能力評価研修		
2 種別	県指定管理研修・ <b>県委託研修</b> ・自主研修	3 参加費	無料
4 目的	模擬試験実施とその解説により、日本語能力試験の合格率向上を図る。		
5 期日	令和6年11月5日(火)・6日(水)、 11月11日(月)・12日(火)	6 場所	県福祉人材研修センター
7 対象者	外国人介護職員等		
8 受講人数	78人(11月5日:18人、6日:17人、11日:30人、12日:13人)		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
11月5日・6日	13:00	開講/オリエンテーション	
	13:05 ～ 15:40	【模擬試験】 N2レベル模擬試験	模擬試験
	15:40 ～ 17:00	【講義】 「日本語能力模擬試験の解説」 一般社団法人神戸東洋医療学院 神戸東洋日本語学院 (日本語講師複数による指導)	上記試験の解説

日時	研修科目／講師名	研修内容	
11月11日・12日	13:00	開講/オリエンテーション	
	13:05 ～ 15:25	【模擬試験】 N3レベル模擬試験	模擬試験
	15:25 ～ 17:00	【講義】 「日本語能力模擬試験の解説」 一般社団法人神戸東洋医療学院 神戸東洋日本語学院 (日本語講師複数による指導)	上記試験の解説

【ひょうご外国人介護実習支援センター】

1 研修名	介護の日本語研修		
2 種別	県指定管理研修・ <b>県補助研修</b> ・自主研修	3 参加費	無料
4 目的	介護現場における円滑な就労・定着を図るための「介護の日本語」を学ぶ。		
5 期日	令和6年2月4日(火)・18日(火)・25日(火)	6 場所	Zoomによるオンライン
7 対象者	外国人介護技能実習生等		
8 受講人数	52人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
	13:00	開講/オリエンテーション
2月4日	13:05 ～ 16:00	【講義・演習】 「介護の日本語研修」 日本語教師・介護福祉士 関尾 光恵氏
	16:00 ～ 17:00	同上
		1 大切な情報を読む 2 声掛け傾聴 3 問題発生時の対応
		1 小テスト 2 まとめ

日時	研修科目／講師名	研修内容
2月18日	13:00 ～ 16:00	【講義・演習】 「介護の日本語研修」 日本語教師・介護福祉士 関尾 光恵氏
	16:00 ～ 17:00	同上
		報告・申し送りの方法
		1 小テスト 2 まとめ

日時	研修科目／講師名	研修内容
2月25日	13:00 ～ 16:00	【講義・演習】 「介護の日本語研修」 日本語教師・介護福祉士 関尾 光恵氏
	16:00 ～ 17:00	同上
	17:00	閉講
		介護記録の書き方
		1 小テスト 2 まとめ

【ひょうご外国人介護実習支援センター】

1 研修名	介護技術向上研修		
2 種 別	県指定管理研修・ <b>県補助研修</b> ・自主研修	3 参加費	無料
4 目 的	介護福祉士国家試験模擬試験の実施・解説を通じ介護技術の向上を図る。		
5 期 日	令和6年12月18日(水)・25日(水) 令和7年1月8日(水)	6 場 所	12月18日：県福祉人材研修センター その他はZoomによるオンライン
7 対 象 者	外国人介護技能実習生等		
8 受講人数	27人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
12 月 18 日	9:55	開講/オリエンテーション	
	10:00 ～ 12:30	【模擬試験】 介護福祉士国家試験模擬試験	模擬試験
	13:35 ～ 16:35	同上	同上

日時	研修科目／講師名	研修内容	
12 月 25 日 ・ 1 月 8 日	13:00 ～ 16:00	【講義・演習】 介護福祉士国家試験模擬試験解説 社会福祉法人ウエルライフ 介護福祉士養成施設篠山学園 教務主任 早瀬 亮子氏	模擬試験解説
	16:00 ～ 17:00	同上	模擬試験解説 小テスト

【運営適正化委員会】

1 研修名	福祉サービスに関する苦情解決セミナー		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	3,000円
4 目的	福祉サービスの利用者が安心してサービスを利用できるよう、また福祉事業者の社会的信頼性の向上のため、福祉サービスに関する苦情への対応の課題、解決のポイント等について理解を深め、事業所内での適切な解決に資する。		
5 期日	令和6年11月14日(木)	6 場所	芦屋市民会館
7 対象者	福祉サービス事業所職員、苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員等		
8 受講人数	96人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
13:30	開会／オリエンテーション		
13:30 ～ 13:40	【講義】 「苦情解決の仕組み ～社会福祉事業の経営者による 苦情の解決～」 兵庫県福祉サービス運営適正化委員会 事務局長 野田 哲也	社会福祉事業の経営者による苦情の解決の体制と手順	
11 月 14 日	13:40	【講義】 「福祉施設における苦情への対応」 大阪公立大学名誉教授 関川 芳孝氏	1 苦情解決の仕組み 2 苦情申し立ての状況 3 苦情解決の考え方 4 苦情解決の留意点
	13:40 ～ 15:10	【講義】 「利用者からのハラスメント対応の 問題点・注意点」 SIN 法律労務事務所 弁護士 藤田 翔一氏	1 カスハラとは 2 カスハラの分類 3 カスハラ対策の基本的な考え方 4 カスハラの事前抑止策 5 カスハラ対応のための組織体制の整備 6 カスハラ発生時の対応 7 カスハラ発生後の対応
15:20 ～ 16:20	【グループワーク】 助言者：関川 芳孝氏 藤田 翔一氏	各グループに分かれて事例検討・発表	
16:30	閉会		

【兵庫県地域包括・在宅介護支援センター協議会】

1 研修名	講演会		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料 (非会員 4,000 円)
4 目 的	地域包括ケアシステムの構築に向け、今後の展望・展開方策等を検討する。		
5 期 日	令和 6 年 6 月 26 日 (水)	6 場 所	兵庫県福祉センター
7 対 象 者	地域包括支援センター、在宅介護支援センター職員		
8 受講人数	33 人		

●講 師 関西学院大学 人間福祉学部 社会福祉学科 教授 池埜 聡氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
14:30	開会	
6 月 26 日 14:30	【講義】 「地域包括支援センター・在宅介護支援センターの専門職のためのマインドフルネス ～瞑想から始めるストレス軽減の方法を学ぶ～」	ストレス対処法としての“マインドフルネス”について理解を深めるとともに、瞑想から始めるストレス軽減の方法を学ぶ。
16:30	閉会	

【兵庫県地域包括・在宅介護支援センター協議会】

1 研修名	新任職員研修会		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	1,000円 (非会員 8,000円)
4 目 的	地域包括支援センター・在宅介護支援センターとして求められる役割・機能を理解し、制度動向や実践に必要な知識技術を学ぶ		
5 期 日	令和6年5月21日(火)	6 場 所	兵庫県福祉センター
7 対 象 者	地域包括支援センター、在宅介護支援センター職員		
8 受講人数	52人		

●講 師 兵庫県対人援助研究所 主宰 稲松 真人氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:30	開会	
5月21日 10:30	【講義】 「地域包括・在宅介護支援センターの役割と相談援助に必要なコミュニケーションスキル」	センター職員の基本となる知識や視点を学習するとともに、相談援助に必要なコミュニケーションスキルについて理解を深める。
16:30	閉会	

【兵庫県地域包括・在宅介護支援センター協議会】

1 研修名	第1回職員研修会		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	1,000円 (非会員 8,000円)
4 目 的	地域包括支援センター・在宅介護支援センターとして求められる役割・機能を理解し、制度動向や実践に必要な知識技術を学ぶ		
5 期 日	令和6年12月12日(木)	6 場 所	兵庫県中央労働センター
7 対 象 者	地域包括支援センター、在宅介護支援センター職員		
8 受講人数	52人		

●講 師 株式会社ひとまち 代表取締役 ちよん せいこ氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
12月12日	開会	
10:30	【講義・演習】 「地域包括ケア・多職種連携をすすめる ホワイトボードケース会議の進め方」	会議の場面で役立つ実践力、技術力を高めるため、ホワイトボードを用いたケース会議（ミーティング）の進め方について学ぶ。 ・基本的な考え方 ・ホワイトボードケース会議の演習等
16:30	閉会	



【兵庫県地域包括・在宅介護支援センター協議会】

1 研修名	第2回職員研修会		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	1,000円 (非会員 8,000円)
4 目的	地域包括支援センター・在宅介護支援センターとして求められる役割・機能を理解し、制度動向や実践に必要な知識技術を学ぶ		
5 期日	令和7年3月19日(水)	6 場所	Zoomによるオンライン
7 対象者	地域包括支援センター、在宅介護支援センター職員		
8 受講人数	64人		

●講師 特定非営利活動法人やどかりプラス 理事長 芝田 淳氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
10:00	開会	
3月19日 10:00	【講義】 「身寄りがない人の権利擁護と権利擁護支援のための地域のネットワークづくり ～『身寄り』問題について考える～」	身寄りがない人の権利擁護の視点から身寄り問題の基本的考え方や対応の方向性、地域のネットワークづくりについて理解を深める。
12:00	閉会	

【兵庫県ホームヘルプ事業者協議会】

1 研修名	管理者研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料 (非会員 4,000 円)
4 目 的	事業管理者として取り組むべき課題と対応策を学ぶ		
5 期 日	令和 6 年 6 月 19 日 (水)	6 場 所	Zoom によるオンライン
7 対 象 者	事業管理者		
8 受講人数	59 人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
14:00	開会	
14:00	<b>【行政説明】</b> 「令和 6 年度介護報酬改定および 県の施策について」 兵庫県福祉部高齢政策課 介護基盤整備班(高年施設担当) 主幹 吉田 虎嗣氏	令和 6 年度介護報酬改定の動向および処遇改善加算を取得するための方策を学ぶ。
14:40	<b>【講義】</b> 「今後の訪問介護事業所経営の あり方について」 兵庫県立大学大学院社会科学部 客員教授 馬袋 秀男氏	訪問介護事業所における経営分析の手法や経営戦略の立て方、安定したサービス提供を継続するために事業所側で出来る方策を学ぶ。
16:10	閉会	

【兵庫県ホームヘルプ事業者協議会】

1 研修名	サービス提供責任者研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料 (非会員 4,000 円)
4 目 的	サービス提供責任者の資質向上を図る		
5 期 日	令和6年11月19日(火)	6 場 所	Zoomによるオンライン
7 対 象 者	サービス提供責任者		
8 受講人数	54人		

- 講 師 株式会社介護共育研究会 代表 石川 立美子氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
11月19日	13:30 開会	
	13:35 【講義】 「サービス提供責任者における 基本的な業務について」	介護保険法における訪問介護の位置づけやサービス提供責任者の基本的な業務内容について学ぶ
	15:45 【オンラインサロン】	業務における悩みや困りごとをグループごとに出し合いながら、各々の取り組みを共有。講師のアドバイスも受けながら、解決の糸口を導き出す。
	16:30 閉会	

【兵庫県ホームヘルプ事業者協議会】

1 研修名	サービス提供責任者研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	無料 (非会員 4,000 円)
4 目 的	サービス提供責任者の資質向上を図る		
5 期 日	令和7年3月13日(木)	6 場 所	Zoomによるオンライン
7 対 象 者	サービス提供責任者		
8 受講人数	44人		

- 講 師 日本ペップトーク普及協会 認定講師 おやの めぐみ氏

●プログラム

日時	研修科目	研修内容
13:30	開会・オリエンテーション	
13:35	【講義・演習】 「ペップトークが生み出す モチベーションアップ」	自分自身や他者に対するモチベーションアップ等に使われるコミュニケーションスキルの一つ「ペップトーク」の概要や活用方法について学ぶ。
13:50	閉会	

【福祉事業部（経営協）】

1 研修名	7月例会		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	会員法人：無料 非会員法人：5,000円
4 目 的	社会福祉法人の経営者が、自身の法人のガバナンスの強化に向けた実際の取組みを紹介し、「利用者」と「職員」を守り、法人の未来を決めていく重要な判断を行う上でのPOINTについて理解を深める		
5 期 日	令和6年7月19日(金)	6 場 所	神戸クリスタルホール オンラインとハイブリット
7 対 象 者	会員法人の理事長・理事・施設長・職員		
8 受講人数	129人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
1 月 31 日	13:30 【開会あいさつ】 兵庫県社会福祉法人経営者協議会 会長 谷村 誠氏	
	13:50 ～ 14:50 【基調講義】 社会福祉法人経営強化検討委員会 委員 弁護士 中井 俊輔氏	1 『ガバナンス編』報告書から、「ガバナンスの機能」「ガバナンスがもたらす効果」などについて解説 2 歴史的背景も踏まえ、「社会福祉法人特有のガバナンス」についても説明
	14:50 ～ 16:30 【パネルディスカッション】 「ガバナンス強化による社会福祉法人の未来 利用者と法人を守る道とは」 〔登壇者〕県経営協 経営強化検討委員会委員 高齢：社会福祉法人神戸福生会 理事長 大和田 理紗氏 障害：社会福祉法人祉友会 理事長 柴田 健吾氏 保育：社会福祉法人勝原福祉会 常務理事 梅野 高明氏 〔コメンテーター〕経営強化検討委員会委員 弁護士 中井 俊輔氏 〔進行〕兵庫県経営協 会長 谷村 誠氏	社会福祉法人の経営者が、自身の法人のガバナンスの強化に向けた実際の取組みを紹介し、「利用者」と「職員」を守り、法人の未来を決めていく重要な判断を行う上でのPOINTについて理解を深める
	16:30 ～ 16:45 【事業紹介】 「神戸市外国人介護職員確保事業について」	
	16:45 【閉会あいさつ】 兵庫県社会福祉法人経営者協議会 副会長 蓬萊 和裕氏	

1 研修名	法人経営トップセミナー		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・ <b>自主研修</b>	3 参加費	会員法人：無料 非会員法人：35,000円
4 目 的	社会福祉法人における今後の人材の捉え方や、開発的・創造的な実践の土台となる組織づくり、人づくりの要諦を探る。		
5 期 日	令和6年12月20日(金)	6 場 所	マーカスクエア神戸 オンラインとハイブリッド
7 対 象 者	会員法人の理事長・理事・施設長・職員		
8 受講人数	78人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
12 月 20 日	13:00 【開会挨拶】 兵庫県社会福祉法人経営者協議会 会長 谷村 誠	
	13:15 ～ 14:15 【基調講演】 『幸福追求型の社会福祉法人経営-共生のまち づくりへの挑戦』 社会福祉法人佛子園 理事長 雄谷 良成氏	1 社会福祉法人「佛子園」の実践(地域住民と施設利用者、職員が自然に交流し、支え合う「ごちゃまぜ」福祉)の実践の背景にある理念と考え方、組織づくりのポイント 2 「創造的復興」に向けた社会福祉法人の役割と人材づくり
	14:15 ～ 15:00 【基調講演】 「人口減少時代における人財活躍社会の道筋」 NHK放送文化研究所 世論調査部 部長 熊田 佳代子氏	1 人口減少社会における人材確保の課題 2 人材戦略の考え方・工夫
	15:15 ～ 16:45 【パネル討議】 「福祉“人財”の活躍を支える法人経営 -幸福追求型の社会福祉法人を目指して-」 兵庫県社会福祉法人経営者協議会 副会長 石田 文徳氏 社会福祉法人佛子園 理事長 雄谷 良成氏 NHK放送文化研究所 世論調査部 部長 熊田 佳代子氏 <コーディネーター> 兵庫県社会福祉法人経営者協議会 副会長 澤村 安由里氏	1 人口減少時代における福祉人材確保の在り方について 2 幸福追求型の社会福祉法人を目指した福祉“人財”の活躍を支える法人経営
	16:45	閉会

1 研修名	社会福祉法人のための財務セミナー		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	会員法人：無料
4 目 的	日本公認会計士協会兵庫会の専門家の協力のもと、全国経営協が開発した「経営協ドック」を用いて、財務分析など法人組織の基盤強化に向けた手法などを学ぶ。		
5 期 日	令和7年1月31日(金)	6 場 所	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
7 対 象 者	会員法人の理事長・理事・施設長・職員/日本公認会計士協会兵庫会の会員も対象		
8 受講人数	64人(経営協会員43人/公認会計士21人)		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
1 月 31 日	13:25 【開会挨拶】 日本公認会計士協会兵庫会 会長 坂井 浩史氏	
	13:30 ～ 14:15 【行政報告】 兵庫県福祉部総務課 法人指導官 三木 水奈子氏	1 社会福祉法人の指導監査の状況 2 社会福祉法人の合併・事業譲渡の状況
	14:15 ～ 14:45 【講義】 「経営協ドック目指すもの」 全国社会福祉法人経営者協議会 制度・政策委員会 経営協委員会 経営分析・改善支援チーム 柏瀬 善彦氏	「経営協ドック」が目指すものを解説し、項目ごとに活用できるツールを紹介
	14:45 ～ 15:45 【パネルディスカッション】 「社会福祉法人の経営改善と公認会計士による専門官支援について」  <パネリスト> 社会福祉法人三翠会 理事 統括施設長 前川 嘉彦氏 社会福祉法人みかり会 理事長補佐 幼保連携型こども園 心の森 園長 堤 正典氏 日本公認会計士協会兵庫会 公認会計士 岡村 新平氏 日本公認会計士協会兵庫会 公認会計士 花崎 敏氏  <コーディネーター> 日本公認会計士協会兵庫会 非営利法人委員長 森山 恭太氏	1 経営協ドックを活用した財務分析を使用した法人への専門家支援の実践を報告 2 経営協ドックをした社会福祉法人からの感想と活用が期待できる機能について 3 専門家として個別支援を行う上での抑えておくべき視点について
	16:00 ～ 17:30 【グループワーク】 「経営協ドックを体験 ～分析データを活用した実習及びグループ ディスカッション～」  <講師> 柏瀬 善彦氏	1 「経営協ドック」を体験 2 「問診表」体験・解説 3 「財務分析」体験・解説 4 「内部環境診断」等の解説 5 「自己分析シート」体験・解説 6 グループディスカッション
17:30	【閉会あいさつ】	

【福祉事業部（青年協）】

1 研修名	社会福祉法人経営計画策定リーダー養成ゼミナール		
2 種別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	会員法人：30,000円 非会員法人：100,000円
4 目的	「社会福祉法人経営計画策定ワークブック」をテキストとし、各法人において経営計画を策定するリーダーを養成する。		
5 期日	【第1回】令和6年9月17日（火） 【第2回】令和6年10月18日（金） 【第3回】令和6年11月22日（金） 【第4回】令和6年12月17日（火） 【第5回】令和7年2月13日（木）	6 場所	【第1回・第4回】 兵庫県学校厚生会館 【第2回・第5回】 原田の杜ギャラリー 【第3回】 福祉センター
7 対象者	社会福祉法人の若手経営者及び幹部職員等		
8 受講人数	27人（7法人）		

●講師 兵庫県立大学 社会科学研究科 経営専門職専攻 教授 當間 克雄氏

●プログラム

日時		研修科目	研修内容
9月17日	13:30 ～ 16:50	【講義】 「社会福祉法人における 経営計画策定の意義」 【講義・演習】 「経営理念の確認及び ビジョンの設定について」	1 経営計画の必要性について 2 経営理念に基づいた3年後のあるべき姿（ビジョン）の設定
10月18日	10:30 ～ 15:50	【講義・演習】 「法人の現状分析とSWOT分析」 「経営課題の抽出と経営戦略の策定」	1 法人内部（強み・弱み）及び外部（機会・脅威）の状況分析 2 経営課題の抽出、経営課題を克服するための方策（経営戦略）づくり
11月22日	13:30 ～ 17:00	【講義・演習】 「戦略マップづくりと バランス・スコアカード（BSC）」	1 バランス・スコアカードについて 2 ビジョン達成までの道筋（ストーリー）の作成
12月17日	13:30 ～ 16:20	【講義・演習】 「BSCを活用した経営計画の作成」	経営戦略から具体的な行動計画の作成
2月13日	13:30 ～ 15:40	【講義】 「計画策定後の進捗管理について」	計画策定後の組織内での進捗管理の手法について



1 研修名	定例研修会		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	会 員：無料 非会員：5,000円
4 目 的	各種社会福祉制度改革の動向や法人・施設経営に関する課題、マネジメント手法等の学びを深めるとともに、会員相互の研鑽と資質向上を図る。		
5 期 日	【第1回】令和6年9月20日(金) 【第2回】令和7年2月21日(金)	6 場 所	兵庫県学校厚生会館
7 対 象 者	社会福祉法人の若手経営者及び幹部職員等		
8 受講人数	【第1回】65人 【第2回】41人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容	
9月20日	13:30	開会	
	13:40 ～ 14:10	【講演Ⅰ】 「供給制約時代の人材育成 ～愛生会での私の役割とリーダー育成について～ 全国社会福祉法人経営青年会 会長 村木 宏成氏	1 次代の人材を輩出する施設づくりのポイントや特徴について 2 全国青年会としての取り組みについて
	14:20 ～ 15:30	【講演Ⅱ】 「人が集める・人を魅せる バズる施設の作り方」 社会福祉法人やまゆりの里 施設長 首藤 風氏	「人が集まる、人を魅せる」施設の作り方の秘訣について
	15:40 ～ 16:40	【全体会】 「もっともっと聞きたい！ バズる施設の作り方」 社会福祉法人やまゆりの里 施設長 首藤 風氏 兵庫県社会福祉法人経営者協議会・青年協議会 代表 坂本 和恵氏	参加者から寄せられた質問や相談、SNSについてのアドバイスなど
	16:40	閉会	
2月21日	10:45	開会／オリエンテーション	
	10:55 ～ 12:00	【講義】 「コーチングを生かしたスタッフ育成術 —理論編—」 コミュニケーションオフィス3SunCreate 代表／介護・医療職専門コーチ 三田村 薫氏	1 1オン1ミーティングについて 2 コミュニケーションの構造理解について
	13:15 ～ 16:35	【講演・演習】 「実践編 今日から使えるコミュニケーション術」 コミュニケーションオフィス3SunCreate 代表／介護・医療職専門コーチ 三田村 薫氏	1 4つの人タイプにわけた効果的なコミュニケーションの取り方と現場で活用できるコミュニケーションについて
	16:35	閉会	

1 研修名	視察研修		
2 種 別	県指定管理研修・県補助研修・自主研修	3 参加費	会 員：5,000円
4 目 的	会員同士の横の繋がりを緊密にすることを目的とし、県内法人の視察し、地域や種別を問わず様々な社会福祉法人の取組みを学ぶ。		
5 期 日	令和7年3月11日(火)	6 場 所	社会福祉法人弘陵福祉会 特別養護老人ホーム六甲の館
7 対 象 者	社会福祉法人の若手経営者及び幹部職員等		
8 受講人数	16人		

●プログラム

日時	研修科目／講師名	研修内容
13:00	開会／オリエンテーション	
13:15 ～ 14:00	施設見学	ICTの活用現場を見学
3 月 11 日 14:10 ～ 15:10	【講義】 「利用者ファーストのための職員ファースト ～生産性向上で働きやすい職場環境づくり～」 社会福祉法人弘陵福祉会 特別養護老人ホーム六甲の館 理事長・施設長 溝田 弘美氏	1 職員がいきいきと働きやすい職場づくりを進めるためのヒント 2 現場でのICTの活用について
16:00	閉会	

## 5 兵庫県福祉人材研修センター（概要）

- ◆名称 兵庫県福祉人材研修センター
- ◆所在地 〒650-0004 神戸市中央区中山手通7丁目28番33号  
(TEL) 078-367-3001 (FAX) 078-367-4522
- ◆ホームページ <https://hfkensyu.com/>



- ◆事業
  - ア 社会福祉従事者に対する研修
    - ① 新任研修（新任職員に向けた職務の遂行に必要な基礎的知識及び技術の修得）
    - ② 専門研修（職務の遂行に必要な専門的知識及び技術の修得）
  - イ その他社会福祉に関する研修
  - ウ 上記ア、イについての調査研究
- ◆沿革
  - 昭和45年3月 兵庫県社会福祉研修所設置条例制定  
(昭和45年3月31日兵庫県条例第17号)
  - 昭和45年3月 兵庫県社会福祉研修所規則制定  
(昭和45年3月31日兵庫県規則第16号)
  - 昭和45年4月 兵庫県行政組織規則一部改正  
(昭和45年4月1日兵庫県規則第21号)
  - 昭和45年4月 兵庫県社会福祉研修所開設  
(神戸市生田区下山手通5丁目1 県南庁舎（現公館）)

昭和 46 年 3 月	兵庫県社会福祉研修所の設置及び管理に関する条例一部改正 (昭和 46 年 3 月 25 日兵庫県条例第 17 号)
昭和 46 年 3 月	兵庫県行政組織規則一部改正 (昭和 46 年 3 月 31 日兵庫県規則第 23 号)
昭和 48 年 4 月	兵庫県社会福祉研修所の設置及び管理に関する条例一部改正 (昭和 48 年 3 月 31 日兵庫県条例第 20 号)
昭和 50 年 5 月	神戸市葺合区坂口通 2 丁目 1 番 18 号(兵庫県福祉センター3階) へ庁舎移転
昭和 55 年 11 月	兵庫県社会福祉研修所の設置及び管理に関する条例の一部改正 (昭和 55 年 11 月 21 日兵庫県条例第 43 号) により葺合区を中央区に名称変更
昭和 59 年 4 月	兵庫県社会福祉研修所の設置及び管理に関する条例の一部改正 (昭和 59 年 3 月 28 日兵庫県条例第 10 号) により研修所の管理 を社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会に委託
昭和 59 年 4 月	社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会において、定款及び事務局 等組織規程を改正し、研修所の管理を受託
平成 11 年 4 月	神戸市中央区坂口通 2 丁目 1 番 23 号へ庁舎移転
平成 18 年 4 月	神戸市中央区中山手通 6 丁目 1 番 30 号へ暫定移転
平成 31 年 3 月	兵庫県社会福祉研修所の設置及び管理に関する条例の一部改正 (平成 30 年 3 月 22 日兵庫県条例第 21 号) により兵庫県福祉人 材研修センターの設置及び管理に関する条例に題名改正
平成 31 年 3 月	神戸市中央区中山手通 7 丁目 28 番 33 号へ庁舎移転、現在に至る

# 兵庫県福祉人材研修センターを ご活用ください

## ■ ホームページで内容確認から申込まで可能！

- 福祉現場で働く役職員の皆様等を対象とした各種研修を実施しています。
- 募集案内は「当研修センターホームページ」に掲載しています。
- 参加したい研修へは、ホームページ上でそのままお申込みが可能です。ぜひ「研修センターホームページ」の**お気に入り登録**をお願いします。

- ・ 右記の二次元コードを読み込むと、ホームページへすぐにアクセス！
- ・ それ以外の方は、検索サイトで「**兵庫県福祉人材研修センター**」と入力し、検索してください

兵庫県福祉人材研修センター 🔍



## ■ 『研修のご案内 2025』をお手元にぜひ！

- 研修センターの利用ガイド冊子『**研修のご案内 2025**』を発行しました。
- ホームページからそのままダウンロードが可能です。ぜひご活用ください。

- ・ 右記の二次元コードを読み込むと、表示されます。年間の研修予定などがご覧いただけます
- ・ ホームページからは、トップページ中段にある『**研修のご案内**』（年間予定等）をクリックしてください



## ■ メールマガジンへご登録ください

- 研修募集開始など、タイムリーな情報を「**メールマガジン**」にてお知らせします。
- ホームページにアクセスし、必要な情報を入力するだけで登録が可能です。
- 法人・施設・事業所の管理者様、研修ご担当者様など、登録がまだお済みでない方は、この機会にぜひご登録ください。

兵庫県社会福祉協議会 福祉人材研修センター

650-0004 神戸市中央区中山手通7-28-33



078-367-3001



078-367-4522

<https://www.hfkensyu.com/>

令和7年度 兵庫県社会福祉協議会 社会福祉研修概要

発行：令和7年5月

社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会

福祉人材研修センター

〒650-0004 神戸市中央区中山手通 7-28-33

TEL:078-367-3001 FAX:078-367-4522

URL:<https://hfkensyu.com/>